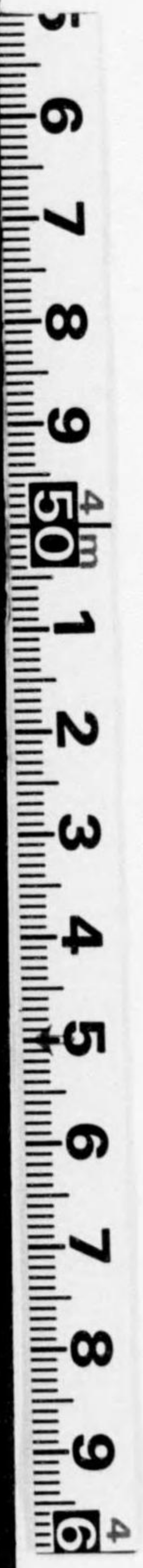


14. 21-609

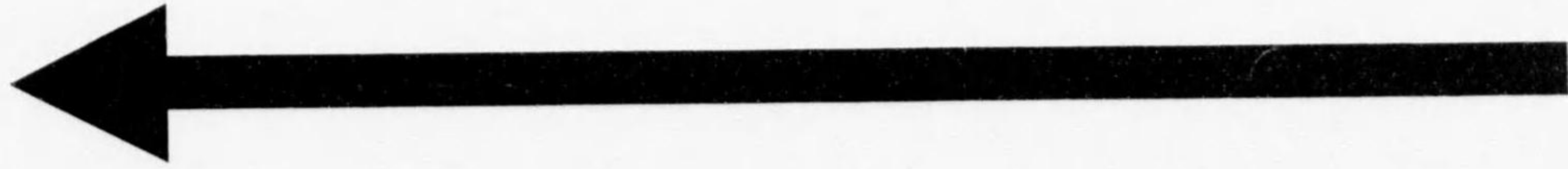


1.21

79



始



昭和元年度業務報告

千葉縣農事試驗場

種藝部 目次

第一 水稻

耕種梗概	一
一、原種育成	五
二、豐凶考照試驗	六
三、品種比較試驗	七
四、釀造米品種比較試驗	九
五、品種比較像備試驗	〇
六、純系淘汰	〇
イ、第三回愛國種純系淘汰	〇
ロ、大和錦種純系淘汰	一
ハ、上總溢種純系淘汰	二
ニ、大和力種純系淘汰	二
ホ、關取種純系淘汰	四
ヘ、張種純系淘汰	五
ト、三次郎糯種純系淘汰	六



以行所寄贈本



14.21-609

二

チ、水嶋種純系淘汰……………一七七

七、苗代試験……………一七七

イ、畑苗代試験……………一七八

ロ、苗代播種法試験……………一九九

八、經濟的增收試作……………一九九

九、早中晩各種ニ關スル試験……………一九九

イ、移植期試験……………二〇〇

ロ、株數試験……………二〇二

ハ、一株本數試験……………二〇三

一〇、稻架乾燥試験……………二〇三

一一、多肥栽培試作……………二〇三

第二 陸 稻

耕種梗概……………二二五

一、豊凶考照試験……………二二八

二、品種比較試験……………三〇〇

三、品種比較豫備試験……………三〇一

四、純系淘汰……………三〇二

イ、三太郎種純系淘汰……………三〇二

ロ、凱旋種純系淘汰……………三〇二

三  
合  
本

第三 麥

耕種梗概……………三三八

一、原種育成……………三四四

二、豊凶考照試験……………三四五

三、大麥品種比較試験……………三四五

四、小麥品種比較試験……………四四六

五、裸麥品種比較試験……………四四八

六、元畿内支場育成新品種試作……………四四九

七、純系淘汰……………五〇〇

イ、小麥細稈種純系淘汰……………五一五

ロ、大麥第二回ゴールデンメロン種純系淘汰……………五一五

- ハ、小麥白皮種純系淘汰.....五二
- ニ、小麥赤神樂種純系淘汰.....五二
- ホ、小麥白神樂種純系淘汰.....五三
- ヘ、小麥相州種純系淘汰.....五三
- ト、大麥坊主種純系淘汰.....五三
- チ、大麥第一回ゴードンメロン種純系淘汰.....五四
- リ、小麥達摩種純系淘汰.....五四
- 八、利用面積ト施肥量關係試驗.....五五
- 九、大麥增收試作.....五六

第四 雜 穀

- 耕種梗概.....五六
- 一、各種品種比較試驗.....五九
- 二、大豆播種期試驗.....六〇
- 三、小豆播種期試驗.....六〇
- 四、大豆生娘種純系淘汰.....六一
- 五、落花生播種期對株間試驗.....六二

第五 農林省指定試驗

- 一、製粉用小麥品種比較試驗.....六三

第六 綠肥用作物

- 耕種梗概.....七〇
- 一、大麥踏壓土入回数試驗.....七四
- 二、大麥播種法試驗.....七五
- 三、ザアトウイッケン畦立試驗.....七五
- 四、裏作綠肥品種比較試驗.....七六

第七 水田裏作

- 耕種梗概.....七〇
- 一、製粉用小麥肥料試驗.....六四
- 二、落花生品種試驗.....六六
- 三、落花生純系淘汰 (其ノ一).....六七
- 四、落花生純系淘汰 (其ノ二).....六七
- 五、落花生純系淘汰 (其ノ一).....六七
- 六、落花生肥料試驗 (其ノ一).....六八
- 七、落花生肥料試驗 (其ノ二).....六九

第八 農具試驗

- 一、畜力耕耘機ニ關スル試驗.....七七
- 二、水田用中耕除草器ニ關スル試驗.....八三
- 三、改良農具實演會ニ關スル事項.....九一

第九 委託試驗

- 一、水稻系統比較試驗……………九二
- イ、中生愛國系統比較試驗……………九二
- ロ、大和力系統比較試驗……………九二
- ハ、上總溢系統比較試驗……………九四
- ニ、早生愛國系統比較試驗……………九四
- ホ、大和錦系統比較試驗……………九五
- 二、裸麥品種比較試驗……………九五
- 三、小麥神樂種系統比較試驗……………九六
- 四、製粉用小麥品種比較ノ試驗……………九七
- 五、「ザアトウ井ツケン」及「セラデラ」梨園間作試驗……………九八
- 六、「ザアトウ井ツケン」原野堤塘栽培試驗……………九八
- 七、「ザアトウ井ツケン」採種試驗……………九九

化學部

第一 一般試驗

- 甲、夏作之部
  - 一、肥料三要素試驗……………一〇〇
  - 二、肥料三要素適量試驗……………一〇二

乙、冬作之部

- 一、肥料三要素試驗……………一二三
- 二、肥料三要素適量試驗……………一二四
- 三、窒素質肥料肥効比較試驗……………一二六
- 四、磷酸質肥料肥効比較試驗……………一二七
- 五、加里質肥料肥効比較試驗……………一二九
- 六、「ザアトウキツケン」ニ對スル肥料試驗……………一三〇
- 七、大豆粕施用法試驗……………一三〇
- 八、過磷酸石灰施用法試驗……………一三一
- 九、釀造用大麥ニ對スル肥料試驗……………一三二
- 三、土壤中塩分含有量ニ依ル稻作被害程度試驗……………一〇五
- 四、水稻作ニ對スル塩分被害時期試驗……………一〇六
- 五、苗代肥料試驗……………一〇八
- 六、硫酸アムモニヤ施用時期試驗……………一二二
- 七、土性別ニ依ル石灰窒素施用量及施用時期ト插秧期關係試驗……………一二三
- 八、窒素及磷酸ト水稻ノ分蘖トノ關係試驗……………一二六
- 九、同一肥料ニ依ル乾田(休閑中)ト濕田トノ收量比較試驗……………一二〇
- 一〇、大豆ニ對スル肥料三要素及石灰加用試驗……………一二一

第二 分析

甲、場用分析.....一三四  
乙、依頼分析.....一三五

第三 施肥標準調査

一、施肥慣行調査.....一三五  
二、原地調査.....一三六  
三、栽培試験.....一三七  
    (一)ポット栽培試験.....一三七  
    (二)原地試験.....一四九  
四、土壌分析検定.....一六六

病虫部

第一 病害

一、蒟蒻ノ病害ニ關スル試験.....一六七  
    (一)腐敗病.....一六七  
    (二)白絹病.....一六八  
    (三)蒟蒻ネマトーダ豫防ニ關スル試験.....一六九  
二、小麥稈黑穂病豫防ニ關スル試験.....一六九

三、麥黑穂病豫防ニ關スル試験.....一七〇  
四、野蜀葵菌核病豫防試験.....一七一  
五、土壤消毒劑ノ効果ニ關スル試験.....一七二  
六、ビール麥ノ立枯病ニ關スル試験.....一七二

第二 害蟲

一、二化螟虫ニ關スル試験及調査.....一七四  
二、稻椿象ニ關スル試験及調査.....一七七  
三、菜ノ螟蛾ニ關スル調査並ニ試験.....一八二  
四、農作物ニ對スル砒酸鉛ノ有害作用ニ關スル調査.....一八四  
五、病菌害虫ノ培養飼育.....一八五  
六、野鼠チブス菌ノ培養配付.....一八五

第三 委託試験

一、小麥稈黑穂病豫防ニ關スル試験.....一八六  
二、麥黑穂病豫防ニ關スル試験.....一八七  
三、梨姬心喰虫防除ニ關スル試験.....一八八  
四、柑橘樹脂病豫防ニ關スル試験.....一八九

第四 病菌害虫ニ關スル各府縣連絡調査

- 一、病菌害虫ノ被害ト品種トノ關係調査.....一八九
- 二、稻熱病ノ豫防法ニ關スル連絡試験.....二〇六
- 三、二化性螟虫第二化期被害額並ニ被害率ニ關スル連絡調査.....二〇七

第五 農林省委托試験

- 麥赤黴病豫防ニ關スル試験.....二一六

園藝部

第一 蔬菜

- 一、品種比較試験.....二二八
  - イ、茄.....二二八
  - ロ、蕃茄.....二三〇
  - ハ、越瓜.....二三二
  - ニ、甜瓜.....二三三
  - ホ、馬鈴薯.....二三五
  - ヘ、甘藷.....二三七
  - ト、里芋.....二三九
  - チ、草苺.....二四一
  - リ、葱.....二四三

二、栽培法試験

- イ、越瓜摘心試験.....二四四
- ロ、甜瓜摘心試験.....二四六
- ハ、白菜栽培試験.....二四七
- ニ、甘藷挿植法試験.....二四九
- 三、特殊栽培試験.....二五〇
- 四、貯藏試験.....二五四
  - イ、甘藷品種貯藏力試験.....二五四
  - ロ、甘藷貯藏方法試験.....二五五
  - ハ、薑貯藏法試験.....二五七
- 五、見本栽培.....二五八

第二 果樹

- 一、梨品種試験.....二六〇
- 二、梨施肥方法ニ關スル試験.....二六五
- 三、梨棚作り整枝方法試験.....二六七
- 四、梨施肥期試験.....二六九
- 五、葡萄品種試験.....二七六
- 六、葡萄整枝方法試験.....二七九
- 七、葡萄冬季剪定法試験.....二八二



一一

八、葡萄夏季剪定回数試験	二八四
九、葡萄摘果試験	二八六
十、葡萄施肥方法試験	二八八
十一、葡萄磷酸質肥料試験	二九〇
十二、硝子室葡萄品種特性調査	二九四
十三、桃品種試験	二九六
十四、桃客土ニ關スル試験	二九九
十五、桃豫備枝剪定法試験	三〇一
十六、桃斷根試験	三〇三
十七、桃石灰加用量試験	三〇五
十八、枇杷窒素質用量試験	三〇七
十九、枇杷磷酸用量試験	三一〇
二十、枇杷加里用量試験	三一三
二十一、品種試験	三一六
二十二、柿品種試験	三一九
二十三、品種特性調査	三二二

### 第三 花 卉

一、花卉經濟試験	三二八
二、薔薇品種試験	三三一

三、牡丹品種試験	三三五
四、グラヂヲラス植込時期試験	三三八
五、花卉採種ニ關スル試験	三四〇

### 第四 特用作物

一、茶樹仕立法試験	三四三
二、苜蓿肥料試験	三四四

### 第五 品種改良

(一) 蔬菜ニ關スル試験	三四七
イ、南瓜黒皮純系淘汰	三四七
ロ、胡瓜節成純系淘汰	三四八
ハ、集團淘汰	三五〇
(二) 果 樹	三五一
一、枇杷純系淘汰	三五一
二、第一回枇杷交配ニ關スル研究	三五二
三、第二回枇杷交配ニ關スル研究	三五五
四、第一回梨交配ニ關スル研究	三五七
五、第二回梨交配ニ關スル研究	三五九
六、自然生柿砧木ニ關スル研究	三六一

第六 種苗交付

(一) 蔬菜	三六六
(二) 果樹	三六六
(三) 花卉	三七二

第七 農林省甘藷指定試験

イ、品種試験	三七二
ロ、肥料試験	三七四
ハ、栽培法試験	三七六
ニ、貯藏試験	三七七

第八 果樹苗木ノ育成

(一) 一般場内果樹	三七八
(二) 副業奨励柑橘苗木養成	三八〇

第九 實地指導

(一) 蔬菜	三八二
(二) 果樹	三八二
(三) 副業奨励花卉促成栽培指導地	三八二

第十 委託試験

(一) 蔬菜ニ關スル試験	三八五
イ、促成胡瓜棚架ニ關スル試験	三八五
ロ、促成胡瓜ベト病豫防試験	三八七
ハ、西瓜摘心試験	三八九
ニ、西瓜品種別移植効果試験	三九一
果樹ニ關スル試験	三九二
イ、夏蜜柑落果豫防ニ關スル試験	三九二
ロ、温州蜜柑肥料三要素適量試験	三九七
ハ、枇杷肥料三要素適量試験	四〇一

畜産部

一、種豚ノ交付	四〇七
二、種禽ノ交付	四〇八
三、種卵ノ交付	四〇九

練習生養成部

第一 練習生養成	四一〇
----------	-----

第二 練習生教授事項…………… 四一〇  
 第三 修得生…………… 四一二

### 庶務部

一、文書收受…………… 四一三  
 二、文書發送…………… 四一三  
 三、參觀人員…………… 四一三  
 四、職員出張…………… 四一四  
 五、質問應答…………… 四一四

## 種藝部

### 第一 水稻

#### 耕種梗概

當場水稻作試験ノ中特殊ノモノヲ除ク外總テ左ノ耕種法ヲ累年施行ス

#### 苗代ノ部

一、種粃、風選及塩水選ヲ行ヒテ選種シタルモノヲ播種ニ當リ七日間浸漬ス

塩水選ノ比重左ノ如シ

種	比	重	水一斗ニ付食鹽ノ量
粃		一、二三	約 四升
糯		一、一〇	約 三升—三升五合

#### 一、整地及施肥

秋季稻刈取後方能ヲ以テ第一回耕耘ヲ行ヒ翌春四月上旬ニ第二回耕耘ヲ行ヒテ灌水シ稻刈ヲ除去スルヲ宜シトス後能ク腐熟セル堆肥及糞灰ヲ施シ攪拌ス、尙ホ數日ヲ經テ硫酸ヲ万遍ナク撒布シテ方能ヲ以テ淺ク表土ヲ搔キ土壤トヨク混合セシム、而シテ四月二十日前後即チ播種ノ約七日前ニ至リテ過燐酸石灰ヲ撒布シ直チニ第三回ノ耕耘ニ着手シ土塊ヲ細碎ス此ノ際鍬其ノ他ノ器具ニテ能ク田面ヲ均ラシ其ノ儘放置シ土壤ヲ沈定セシム翌日ニ至リ代ハ四尺トシ四邊ニ一尺ノ踏切ヲ作ル更ニ翌日再ビ溝ヲ

浚「均ラシ板」ニテ能ク代面ヲ均ラシ一旦代干ヲ行ヒテ后能ク灌水シテ其ノ儘放置シ播種當日ハ落水シテ播種ス

一、肥料(但シ一坪當)

肥料名	用量	元		肥		追		三要素量		
		第一回	第二回	種播后	播種后十五日	苗拔取五日	N	P	K	
硫酸アンモニア	四〇	三五	三〇	七〇	七〇	八・七二	六・一六	九・〇		
過磷酸石灰	三〇	三〇	三〇	七〇	七〇	八・七二	四・二〇	九・〇		
葉灰	二〇〇	六〇	三〇	七〇	七〇	八・七二	一・〇三六	九・〇		
計										

一、播種、播種期ハ四月廿五日ニテ原種田ハ一合五勺播ナレドモ其他ハ全部ニ合播トス  
 一、灌溉、葉灰撒布后ハ雨天寒天ヲ除キテハ晝夜共ニ灌水セズ單ニ溝ノミニ灌水ス、生育ニ從ヒ落水シ夜ハ灌水ス強雨ノ際ハ深水トナスベシ而シテ苗ガ一寸位(播種后十五日位)ニ生長セバ晝夜共ニ淺水トス

一、除草及病蟲害ノ驅除豫防  
 除草ハ播種后十五日ヲ經テ着手ス而シテ二化螟蟲ノ捕蛾採卵ヲ行ヒ浮塵子ハ注油陷殺ヲ行フ  
 一、苗代ノ調査  
 發芽月日及全上整否ト生育、狀況ニツキ調査ヲ行フ

本田ノ部

一、整地及施肥

稻刈取後秋冬ノ間ニ第一回耕起ヲ行ヒ翌年晩春ニ至リ畦塗ヲナシ六月上旬第二回馬耕ヲ行ヒ概肥ヲ撒布シ第三回馬耕(畦合セ)ヲ行フ而シテ灌水シ、代掻ヲ行ヒ大豆粕硫酸アンモニア(人糞尿)及強過磷酸石灰ヲ施シ馬耕シテ代掻ヲ行ヒ土塊ヲ細碎ス更ニ插秧ノ間際ニ葉灰ヲ施用シ「均ラシ板」ニテ田面ヲ平均ニス

肥料名	用量	元		肥		追		三要素量		
		第一回	第二回	田植前	播種后	播種后十五日	N	P	K	
厩肥	二五〇	二五〇	七	一〇	八〇	一・七五〇	〇・六〇〇	一・五二五		
大豆粕	七	七	七	一〇	八〇	〇・四六七	〇・一〇三	〇・一四八		
鰵粕	四六	四六	七	一〇	八〇	〇・四七八	〇・二〇二	〇・〇三〇		
硫安(人糞尿)	(一六〇)	(一六〇)	七	一〇	八〇	〇・八一六	一・三六五	〇・〇三〇		
過磷酸石灰	七	七	七	一〇	八〇	一・三六五	〇・三二五	〇・六七五		
葉灰	一五	一五	七	一〇	八〇	〇・三一五	〇・三二五	〇・六七五		

一、插秧 豫メ正條繩ヲ準備スベシ  
 (注意) 播種后凡ソ五十日ニシテ插秧スルモノトス  
 一、除草 凡ソ四回トス  
 第一回七月上旬 除草器使用(水深一―二寸)  
 第二回七月中旬 除草器手直シ(落水シテ手ニテ行フ)

第三回七月下旬 手取リ  
 第四回八月上旬 手取リ

一、灌排水 水深ハ插秧后二三日間ハ稍深クシ其ノ后ハ一寸内外トス特ニ穂孕期迄ハ灌水ニ不足ナキ様ニ注意スベシ糊熟期ニ至ラバ排水スベシ

一、除害

- 1、雀 鳴子 案山子
- 2、螟蟲 誘蛾燈點火、捕蛾採卵、被害莖刈取(出穗期ヲ可トス)  
 收穫后ノ藁及株ニツキ適當處理スルコト
- 3、浮塵子 注油陷殺
- 4、苞蟲 採取
- 5、稻麴病 馬鹿苗病ハ燒却

一、調査

詳細ハ當該調査簿ニ依ルベシ  
 イ、生育調査、項目甚多キモ茲ニ主要ナルモノヲ記載セバ次ノ如シ

葉(色、形長短、厚) 芒(有無、色、長短)  
 稈(長短、細太) 分蘗數  
 穗長(長短) 出穗期  
 成熟期 耐病性  
 倒伏難易  
 ロ、收量調査

<p>一、收穫及調製</p> <p>收穫后行フモノニシテ全時ニ品質査定ヲ行フモノトス</p> <p>收穫ハ穂首マデ黃變スルヲ俟テ行フベシ而シテ收量比較ノ際ハ番外區ヲ設ケ試驗ノ誤差ヲ少カラシムベシ次ニ種粉以外ハ晴天一週間稻架乾燥スルモノトス</p> <p>粃乾ハ一簾五升トシ二日間ヲ程度トスベシ調製ハ粃拔落後篩ニテ爽雜物ヲ除去スルモ一法ナレトモ風力ヲ利用スベシ粃ハ籬ニカケテヨク「ヌゲ」ヲ去リ便宜粃摺ヲ行ヒ調査ス其ノ完了シタルモノモ異品種ト可成混合セザルヲ宜シトス</p> <p>番外區ノ脱穀調製ハ可成動力農具ヲ利用ス</p> <p>一、採種</p> <p>特性ヲ完備セルモノヲ一本植ヨリ採種ス</p>					
種	類	品種名	配付數量	同上	計
<p>中 生</p> <p>晚 生</p>	<p>中 生</p> <p>關 取</p> <p>中 生</p> <p>晚 生</p>	<p>愛國</p> <p>關取</p> <p>神張</p> <p>神張</p>	<p>一〇、二六三<sub>石</sub></p> <p>一、二六三</p> <p>四、〇三三</p> <p>一、四〇八</p> <p>〇、七五〇</p>	<p>一七、七二七<sub>石</sub></p>	<p>計</p>
<p>一、原種育成</p> <p>次年度ニ於ケル原種圃並ニ採種圃用ニ供スベキ目的ヲ以テ縣獎勵品種愛國、關取、中生神力、神張、晚生神力ノ種子ヲ育成シ其ノ内昭和二年度採種圃用種粃トシテ左ノ如ク配付シタリ</p>					

二、豊凶考照試験

縣下ニ於ケル水稻作ノ豊凶豫察ノ資ニ供センガタメ同一品種即早生稻ニテハ上總、今泉、信州、中生稻ハ愛國、關取、大和錦、晚生稻ハ張、中生神力、晚生神力ヲ年々同一方法ニテ栽培シ定期ニ其ノ生育ヲ調査セリ、而シテ其ノ結果次ノ如シ

種別	大暑		二百十日		反當換算	
	草丈	莖數	草丈	莖數	玄米容量	一升重量
早稻三種平均	二、二三	二〇、二	二、七三	一一、五	二、〇一〇	三七六
中稻三種平均	二、〇九	二二、一	三、一七	一三、九	二、二五七	三八三
晚稻三種平均	一、九四	二五、七	三、一九	一五、八	二、三六一	三八六

試験中ニ於ケル氣候概況ニ見ルニ大暑ニ於テハ、播種後苗代期間中ハ氣温屢々低下シタル爲メ苗ノ生育平年ニ比シ稍劣リタルガ如キ感アリシモ本田移植後ノ氣候概シテ適順トナリ七月中旬ヨリハ天候頗ル良好ナリシガタメ生育ヲ恢復シ二百十日頃ニモ概ネ順調ナリシガ生育ムシロ徒長ニ過ギタリシ爲メ實收量ニ於テハ早稻及晚稻ハ何レモ約三分九厘ノ減少中稻ニ於テハ更ニ之レニ加フルニ風害ノ影響アリシ爲メ約五分一厘ノ減少ヲ示シタリ

附記 本縣下ノ稻作景況ハ概シテ普通ナリシモ一部ニ移植期ノ遅延、用水ノ不足ノ爲メニ稍不良ナル個所アリ

累年平均收量

品 種 名	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	大正十五年
早 稻	一、八二八	二、一七〇	二、〇一八	二、〇九九	二、〇一〇
中 稻	二、三三〇	二、四九三	二、二七五	二、四一九	二、二五七
晚 稻	二、三六三	二、五六〇	二、三四五	二、五六〇	二、三六一

三、品種比較試験

縣下ニ於テ廣ク栽培セラル、品種及ビ他府縣ニ於テ優良ト認メラル、品種並ニ農林省農事試験場全場元畿内支場ノ人工雜種ニシテ本縣ニ適セリト思惟セラル、品種ニ付キ本縣下ニ適セリト考ヘラル、品種ヲ査定センガタメ粳二十五品種糯八品種ニツキ試験ヲ行ヒタリ

一區七坪二區制トシ供試品種名左ノ如シ  
1、早生坊主 2、上總溢 3、吉川 4、奈良錦石一號 5、信州金子 6、早生大和力 7、常豐 8、無芝愛國 9、愛國八號 10、國益 11、撰一二號 12、大和力 13、愛國原種 14、愛國在來 15、早生一〇號 16、早生一五號 17、早生二三號 18、器量好二號 19、關取原種 20、中生神力原種 21、中生神力在來 22、張原種 23、張在來 24、晚生神力原種 25、晚生神力在來

糯  
1、小安糯 2、早生糯 3、太郎兵衛糯 4、三次郎糯 5、西ヶ原糯 6、黃金糯 7、中生糯 8、末廣糯

内比較的優良ト認めラル、モノノ成績大要左ノ如シ

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	稈 長	穂 數	反 當 收 量	一 升 重 量	收 入 年 平 均 量
無 芝 愛 國 力	八、一六	九、二九	三、〇九	九、五	二、七三六	三、七	(3)
早 生 大 和	八、二	九、二〇	二、五四	八、一	二、六四四	三、七八	(3)
愛 國 (原 種)	八、二〇	九、二九	三、二二	八、〇	二、四八五	三、八〇	(4)
中 生 神 力 (原 種)	九、四	一〇、一九	二、九六	一〇、三	二、四三三	三、七	(4)
信 州 張 (原 種)	九、八	一〇、一九	二、九四	一〇、二	二、四五六	三、八三	(4)
愛 國 金 子	八、二六	九、二〇	三、〇八	八、五	二、四〇二	三、七六	(4)
早 〇 五	八、二〇	九、二九	三、二五	一〇、五	二、三八八	三、八八	(4)
早 〇 五	八、二〇	九、二九	三、二五	一〇、五	二、三八八	三、八八	(4)
西 九	八、二四	一〇、四	三、〇四	九、八	二、三九六	三、七九	(4)
西 三	八、二六	九、二八	三、一〇	九、〇	二、二二九	三、八九	(4)
畿 六 九	八、二二	九、二八	二、九一	九、九	二、五四〇	三、八二	(4)
畿 五 八	八、二二	九、二八	二、九一	九、九	二、五四〇	三、八二	(4)

以上 粳

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	稈 長	穂 數	反 當 收 量	一 升 重 量	平 均 收 量
小 安 糯	八、一四	九、二〇	三、二	七、八	二、三九九	三、九	(5)
早 生 糯	八、一九	九、二〇	二、九二	七、九	一、八六五	三、七	(4)
太 郎 兵 衛 糯	八、二七	九、二〇	三、〇二	六、五	一、九八五	三、七	(4)
西 原 糯	八、二七	九、二〇	二、八六	八、〇	一、九八四	三、七	(3)

以上 糯

備考 粳糯共ニ( )内ノ數字ハ收量平均年數ヲ示ス

四、醸造米品種比較試験  
 縣下並ニ他府縣ニ於テ優良ト認めラルタル醸造米品種ニ付キ優良種選定ノ目的ニテ粳十三品種ニツキ  
 テ試験ヲ行ヒ左記ノモノハ成績比較的優良ナリシモノナリ

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	稈 長	穂 數	反 當 收 量	一 升 重 量	平 均 收 量
大 和 日 出 一 號	八、三〇	一〇、一五	三、四四	五、五	二、〇九一	三、六	(4)
雄 山 雄 町 穗 町	九、一	一〇、一五	三、三三	七、七	二、〇七三	三、八五	(5)
山 田 穗 町	九、七	一〇、一五	三、二〇	九、四	二、一〇九	三、八〇	(5)
雄 山 雄 町 穗 町	九、一〇	一〇、一五	三、一八	七、二	二、一四一	三、八一	(1)

雄町一山	九、七	一〇、一九	三、五二	六、二	二、〇四六	三七二	(4)	二、一八五
米	九、六	一〇、一五	三、五五	五、五	二、〇六一	三七四	(4)	二、〇六一

五、品種比較豫備試験

品種比較試験ノ前提トシテ優良品種ヲ豫選センガタメニ各府縣並ニ本縣下ヨリ蒐集セル六十品種ニ付  
 キ試験ヲ行ヒ數品種ノ比較的優良ナルモノヲ得タリ  
 即チ千葉錦(東京)保村八號(埼玉)國富一四號(群馬)陸羽一三二號(奥羽)白早生石川一號(石川)龜ノ尾  
 一號(宮城)陸羽二〇號(新潟)最上坊主四二號(福島)等ナリ

六、純系淘汰

イ、第三回愛國種純系淘汰  
 經濟的優良ナル系統(特ニ多肥栽培ニ耐フルモノ)ヲ選出センガタメニ早生種六系統中生種七系統ニ  
 付キ一區七坪二區制トシ三割増肥料ニテ栽培シ收量比較試験ヲ行ヒタルニ其ノ成績左ノ如シ  
 早生種

系統名	出穗期	成熟期	稈長	穗數	反當收量	一升重量	平均收量
九七五二	八、二四	九、二〇	三、一三	八、〇	二、五六一	三七七	二、三七五
六七八七	八、一七	九、二〇	三、五三	六、二	二、五四五	三七八	二、四七二
號號號號	八、一八	九、二二	三、〇八	七、六	二、六六六	二七七	二、五五〇
	八、一八	九、二二	三、〇八	七、六	二、六六六	二七七	二、五五〇
	八、一八	九、二二	三、〇八	七、六	二、六六六	二七七	二、五五〇
	八、一八	九、二二	三、〇八	七、六	二、六六六	二七七	二、五五〇

在九八	八、一七	九、二〇	三、三〇	六、八	二、五九五	三七七	二、四七二
來號	八、一七	九、二〇	三、二八	五、七	二、五七七	三七七	二、三九九

中生種

系統名	出穗期	成熟期	稈長	穗數	反當收量	一升重量	平均收量
在六九九七七六	八、二三	九、三〇	三、二四	七、六	二、四九八	三八五	二、五八二
〇三〇一〇五	八、二三	九、三〇	三、二二	七、五	二、五三九	三九〇	二、五六四
來號號號號號	八、二二	九、三〇	三、三二	七、三	二、三五二	三八一	二、四五六
	八、二二	九、三〇	三、三〇	八、九	二、七〇三	三八六	二、六二八
	八、二三	九、三〇	三、三〇	六、八	二、四五四	三八三	二、六五三
	八、二二	九、三〇	三、一〇	七、七	二、九〇二	三九〇	二、六七七
	八、二三	九、三〇	三、〇六	八、六	二、四五二	三八八	二、五〇〇

此ノ中次年度ニ於テ試験繼續豫定ノモノハ早生種ハ二七號ヲ除ク外ノ五系統中生種ハ六系統全部ナリ  
 ロ、大和錦種純系淘汰  
 經濟的優良ナル系統(特ニ倒伏シ難ク豊産ナルモノ)ヲ選出セントテ左ノ系統ニツキ一區七坪二區制  
 普通肥料ニテ栽培シ收量比較試験ヲ行ヒタリ其ノ成績左表ノ如シ

系統名	出穗期	成熟期	稈長	穗數	反當收量	一升重量	平均收量
系統名	出穗期	成熟期	稈長	穗數	反當收量	一升重量	平均收量



在 九 四 四 三	○ 三 ○ 九	來 號 號 號 號	八、二、五 八、二、四 八、二、五 八、二、五	一〇、三 一〇、三 一〇、三 一〇、三	三、六〇 三、四七 三、四四 三、三八	五、七 六、〇 五、九 七、〇	二、五四九 二、四七二 二、四九三 二、三〇九	三、八〇 三、八〇 三、八一 三、七九	二、二六四 二、二三七 二、二四八 二、三四〇
-----------	---------	-----------	----------------------------------	------------------------------	------------------------------	--------------------------	----------------------------------	------------------------------	----------------------------------

ハ、上總溢種純系淘汰  
經濟的優良ナル系統(特ニ早熟短稈多産ノモノ)ヲ選出セントシ左ノ系統ニツキ試驗ヲ行ヒタルモ一  
般ニ椿象ノ害ヲ被リ收量少ク殊ニ四號ノ如キハ試驗成績ヲ得ザリキ(供用面積一區七坪二區制肥料  
普通)

在 三 二 四	二 三	來 號 號 號	八、二、二 八、二、三 八、二、二	九、一、六 九、一、六 九、一、六	二、四二 二、六五 二、五四	七、四 七、二 八、六	一、五八二 一、六三三 一、四九二	三、七三 三、七五 三、七二	一、八八四 一、九四四 一、八二六
---------	-----	---------	-------------------------	-------------------------	----------------------	-------------------	-------------------------	----------------------	-------------------------

上總溢ハ純系淘汰ヲ終リ昭和二年度ヨリハ品種比較試驗ニ編入セリ  
二、大和力種純系淘汰  
經濟的優良ナル系統ヲ選出セントシテ早生種六系統中生種六系統ヲ試驗シテ收量ノ比較ヲ行ヘリ一區

七坪二區制普通肥料成績左ノ如シ  
早生種

在 七 五 四 二 二 一	三 六 ○ 五 ○ 三	來 號 號 號 號 號	八、二、四 八、二、四 八、二、四 八、二、四 八、二、四	九、一、六 九、一、六 九、一、六 九、一、六 九、一、六	二、四六 二、五二 二、三四 二、四〇 二、五六	七、八 七、二 七、二 七、八 七、九	二、六三七 二、五三七 二、五三三 二、五八〇 二、五九四	三、八一 三、八〇 三、八二 三、八一 三、八二	二、五四二 二、五〇〇 二、四四九 二、四四八 二、四六〇
---------------	-------------	-------------	---	---	--------------------------------------	---------------------------------	---	--------------------------------------	---

五 五 五 五	七 六 四 二	號 號 號 號	八、三、三 八、三、三 八、三、三 八、三、三	一〇、三 一〇、三 一〇、三 一〇、三	二、八二 二、八二 二、七六 二、七二	七、八 七、五 七、四 七、三	二、三二四 二、二六六 二、三九 二、四三七	三、八四 三、七七 三、八四 三、八四	二、三二〇 二、三三八 二、三五〇 二、三八六
---------	---------	---------	----------------------------------	------------------------------	------------------------------	--------------------------	---------------------------------	------------------------------	----------------------------------

在六五	八八	來號號	八、二九	一〇、一三	二、七二	六、八	二、三三三	三七四	二、三三
			八、三二	一〇、一三	二、七〇	八、一	二、三二一	三八〇	二、二九八
			八、三三	一〇、一三	二、七六	七、五	二、一九九	三七七	二、三三七

ホ、關取種純系淘汰  
 經濟的優良ナル系統ヲ選出セントシテ十系統ニツキ一區七坪二區制普通肥料栽培ニテ收量比較試驗ヲ行ヒタリ其ノ成績ハ左ノ如シ

在七六五五四四四二二四	二八三〇七六〇七一	來號號號號號號號號號	九、一	一〇、一三	二、九三	八、三	一、六三六	三八九	一、七四二
			九、一	一〇、一三	二、九九	七、〇	二、一四四	三八七	一、九三
			九、一	一〇、一三	二、九八	七、三	一、九四四	三八七	一、九五八
			九、一	一〇、一三	二、八八	七、九	一、八六一	三八〇	一、八八九
			九、一	一〇、一三	二、九四	八、三	一、八八二	三八二	一、八八〇
			八、三	一〇、一三	二、九四	七、七	一、九九六	三七三	一、九六九
			九、一	一〇、一三	二、九三	七、一	二、〇一〇	三七八	一、九九八
			九、一	一〇、一三	二、八六	八、七	一、七七五	三八〇	一、八九九
			九、一	一〇、一三	二、九二	七、七	二、〇八二	三七八	二、〇七〇
			九、一	一〇、一三	三、〇〇	七、三	一、九二二	三八〇	一、九〇九
			九、一	一〇、一三	二、八九	七、五	一、九五七	三八一	二、一六二

ハ、張種純系淘汰  
 經濟的優良ナル系統(特ニ多肥栽培ニ耐フルモノ)ヲ選出スベク二十三系統ニ付キテ一區七坪二區制ニシテ三割増肥料ニテ收量比較試驗ヲナセリ其ノ結果ハ次ノ如シ

六六六五五四四三三二二一	七六二九七九六三六五九四三二	號號號號號號號號號號號	九、八	一〇、一四	三、四四	七、一	二、一三六	三八八	三、八
			九、九	一〇、一四	三、一六	七、六	二、三七四	三九一	三、九
			九、八	一〇、一四	三、一七	七、四	二、二四九	三八九	三、五
			九、八	一〇、一四	二、九九	七、四	二、〇六六	三八三	三、八
			九、八	一〇、一四	二、九八	七、四	二、二四九	三八九	三、九
			九、一〇	一〇、一四	二、八二	七、七	二、三四二	三八六	三、六
			九、八	一〇、一四	二、八九	七、五	二、四〇六	三七九	三、九
			九、八	一〇、一四	二、九五	七、五	二、五五〇	三八九	三、九
			九、八	一〇、一四	二、二〇	八、二	二、四四二	三八三	三、八
			九、八	一〇、一四	三、二二	八、六	二、五七九	三八三	三、八
			九、八	一〇、一四	三、一五	八、〇	二、三三一	三八三	三、八
			九、八	一〇、一四	三、二	七、八	二、四五一	三八三	三、八
			九、八	一〇、一四	三、六	八、九	二、五八七	三八七	三、八

九九九八七七七	四三一五四三〇	來號號號號號號號	九、八 九、九 全 全 全 全 全 全	全 全 全 全 全 全 全	三、六 三、二 三、二 三、八 三、六 三、二 三、二 三、六	七、七 八、三 八、一 八、一 七、二 七、八 八、六 七、七	二、四〇五 二、三六三 二、五五五 二、三三四 二、二四八 二、三三六 二、四九二 二、四四九	三、八三 三、八七 三、九〇 三、八一 三、八八 三、八五 三、九一 三、八九
---------	---------	----------	--	---------------------------------	--	--	--	--

ト、三次郎糯種純系淘汰  
 經濟的ニ優良ナル系統選出ノ爲メ十系統ニ付キ收量比較試驗ヲ行ヒタリ然レドモ椿象ノ被害甚ダシ  
 ク收量調査ヲ行ヒ得ザリキ

五五二二一五	四三六四八	號號號號號號	八、二〇 八、九 八、九 八、二 八、二 八、九	九、四 全 全 全 全 全	三、〇二 二、八五 二、七九 二、八三 二、六二 二、七九	三、〇二 二、八五 二、七九 二、八三 二、六二 二、七九	六、九 六、七 六、〇 六、三 四、八 五、一
--------	-------	--------	---	------------------------------	--	--	--

在七六六五	〇七一七	來號號號號	八、八 八、九 八、九 八、八	全 全 全 全	二、七 二、八七 二、八〇 二、六七 二、八〇	四、九 五、四 四、八 五、三 四、九
-------	------	-------	--------------------------	------------------	-------------------------------------	---------------------------------

チ、水島種純系淘汰  
 早生ニシテ收量多ク短稈ナルモノヲ選出セントシテ東葛飾、印旛、香取ノ三郡ヨリ水島ノ在來種ノ  
 種子ヲ取り寄セ各地方別トシテ計壹萬株ヲ栽植シ其ノ内貳千株ニ付キ出穂ノ調査ヲナシ尙生育調査  
 ノ結果優良ト認ム可キモノ四百五十系ヲ選定シ更ニ其ノ内ヨリ百六十四系統ヲ選抜セリ其ノ内譯左  
 ノ如シ

- 一、出穂早キモノ 九九系統
- 一、出穂遅キモノ 二四系統
- 一、稈長短キモノ 二四系統
- 一、稈長長モキノ 一一系統
- 一、有芒ノモノ 三
- 一、異型ノモノ 三

七、苗代試驗  
 イ、畑苗代試驗  
 畑苗代ヲ普通苗代ト比較シ其ノ利害得失ヲ知ラントシ中生愛國原種ヲ供試品種トシテ普通苗代畑苗  
 代覆蓋區全無覆蓋區ノ三區ニ分チテ試驗セルニ其ノ成績次ノ如シ

區名	出穗期	成熟期	稈長	穗數	反當收量米	一升重量	二ヶ年平均收量
普通苗代區	八月五日	十月四日	三、〇二	九本	二、二〇	三、八七	二、四〇〇
無覆蓋畑苗代區	全	全	三、一六	二、六	二、三六	三、七二	一、九五七
覆蓋畑苗代區	八、二四	全	二、九四	一〇、六	二、三二	三、七二	二、三六

本年ノ玄米反當收量ハ覆蓋畑苗代區第一位ナリキ、サレド品質ハ普通苗代區ノソレニ稍劣レリ

ロ、苗代播種法試驗  
 苗代ニ於ケル播種法ガ爾後ノ稻作ノ生育收量ニ及ボス影響ヲ知ラントシ中生愛國原種ヲ用ヒテ撒播  
 苗代區條播苗代區二種ノ三區ニ分テテ試驗ヲ行ヒタリ

撒播苗代區  
 播種量貳合  
 條播苗代第一區  
 全壹合五勺  
 條間三寸  
 條巾一寸五分  
 全 貳合  
 條間五寸  
 條巾二寸

右ニ基キテ行ヒタル試驗ノ結果ハ次ノ如シ

區名	出穗期	成熟期	稈長	穗數	反當收量米	一升重量	二ヶ年平均收量
撒播苗代第一區	八月六日	十月四日	三、一五	二、一	一、四九八	三、七九	一、六三七
條播苗代第一區	八、二七	全	二、九七	一〇、二	一、四二七	三、八二	一、六七一

八、經濟的增收試作  
 經濟的增收ヲ圖ラントシテ肥料ノ配合其ノ他栽培法等ノ經濟的計畫ニヨル試驗ヲナセリ供試品種中生愛國(原種) 挿秧

一、多肥區 (條間九寸株間四寸) 一株二本  
 二、中肥區 (條間九寸株間二寸五分) 一株二本  
 三、少肥區 (條間九寸株間二寸) 一株二本

區名	出穗期	成熟期	稈長	穗數	反當收量米	一升重量	二ヶ年平均收量
多肥區	八月五日	九月三日	三、二〇	一〇、四	二、一四八	三、八七	二、一〇九
中肥區	八、二四	全	三、一〇	九、六	二、二二七	三、七八	二、四〇五
少肥區	全	全	三、一三	八、五	二、三三八	三、八一	二、四七一

全 第二區 八、二七 全 二、九九 一〇、八 一、四三〇 三七九 一、七六四

九、早、中、晚各種ニ關スル試驗  
 イ、移植期試驗  
 早、中、晚各種水稻ニ於ケル適當ナル移植期ヲ知リ且ツ早、中、晚各種ノ移植期ヲ異ニスル事ノ可否ヲ知ランガタメニ早生種上總溢、中生種中生愛國、晚生種、晚生神力ヲ供試品種トシ各移植期ヲ

異ニシテ試験セルニ左ノ如キ結果ヲ得タリ

品名	移植期	出穂期	成熟期	稈長	穂數	反當收量	一升重量
早稻	六月八日	八月九日	九月三日	二、五四	二、三	一、九八一	三八〇
全	六月十三日	八月二日	九月三日	二、六八	一〇、三	一、九七五	三七二
全	六月廿日	八月二日	九月三	二、七七	九、六	二、〇八一	三七二
全	六月廿七日	八月三	九月三	二、七三	八、一	二、〇一〇	三七二
中稻	六月十三日	八月三	九月九	三、一一	八、一	二、四七一	三八三
全	六月廿三日	八月二	九月九	三、一九	八、八	二、四二三	三八五
全	六月廿七日	八月二	九月九	三、二五	一〇、一	二、三〇一	三八二
全	六月廿七日	八月三	九月九	三、一九	八、九	二、二三四	三七七
晚稻	七月四日	八月六	九月九	三、一九	八、九	一、五四二	三九〇
晚稻	六月廿七日	九月二〇	一〇、二五	二、八六	二、一	一、五三四	三八八
全	七月七日	九月二〇	一〇、二五	二、七七	二、一	一、六九七	三九〇
全	七月九日	九月二	一〇、二五	二、七四	一〇、一	一、六五〇	三八四

ロ、株數試験  
 早、中、晚各種ニ於ケル適當ナル栽植株數ヲ知ランタメ上總溢、中生愛國、及ビ晚生神力ヲ供試品種トシ坪當ノ株數ヲ左ノ如ク色々ニ變ヘテ試験セリ

種類	株數	出穂期	成熟期	稈長	穂數	反當收量	一升重量
早稻	七二	八月二日	九月四日	二、七二	九、一	一、六四四	三七八
全	九二	八月二	九月四	二、七三	六、〇	一、七〇一	三八〇
全	一一〇	八月二	九月四	二、七三	五、〇	一、七二四	三七八
全	一一〇	八月二	九月四	二、七八	四、三	一、九一〇	三七三
中稻	六〇	八月三	九月二	三、〇二	一一、五	一、九七三	三八八
全	七〇	八月三	九月二	三、一三	一〇、五	二、四一一	三八三
全	七〇	八月三	九月二	三、一四	九、五	二、四一〇	三八七
全	九〇	八月三	九月二	三、二〇	七、九	二、五五〇	三八三
晚稻	五〇	八月三	九月二	二、八七	二、六	二、〇五四	三九二
全	六〇	九月一〇	一〇、一	二、八四	三、六	一、九九五	三九〇
全	七〇	九月九	一〇、一	二、九七	二、二	二、一五一	三九一
全	九〇	九月九	一〇、一	三、一〇	一〇、〇	二、二四四	三八五

早稻一坪當リ株數ハ多キ程收量多キモ經濟上ノ關係ヨリ百二十株位ヲ限度トスルヲ可トセン  
 中稻一坪當リ百二十株ヲ以テ最モ多收ナリ次ハ七十二株ナレドモ之レ土地ノ肥瘠關係ト見ルヲ至當ト  
 ナサン依ツテ百株内外ヲ可トセン  
 晚稻、晚稻モ株多キニ利アル如クナレドモ暴風ノ被害アリシタメ一概ニ評シ難シ

ハ、一株本數試驗  
早中晩各種ニ於テ各々坪當栽植株數ヲ一定スルトキ最モ適當ナル一株ノ苗數ヲ知ランガ爲メ前二試  
驗ト同品種ヲ供試シ實驗セル結果次ノ如キ成績ヲ得タリ

種類	本數	出穂期	成熟期	稈長	穗數	反當收量	一升重量
早稻	二本	八月二日	九月四日	二、六六	七、三本	一、二五六	三、八〇
全中	三本	八月二日	九月四日	二、八〇	一〇、四	一、三三六	三、七五
全中	四本	八月二日	九月四日	二、七六	一〇、九	一、二四一	三、七六
全中	五本	八月二日	九月四日	二、八八	一〇、六	一、一五二	三、七三
全中	二本	八月三日	九月四日	二、七七	一一、四	二、一四	三、八四
全中	三本	八月三日	九月四日	三、一九	一一、一	二、二五五	三、八七
全中	四本	八月三日	九月四日	三、一〇	九、三	二、二七六	三、八六
全中	五本	八月三日	九月四日	三、〇七	一〇、〇	二、三三〇	三、八四
全中	二本	九月〇日	九月九日	二、八九	一一、三	一、八四七	三、八三
全中	三本	九月〇日	九月九日	二、八四	一一、六	一、八一	三、八三
全中	四本	九月〇日	九月九日	二、七六	一一、七	一、六九六	三、八四
全中	五本	九月二日	九月九日	二、六九	一一、九	一、七三八	三、九〇

早稻ハ分蘗少キヲ通例トスルヲ以テ一株ノ本數ハ多キニ利アリト認ム

中稻晩稻ハ生育期間長ク分蘗多キ故ニ早稻ヨリ少キヲ可トス

一〇、稻架乾燥試驗  
乾燥法ノ米質ニ及ボス影響並ニ此レガ經濟上ノ關係ヲ見ルタメニ地乾、東立、中架(折掛)中架(割掛)  
單架合掌ノ六種ニ付キ試驗セルニ其ノ結果左ノ如シ

試驗區別	反當收量	一升重量	水分含量	品質等級
地乾	二、五六	三、六六	一五、二九	等外
東立	二、三七六〇	三、六九	一四、二〇	等外
中架(折掛)	三、〇〇〇	三、八二	一三、四〇	五等
中架(割掛)	二、三五八〇	三、七四	一四、一〇	五等
單架	二、五九〇〇	三、八一	一四、二〇	五等
合掌	二、六六八三	三、八〇	一四、〇〇	五等
標準	二、四三八四	三、四三	一五、三〇	等外

本年度ノ成績ヲ品質ノ點ヨリ論ズル時ハ中架割架最モ可ナリ

一一、多肥栽培試作  
優良品種ノ耐肥性ヲ知ランガ爲メニ三割増六割増ノ肥料ニテ栽培セリ其ノ結果次ノ如シ標準肥料ハ耕

種梗概ニ依ル  
標準肥料栽培

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	稈 長	穂 數	反 當 收 量 米	一 升 重 量
中 生 愛 國 取 力	八、二〇日	九、二九日	三、二二尺	八、〇本	二、四八五石	三八〇 <sub>外</sub>
關 生 神 張 力	九、一四日	一〇、一九日	二、九六尺	九、五本	二、〇四八石	三八〇
中 生 神 張 力	九、一六日	一〇、二二日	二、九〇尺	一〇、三本	二、四五三石	三七七
晚 生 神 張 力	九、一〇日	一〇、二三日	二、八五尺	八、八本	二、四〇六石	三八一
早 生 一 五 號	八、二三	一〇、一三	二、八〇尺	九、〇本	二、三六六石	三八七
早 生 一 五 號	八、二五	一〇、一五	二、七二尺	二、六本	二、二七八石	三八四

六割増肥料栽培

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	稈 長	穂 數	反 當 收 量 米	一 升 重 量
中 生 愛 國 取 力	八、二三日	九、三〇日	三、一〇尺	七、六本	二、五七九石	三八〇 <sub>外</sub>
關 生 神 張 力	九、一六日	一〇、二二日	三、〇三尺	九、三本	二、〇四六石	三七九
中 生 神 張 力	九、一六日	一〇、二二日	三、〇六尺	一〇、一本	二、〇四三石	三七七
晚 生 神 張 力	九、一〇日	一〇、二三日	三、〇二尺	八、九本	二、〇六一石	三八〇
早 生 一 五 號	八、二八	一〇、一五	二、八四尺	一〇、八本	一、九二六石	三八六
早 生 一 五 號	八、二五	一〇、一五	二、七二尺	二、六本	二、二七八石	三七二

右成績ヲ見ルニ何レトモ決論シ難ク試験ヲ繼續セントス

第二陸 稻

耕種梗概

一、種粃、風選及左記比重ニテ塩水選ヲ行ヒテ選種シタルモノヲ用フ  
 粃 一、一〇 糯 一、〇八 食塩量ハ水一升ニ對シ二升五合一三升

- 一、整地、播種前麥作畦間ヲ耕耘シ以テ土地ヲ膨軟ナラシム
- 一、施肥、麥作畦溝底ニ配合セル肥料ヲ施シ五分位覆土シ鎮壓ス  
追肥ハ二倍量ニ稀釋シテ適期ニ施與ス  
施肥標準量左記ノ如シ (反當ヲ示ス)

肥料名	原肥	追肥		含有成分量		
		第一回	第二回	N	P	K
堆肥	二五〇、〇〇〇			一、七五〇	〇、六〇〇	一、五二五
大豆	一〇、〇〇〇			〇、六六八	〇、一四七	〇、二二二
過磷酸	七、〇〇〇				一、四〇〇	
大灰	一〇、〇〇〇				〇、二一〇	〇、四五〇
人糞	一〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	二、八七四	二、四六一	二、四〇三
計				〇、四五六	〇、一〇四	〇、二一六

- 一、播種 五月上旬ニ蒔代上ニ均一ニ反當三升ヲ條播シ後五分位覆土シテ鎮壓ヲナス
- 一、管理 (イ) 中耕全三回行フ  
第一回 六月下旬  
第二回 七月中旬  
第三回 八月上旬

(ロ) 除草全三回行フ

- 第一回 六月中旬
- 第二回 七月中旬
- 第三回 八月中旬

中耕除草等ノ作業ハ追肥施與ノ時同時ニ施行スルモノトス  
雀ニテハ鳴子案山子擬銃等ヲ用フ

- 一、除害、詳細ハ當該試驗調査簿ニ依ル
- 一、調査、生育調査

項目甚ダ多ケレドモ其ノ主要ナルモノヲ擧グレバ左ノ如シ  
葉(色形、長短、厚サ) 穗(長短粒着粗密) 出穗期  
分蘗數 倒伏ノ難易  
成熟期 耐病性

(ロ) 收量調査

收量ノ査定ヲ行フモノニシテ同時ニ品質ニ就キテモ調査ス

一、收穫及調製

收穫ハ穂首マデ黃熟セルヲ俟チテ行フベシ而シテ收量比較ノ際ニハ必ず番外區ヲ設ケ試驗ノ誤差ヲ可及的少ナカラシベシ  
次ニ種籾以外ハ晴天數日、間稻架乾燥ヲスルモノトス  
調製ハ籾扱落後篩ニテ夾雜物ヲ除去スルモ一方法ナレドモ主トシテ風力ヲ利用スルモノトス籾ハ唐箕ニヨリ能ク糞ヲ去リ便宜糶摺ヲ行ヒ調査ヲナス假リニ試驗完了スト雖モ異品種ハ可成混合ヲ



避クベシ  
 一、採種  
 特性ノ完備セルモノニツキ薄蒔區ヨリ採種ヲ行フ

一、豊凶考照試験  
 同一品種即チ粳ハ三太郎久藏糯ハ凱旋ヲ年々同一方法ニテ栽培定期ニ其ノ生育ヲ調査シ以テ縣下陸稻作ノ豊凶豫察ノ資ニ供セリ其ノ結果左ノ如シ

種別	大		暑		大	
	丈	一尺間莖數	丈	一尺間莖數	收量	一升重量
三種	一、七七	四六、〇	二、二二	四三、三	〇、九一二	三七四
平均						

播種後ノ天候稍適順ヲ缺キタリシト大暑後八月中旬迄ノ早魃ノ爲メ生育稍不良ナリシニ出穂期ニ更ニ早害ノ影響著シク爲メニ平年ニ比シ二割五分二厘ノ減收ヲ來セリ

二、品種比較試験

縣下ニ於テ廣ク栽培面積ヲ有スル品種及他府縣ニ於テ優良ト認メラル、品種ヲ栽培シ以テ優良品種ヲ選出センガ爲メ粳十八品種糯九品種ニツキ一區六坪二區制普通肥料ニテ試験ヲ行ヒタリ

(一) 粳  
 (内比較的優良ナルモノ)成績左ノ如シ

品名	成熟期	稈長	反當收量	反當年平均收量
千代田早生	九、一四	二、二六	一、二八一	一、五三九
早知	九、一四	二、三三	一、五一	一、五三四
田優	九、一九	二、二〇	一、二五七	一、四八一
三太郎	九、二六	二、二〇	一、五七一	一、六四七
ヤカ	九、二〇	二、一一	一、二二三	一、五〇九
金子(千葉)	九、二一	二、三三	一、五二三	一、六二四
青皮	九、二一	二、三〇	一、二八七	一、五〇八
黒皮	九、二二	二、一一	一、一一六	一、四五八
久藏	九、二一	二、一六	一、〇九二	一、四三七
金子(東)	九、二〇	二、一八	一、四一〇	一、六三八
戰捷子	九、二五	二、三〇	一、七六四	一、六九八
全捷	九、二五	二、二四	一、七〇四	一、六八五
長柄早生	九、二五	二、二七	一、七二七	一、七二八
戰捷	九、二五	二、三五	一、七三五	一、六〇九
全捷	九、二七	二、三〇	一、六六九	一、七二六
吉川	九、二一	二、一八	〇、九六四	一、四二五
白芒	九、二六	二、七九	一、五〇八	一、五一九

品 種 名	成 熟 期	稈 長	反 當 收 量	反 當 年 平 均 收 量
夜ノ雪	九、二九日	二、一九	〇、六二四	一、三四四
平和糯	一〇、一三	二、一三	一、二三六	一、七〇八
北海道	一〇、一四	二、三七	〇、八五九	一、五二四
凱旋一號(千葉)	一〇、一三	一、八五	〇、五六五	一、四六四
凱旋二號(茨城)	一〇、一三	二、一二	〇、八三〇	一、四四一
陸羽糯(茨城)	一〇、二三	二、一二	〇、六七九	一、五一八
陸羽九號	九、二二	二、二六	〇、六七九	一、二二五
陸羽十七號	一〇、二二	二、一二	〇、六二四	一、二〇〇

(二)糯

三、品種比較豫備試験  
品種比較試験ノ前提トシテ品種ノ優劣ヲ判定シ良好ナルモノノミヲ選抜セシ爲メ粳七品種糯三品種ヲ比較栽培セル成績左ノ如シ

標準品種ニ對スル收量百分率

品 種 名	成 熟 期	稈 長	反 當 收 量	反 當 年 平 均 收 量
三太郎(千葉)	一〇、一八	二、四四	一、四七三	一〇〇、〇
戰捷(茨城)	一〇、一八	二、二四	一、四四五	九八、一
全(千葉)	一〇、一八	二、二九	一、四九六	一〇一、六
豐年(千葉)	一〇、一八	二、三四	一、四九一	一〇一、二
てれんす(千葉)	一〇、一八	二、一五	一、三一	八九、〇
段二石取(埼玉)	一〇、一八	二、〇三	一、四八五	一〇〇、八
葉冠(鹿兒島)	十一月月中旬ニ至ルモ成熟セズ中止ス			
糯標準				
凱旋十五號(千葉)	一〇、一七	二、六六	一、三三〇	一〇〇、〇
陸羽糯(糯)	一〇、一六	二、二六	一、三六七	一〇二、八
凱旋糯(埼玉)	一〇、一五	二、一六	一、三六六	一〇二、七

四、純系淘汰  
在來種ニ比較シ更ニ經濟上優良ナル系統ヲ選出センガ爲メ在來種五品種ニ就キ試験セル成績ノ概要左ノ如シ  
イ、三太郎種純系淘汰(第五次)  
前年度試験ノ結果比較的優良ト認メタル八系統及在來種ヲ比較栽培シ左ノ結果ヲ得タリ

在來種ニ對スル收量百分比

反當年平均收量

系	統	名	成熟期	程	長	反當收量	在來種ニ對スル收量百分比	二ヶ年平均反當收量	
七	七	六	五	三	三	二	四	一	在
四	三	一	四	三	二	八			來
號	號	號	號	號	號	號	號	號	種
九、二九	九、三〇	九、二八	九、二八	九、三〇	九、三〇	一〇、〇一	一〇、〇一	九、三〇	
二、一七	二、三四	二、二二	二、二六	二、三一	二、二〇	二、二九	二、二七	二、二八	
一、一三六	一、二五二	〇、九六八	一、〇〇三	一、二五五	一、〇四一	一、二三五	一、二四三	一、二四〇	
一〇四	一一五	八九	九二	一一五	九五	一一三	一一四	一〇二	
一、四九三	一、六一一	一、四五六	一、三六八	一、五三二	一、五〇四	一、〇五六	一、五八二	一、五五五	

ハ、久藏種純系淘汰 第四次  
前年度試験ノ結果比較の優良ト認メタル十七系統及在來種ニ就キ比較栽培シ左記系統ヲ選抜セリ

系	統	名	成熟期	程	長	反當收量	在來種ニ對スル收量百分比	三箇年平均反當收量
一	一	三	二	在				
一〇		五	七	來				
一四		號	號	種				
一〇、〇六	一〇、〇四	一〇、〇六	一〇、〇五	一〇、〇六				
二、〇一	二、一七	二、一四	二、〇七	二、一〇				
〇、五七五	〇、七六〇	〇、六二八	〇、八四四	〇、六八八				
八四	一一〇	九一	一二三	一〇〇				
一、四一七	一、四五七	一、四二一	一、五〇四	一、四四五				

口、凱旋種純系淘汰 第五次  
前年度試験ノ結果比較の優良ト認メタル八系統及在來種ニ就キ比較栽培シ左ノ成績ヲ得タリ

ニ、田優種純系淘汰 第三次  
 前年度優良ト認メタル四十五系中三十五系ヲ選抜シ比較栽培セル結果左記十七系ヲ有望ト認メ選抜セリ  
 早害ノタメ收量ノ減少ヲ來セリ

系統名	成熟期	稈	長	反當收量	在來種ニ對スル收量百分比
在	九、二六	二、二二	二、二二	〇、七二一	一〇〇、〇
來	九、二七	二、一〇	二、一〇	〇、六六六	九二、四
種	九、二七	二、〇八	二、〇八	〇、六七六	九三、八
二	九、二七	二、二二	二、二二	一、〇五〇	一四五、六
三	九、二七	二、一八	二、一八	〇、八七四	一二一、二
四	九、二七	二、二六	二、二六	〇、九〇〇	一二四、八
七	九、二六	二、二一	二、二一	〇、八五八	一一九、〇
七	九、二六	二、二二	二、二二	〇、八五八	一一九、〇
七	九、二六	二、二一	二、二一	〇、八六二	一一九、六
七	九、二六	二、二二	二、二二	〇、八八七	一二三、〇
七	九、二七	二、一〇	二、一〇	〇、七〇〇	九七、一
八	九、二七	二、〇〇	二、〇〇	〇、八一八	一一三、五
八	九、二七	一、九四	一、九四	〇、七三四	一〇一、八
八	九、二七	二、〇三	二、〇三	〇、七四九	一〇三、九

ホ、戰捷種純系淘汰 第一次  
 本品種ハ耐旱性强ク極メテ有望品種ト認メタルニ依リ栃木、埼玉、東京、神奈川、静岡ノ各府縣ヨリ種子ヲ蒐集シ當場産在來種ト併セテ栽培調査セル結果一五四個体ヲ選抜セリ

五、早害豫防試験  
 陸稻ニ對スル早害豫防法トシテ適切ナル耕種方法ヲ驗知セントスルモノニテ成績左ノ如シ  
 イ、陸稻大豆ノ混植ト早害トノ關係試験

區名	反當收量		反當生産物		合價計
	米	大豆	米	大豆	
陸稻一畦對大豆一畦區	〇、五三三	〇、二二七	一三、三二五	四、五四〇	一七、八六五
陸稻二畦對大豆二畦區	〇、五五〇	〇、三九五	一三、七五〇	七、九〇〇	二一、六五〇
陸稻二畦對大豆一畦區	〇、五七八	〇、二七七	一四、四五〇	五、五四〇	一九、九九〇
陸稻畦側刈大豆播種區	〇、七〇六	一、八一五	一七、六五〇	四、五三八	二二、一八八
陸稻標準區	〇、七六二	〇、八二九	一九、〇五〇	一六、五八〇	一九、〇五〇
大豆標準區					一六、五八〇

備考 右生産物價格ハ陸稻玄米膏石二五圓大豆膏石二〇圓青刈大豆莖葉壹ノ二五ニ見積リタリ  
 ロ、播種期對播種量試驗  
 本縣ニ於ケル適當ナル播種期及ビ播種量ヲ知ランガ爲ニ行ヘルモノナリ本試驗ノ結果ハ陸稻草丈ハ播種量少ナキニ伴ヒ長ク成熟期ハ播種期後ル、ニ從ヒ後レタリ然シテ玄米收量ハ左表ノ如ク一般ニ播種量少キモノ增收ノ傾アリ

播種量	播種期			平均
	反	當	米	
一 升	五月十五日	五月廿五日	六月四日	一、〇二一
二 升	〇、九八一	〇、八八九	一、〇七四	〇、九三五
三 升	〇、九〇八	〇、八〇六	一、〇一九	〇、八四五
四 升	〇、八二六	〇、七三三	一、〇一五	〇、八五八
五 升	〇、九五六	〇、七八〇	一、〇二二	
平均	均	均	均	均

ハ、堆肥及食鹽施用量ト早害トノ關係試驗  
 陸稻發育狀況出穂成熟期ハ各區ヲ通ジ差異ヲ認メズ玄米收量左表ノ如シ

區別	施用量	堆肥			平均
		二百貫	三百貫	四百貫	
堆肥單用區	〇、七八九	〇、八一〇	〇、八〇七	〇、八〇二	
食鹽ニ加用區元肥	〇、八三四	〇、九一六	〇、八九四	〇、八八一	
堆肥ニ加用區元肥	〇、八三四	〇、九一六	〇、八九四	〇、八八一	
平均	均	均	均	均	

食鹽ニ加用區追肥	食鹽ニ加用區元追肥	平均
〇、七二〇	〇、八一三	〇、八一三
〇、七二〇	〇、八二六	〇、八一三
〇、七八〇	〇、八三二	〇、八二四

即チ前年度試驗成績トハ稍趣ヲ異ニシ堆肥ノ施用量ニ係ラズ元肥ニ食鹽ヲ加用セルモノ佳良ナルヲ示セリ

六、利用面積ト施肥量關係試驗  
 陸稻栽培ニ當リ適切ナル圃場作付(利用)面積並ニ施肥量ヲ驗知センガタメ左記區別ニ依リ試驗セル結果ニ依レバ陸稻草丈ハ施肥量多キニ伴ヒ稍伸長スル傾アルモ出穂成熟各區共殆ンド差異ヲ認メズ玄米收量ハ左表ノ如ク二畝利用二割五分増區最モ多シ

利用面積	施肥量			
	二割五分減	普通肥料	二割五分増	五割増
二 畝 步 利 用	一、〇九九	一、二七〇	一、二四三	一、二二五
二、五 畝 利 用	一、〇五〇	一、二五四	一、一三五	一、一六八
三 畝 步 利 用	一、〇三六	一、一三九	一、一〇六	一、一五二
三、五 畝 步 利 用	一、〇六四	一、一四〇	一、〇八二	〇、九一九

尙大正十三年以降ノ三ヶ年平均成績ヲ示セバ左表ノ如クニシテ二畝步利用二割五分増區ハ各年ヲ通ジ玄米收量最モ多ク利用面積多キニ從ヒ玄米收量減少ス

利用面積	施肥量	二割五分減	普通肥料	二割五分増	五割増
二畝步利用	利用	一、三七一 <sup>石</sup>	一、四九四 <sup>石</sup>	一、五六七 <sup>石</sup>	一、四八八 <sup>石</sup>
二、五畝步利用	利用	一、三四七	一、四二三	一、四二三	一、四〇九
三畝步利用	利用	一、二五一	一、三六二	一、二九九	一、三二四
三、五畝步利用	利用	一、二三九	一、三二二	一、二九五	一、二七九

### 第三 麥

(大正十四年秋蒔付大正十五年夏收穫)

#### 耕種梗概

##### 一、種子

品種試驗別トス  
 選種、風選及ビ左記塩水選ヲ行ヒテ選種セルモノトス

種別 比重  
 大麥 一、二三  
 小麥 一、二二  
 裸麥 一、二二

但シ一、二以上ノモノハ固形苦塩ヲ用フ

豫措、黒穂病並ニ斑葉病ノ豫防トシテ冷水温湯浸法或ハ風呂湯浸法ヲ行フ

##### イ、冷水温湯浸法

施行ノ順序ハ先ツ冷水ニ六時間乃至七時間浸漬シ次デ温メ桶華氏一二〇度攝氏五十度ニ浸シテヨク攪拌シ種子ノ一様ニ温マルヲ度トシ引揚ゲ次ニ浸シ桶ニ五分間攪拌浸漬ス、浸桶ノ温度ハ華氏百三十度攝氏五十五度内外ヲ標準トスベシ五分間經過後ハ直チニ冷水ニ浸シ充分ニ冷却セシメ先ヅ陰干トシ水分ヲ去リ後充分ニ乾燥セシメ播種期迄是ヲ貯藏ス

##### ロ、風呂湯浸法

風呂湯ノ温度ヲ華氏百二十度攝氏四十九度内外トシ種子ヲ袋又ハ箆ニ入レテ浸漬當時數回速カニ湯ヨリ引揚ゲ内外ノ温度ヲ平均セシム浸漬後釜ノ火ヲ去リ二時間自然ノ冷却ニ放任ス二時間經過後ハ直チニ冷水ニ浸シ其後ノ處置ハ前法ニ同ジ

##### 二、整地

耕起、夏作收穫後第一回耕起ヲナシ以テ膨軟ナラシム  
 地均、第二回耕鋤ヲ以テ土塊ヲ細碎シ地均ヲ行フ  
 畦幅、地均終了後直ニ畦ヲ作ス  
 畦幅、自二尺至二尺五寸トシ左記ノ通り試驗別トス

肥料及栽培試驗試驗  
 別ニ計書ス

原種圃並ニ純系淘汰  
 二尺

豊凶考照試驗  
 二尺五寸

品種試驗及收量調査ノ一切  
 二尺五寸

試驗場採種圃及見本圃  
 二尺

蒔代畦巾二尺ノモノハ六寸(即チ鍬巾トス)

畦巾二尺五寸ノモノハ八寸トス

蒔代ハ深サ四寸ニ作條シ原肥ヲ敷キ五六分覆土シ其ノ面ヲ平均ニス播種セル後八分乃至一寸位覆土シ足ニテ踏付クルモノトス

二、肥料

施肥期

原肥ハ播種前ニ施シ追肥ハ一月中旬二月中旬ノ二回ニ分施ス  
 用量、施肥ノ用量ハ各試験ノ目的ニヨリテ差異アリ左表ノ如シ

(一) 豊凶考照試験

肥料名	原肥	追肥		一區坪當	含有三成分量		
		第一回	第二回		N	P	K
堆肥	三〇〇、〇〇〇			一、〇〇〇	〇、七二〇	一、八一〇	
大豆粕	七、〇〇〇			〇、〇一七	〇、四六七	〇、一〇三	
過磷酸石灰	一〇、〇〇〇			〇、〇二三	一、九五〇	〇、一四八	
人糞	二〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	〇、〇五〇	〇、四二〇	〇、九〇〇	
合計		五〇、〇〇〇	五〇、〇〇〇	二、一〇〇	〇、五七〇	三、一三七	

備考 人糞尿一〇〇<sup>リ</sup>ハ約七荷半

(二) 原種圃品種比較ノ試験及純系淘汰收量比較試験

肥料名	原肥	追肥		一區坪當	含有三成分量		
		第一回	第二回		N	P	K
堆肥	二五〇、〇〇〇			〇、八三一	一、七五〇	〇、六〇〇	
大豆粕	七、〇〇〇			〇、〇一七	〇、四六七	〇、一〇三	
硫酸アンモニア	二、〇〇〇			〇、〇〇六	〇、四〇八	〇、一〇三	
過磷酸石灰	一〇、〇〇〇		五、〇〇〇	〇、〇五〇	二、九二五	〇、一四五	
人糞	二五、〇〇〇	四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	〇、〇八三	〇、四五六	〇、一〇四	
合計		四〇、〇〇〇	四〇、〇〇〇	〇、二六六	三、〇八一	四、二五七	

(三) 純系淘汰大麥小麥第一年度第二年度及第三年度(更ニ次代鑑定ヲ要スルモノ)等ノ一粒蒔ヲナス

肥料名	原肥	追肥		一區坪當	含有三成分量		
		第一回	第二回		N	P	K
堆肥	二〇〇、〇〇〇			六六六	一、四〇〇	〇、四八〇	
大豆粕	六、〇〇〇			〇、〇二〇	〇、四〇〇	〇、〇八八	
硫酸アンモニア	二、〇〇〇			〇、〇〇六	〇、四〇八	〇、〇八八	
過磷酸石灰	七、〇〇〇	三、〇〇〇		〇、〇三三	一、九五〇	〇、一二七	

合人糞	灰	尿	計
	一八、〇〇〇		
	三〇、〇〇〇		
	三〇、〇〇〇		
	〇、〇六〇	〇、二〇〇	
	〇、三四二	二、五五〇	
	〇、三七〇	〇、〇七八	
	〇、一六二	二、九六六	
	〇、八一〇	二、三一九	

施肥法

原肥、整地ノ際作條ノ底ニ混合セルモノヲ敷込ム  
追肥、第一回ノモノハ畦ノ一方ヲ堀リテ與フ第二回ハ畦ノ地方ニ同一方法ニテ施ス

四、播種

播種法

品種比較試験、豊凶考照試験純系淘汰、收量比較試験等ハ蒔代上ニ均一ニ條播ス

原種育成ハ二條三―四寸基ノ目ニ二三粒播シ後間引ヲナシ一粒立トス

純系淘汰一本株ハ三寸隔テニ二三粒ツ、摘播シ後間引ヲナシ一粒立トス

播種量(反當)  
大麥 三升 (原種二升五合)

小麥 二升五合 (原種二升)

裸麥 二升五合

播種期 十月中旬―下旬

五、手入

中耕 五回施行

豊凶考照試験 十月二十五日

- 第一回 十二月上旬(中旬)
  - 第二回 一月中旬(上旬)
  - 第三回 二月中旬
  - 第四回 三月中旬
  - 第五回 (土寄) 四月中旬(三月下旬又ハ四月上旬)
- 土入 七回施行
- 第一回 十二月上旬
  - 第二回 十二月下旬
  - 第三回 一月上旬
  - 第四回 一月下旬
  - 第五回 二月中旬
  - 第六回 三月上旬
  - 第七回 三月下旬

土入ハ初メ少ク四五分位次第ニ厚ク最後マデ五六寸ヲ入ル  
鎮土 七回施行 施行ハ生育ノ狀況ニヨリ多少ノ參酌ヲ要ス

- 第一回 十二月上旬
- 第二回 十二月下旬(中旬) 追肥
- 第三回 一月上旬(十二月下旬)
- 第四回 一月中旬(上旬)
- 第五回 一月下旬



種	類	品	種	名	配	付	數	量	全	上	合	計
<p>第六回 二月中旬 追肥                  第七回 三月中旬(上旬)生育ノ工合ニヨリ行フ                  除草 一回 三月中旬ニ行フ                  六、收納                  刈取、一般ノ麥ハ其ノ適期即穂首黃變セル時ニ刈取ルモ原種圃ハ稍青刈ヲナス                  乾燥、麥架ニ據ル                  七、調製                  適度ニ乾燥セルモノヲ輪轉機ニテ扱落シ連架ニテ芒ヲ取除キ調製ス                  八、調査                  調査ハ生育調査並ニ收量調査トシテ各々規定ノ調査簿ニ依ル收量調査ハ收量ト同時ニ品質ニ                  ツキ査定ス                  九、採種                  特性ノ完備セルモノニツキ薄播區ヨリ採種ス                  一、原種育成                  原種育成原種圃用並ニ採種圃用ノ目的ヲ以テ原種ヲ育成セリ其ノ内大正十五年採種圃用トシテ配付セ                  シ原種ノ品種名並ニ其ノ數量左ノ如シ</p>												

大	麥	關	三	穂	相	細	赤	達	取	德	揃	州	稗	摩
六、四〇八	一、一〇〇	一、四九八	〇、七一三	〇、六四五	一、三四九	九石〇〇六	二、七〇七							

二、豊凶考照試験  
 年々同一栽培法ニテ同一品種即大麥ニテハ關取、三德、穂揃ノ三種小麥ニテハ赤達摩、細稗、相州ノ  
 三種裸麥ニテハ關州、三保、長穂ノ三種ヲ栽培シ定期ニ其ノ生育状態ヲ調査シ以テ豊凶ノ豫察ニ資セ  
 ントセリ其ノ成績左ノ如シ

種	類	春		夏		收	量	一	升	重	量
		草	丈	一尺間莖數	草						
大麥	三種平均	〇、七四	一五、〇	二、五六	九五、三	二、九一四	二八、四				二八、四
小麥	三種平均	〇、七	一四、〇	二、四二	九八、六	一、八〇八	三四、五				三四、五
裸麥	三種平均	〇、八七	二四、〇	二、九五	六七、〇	二、三三六	三、五四				三、五四

三、大麥品種比較試験

縣下ニ廣ク栽培セラル、モノ並ニ他府縣ニ於テ優良ト認メラレ本縣ニ適スルモノナルベシト想ハル、モノヲ蒐集シ將來ノ原種用品種ヲ査定センガタメニ大麥十三品種ニツキ試験ヲ行ヒ次ノ成績ヲ得タリ

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	稈 長	反 當 收 量	一 升 重 量	平 均 收 量
關 取 二 號	四、二二	五、二九	二、三六	三、五九二	二九一	四、〇〇八
全 四 號	四、二二	全	二、一四	三、五〇二	二八七	三、八四〇
全 五 號	四、二二	全	二、一四	三、六六二	二九一	四、〇二一
全 六 號	四、二二	全	二、一三	三、四二九	二八六	三、八五七
全 七 號	四、二二	全	二、一三	三、三六六	二八六	三、八五七
全 八 號	四、二二	全	二、一〇	三、三八〇	二八六	三、六七七
全 九 號	四、二二	全	二、〇九	三、五四七	二八九	三、八五二
全 十 號	四、二二	全	二、〇九	三、〇五一	二九三	三、七四四
全 十一 號	四、二二	全	二、〇五	三、〇九三	二八九	三、八一〇
全 十二 號	四、二二	全	二、〇五	三、一六七	二八九	三、八五七
全 十三 號	四、二二	全	二、〇五	三、一三六	二八七	三、六五七
岡 山 石 來 種	四、二三	全	二、一五	三、二九七	二八五	三、五七六
五 畝 四 號	四、二三	全	二、一五	三、〇〇七	二八三	三、五七六
三 德 六 號	四、二三	全	二、〇九	三、〇〇七	二八三	三、五七六
全 來 種	四、二三	全	二、〇九	三、〇〇七	二八三	三、五七六
竹 林 山 來 種	四、二三	全	二、〇九	三、〇〇七	二八三	三、五七六
穂 揃 在 原	四、二四	五、三〇	三、〇三	三、〇〇七	二八三	三、五七六

四、小麥品種比較試験

大麥ト同目的ノ試験ニシテ供用品種ハ二十二品種ナリ其ノ成績左ノ如シ

品 種 名	出 穂 期	成 熟 期	稈 長	反 當 收 量	一 升 重 量	平 均 收 量
中 相 州 一 號	五、五	六、二一	一、七二	二、二三二	三三九	二、三三七
中 玉 州 一 號	五、五	六、二一	一、七六	二、二〇六	三三六	二、二五四
中 相 州 五 號	五、五	六、二一	一、九六	一、六六八	三三〇	二、〇〇三
赤 達 摩 在 原 來 種	五、五	六、二一	一、九七	一、九八二	三三一	二、〇〇三
赤 達 摩 在 原 來 種	五、五	六、二一	一、九七	一、八二五	三二五	二、〇〇三
白 生 小 麥 三 號	五、五	六、二〇	二、五〇	一、六七三	二二三	二、二二二
全 生 小 麥 二 號	五、五	六、二〇	二、五〇	一、六八九	二二五	二、二二二
早 生 小 麥 一 號	五、五	六、一九	二、一六	一、九八九	二二五	二、二二二
金 崎 玉 號	五、五	六、一五	一、八五	一、八八九	二二五	二、二二二
細 程 在 原 來 種	五、五	六、二一	二、四五	二、一二〇	三四七	二、二七八
細 程 在 原 來 種	五、五	六、二一	二、四五	二、一二〇	三四七	二、二七八
三 州 小 在 原 來 種	五、五	六、二一	二、七三	二、五三一	三三九	二、五二一
無 芒 珍 子 竹 來 種	五、五	六、二一	二、五七	二、三二六	三三九	二、五二一
白 毛 南 京 一 號	五、五	六、二二	二、九八	二、六四一	三四〇	二、六二七
相 州 一 號	五、五	六、二二	二、九八	二、八二七	三三七	二、六二七

相州一七號	相州原種	五、九	六、二五	二、七六	二、四三七	三三九	二、四八二
相州來	相州來	五、七	六、二七	二、七七	二、五〇四	三四五	二、四八二
相州在	相州在	五、五	六、二七	二、七一	二、一三四	三三七	二、三二八
崎玉八號	崎玉八號	五、四	六、二一	二、二四	一、八四一	三三四	二、三二八
白坊主(神奈川)	白坊主(神奈川)	五、六	六、二一	二、七一	一、八〇六	三三三	二、二二二
江島一號	江島一號	五、一	六、二八	二、七八	二、一〇六	三二三	二、四六三

備考 ( ) 内數字ハ收量平均年數ヲ示ス

五、裸麥品種比較試驗  
前二者ト同様ノ目的ニテ行ヘル試驗ニシテ成績次ノ如シ

長米穗	長米穗	四、二七	六、月五日	三、一八	二、四九九	三四一	一、九〇二
鬼米裸	鬼米裸	四、二六	六、月四日	三、二二	二、一五一	三五一	二、〇八〇
長風裸	長風裸	四、二八	六、月五日	二、八八	二、四七〇	三四九	二、四〇五
長白風	長白風	四、二六	六、月四日	三、〇一	二、四五六	三五五	二、二二〇
長毛白	長毛白	五、三	六、月六日	三、〇六	二、二五七	三五〇	二、一〇五
園長	園長	四、二九	六、月五日	二、八四	二、三〇一	三四六	一、九四四
				二、四八	二、三〇五	三四七	一、七八七

三 保 四、二六 六、四 二、八〇 二、〇五一 三五五 一、六六九

六、元畿内支場育成新品種試作  
(大麥)

關取二號	關取二號	四、二三	五、月二九日	二、四八	三、五九二	三、六九〇	有
全四號	全四號	四、二三	五、月二九日	二、二五	三、五〇二	三、八四六	全
全五號	全五號	四、二二	全	二、二六	三、三六六	三、五九〇	全
全六號	全六號	四、二二	全	二、二六	三、三八〇	三、七八三	全
標準	標準	四、二二	全	二、二三	三、六六二	三、二四七	全

(小麥)

(中)相州一號	(中)相州一號	五、月五日	六、月二二日	一、九二	二、五	一、八二五	無
全五號	全五號	五、月五日	六、月二二日	一、九八	四、五	二、九〇五	全
白キリス二號	白キリス二號	五、月九日	六、月二二日	二、七八	八、五	二、三〇二	全
全四號	全四號	五、月一〇日	六、月二二日	二、八〇	九、五	二、三〇二	全

標準赤達摩七號	全	六、一三	二、一八	九六	二、二〇六	二、六二〇	全
標準相州	五、七	六、二七	三、〇六	九六	二、五〇四	二、三七九	全

七、純系淘汰

イ、小麦細程種純系淘汰 第二次  
 小麦細程種十四系統ニ付キ比較調査ノ結果有望ノ見込ノモノ七系統ヲ得タリ  
 ロ、大麦第二回ゴールデンメロン種純系淘汰 第三次  
 大麦ゴールデンメロン種二十系統ニ付收量比較ヲナシタルニ左ノ成績ヲ得タリ

系統名	出穂期	成熟期	稈長	尺間莖數	反當收量	一升重量
五五	四、二二	五、三〇	二、二七	一二四	二、九四九	三〇六
在	四、二二	五、三〇	二、三一	一三五	三、一六三	三〇九
六	四、二二	五、三〇	三、二〇	一〇二	三、二七三	三〇八
四	四、二二	五、三〇	二、三三	一一二	二、八九〇	三一
四	五、四	六、一三	二、八九	一〇八	三、二四五	三〇九
五	四、二二	五、三〇	二、九六	八四	三、一五三	三一
五	四、二二	五、三〇	二、九三	九九	三、二四四	三一三
五	四、二二	五、三〇	二、九〇	九九	二、八九五	三〇七
六	四、二二	五、三〇	二、九〇	九三		

系統名	出穂期	成熟期	稈長	尺間莖數	反當收量	一升重量	平均收量
六八	四、二二	五、三一	二、八〇	一〇七	二、九三四	三〇八	
一	四、二二	五、三一	二、八四	八七			
三	五、五	六、一〇	二、九一	一一二	三、七五八	二九七	
一	四、三〇	五、三九	三、三六	九九	三、三二四	三〇六	
一	四、三〇	五、三九	三、三〇	九九	三、三五〇	三〇六	
一	四、三〇	五、三九	三、三七	一〇四	三、八五〇		
一	四、三〇	五、三九	二、四二	一二五	三、五五六	三〇二	
一	四、三〇	五、三九	三、二四	一二五	三、五六六	三〇二	
一	四、三〇	五、三九	三、二四	一二五	三、五六六	三〇二	
一	四、三〇	五、三九	三、二六	一一〇	三、六七五	三一	
一	四、三〇	五、三九	三、三五	一一〇	三、五〇二	三一	
エ	四、二二	五、三一	二、二五	一一二	三、二二〇	三〇三	
一	四、二二	五、三一	三、一六	九〇	三、二七〇	三〇六	
七	五、五	六、一〇	三、〇三	八八	三、一七六	二九八	
三	五、三	六、〇九	三、三一	八八	三、四一九	三〇四	

系統名	出穂期	成熟期	稈長	尺間莖數	反當收量	一升重量	平均收量
白皮赤二三號	五、二	六、一五	二、二六	一〇四	二、三三〇	三五二	二、二六六

ハ、小麦白皮種純系淘汰收量比較試驗  
 小麦白皮種十三系統ニツキ收量比較試驗ヲ行ヒタリ其ノ成績左ノ如シ

全	全	全	全	全	全	全	全	白皮	全	全	全	全	全	全
九七號	九二號	九〇號	七九號	七八號	七二號	六六號	六八號	一一二號	五七號	四九號	在來	四三號	四三號	四三號
五、三	五、二	五、二	五、三	五、三	五、三	五、二	五、二	五、二	五、一	五、二	五、二	五、一	五、二	五、二
六、一六	六、一六	六、一六	六、一七	六、一六	六、一六	六、一七	六、一七	六、一七	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五	六、一五
二、二二	一、九八	一、七八	二、一八	一、九六	一、八五	二、〇七	二、〇八	二、〇二	一、九一	一、九二	二、〇〇	二、〇四	二、〇四	二、〇四
一一七	九六	一〇三	一一三	九七	一〇〇	一二四	一二〇	九六	九五	九五	九三	九六	九六	九六
二、三五二	一、八五〇	一、七八五	二、二一七	一、六七七	一、九七七	二、一〇五	二、〇七二	二、三六三	二、一六三	一、七一	一、九一	一、八二	一、八二	一、八二
三六二	三六八	三六五	三五九	三五七	三六〇	三五九	三五八	三五四	三六一	三六〇	三五四	三五六	三五六	三五六
二、四三三	二、〇四四	一、九六三	二、二〇〇	一、九三五	二、一五	二、二四三	二、一九三	二、二七六	二、一五五	一、八九四	一、九五〇	二、〇〇一	二、〇〇一	二、〇〇一

ニ、小麥赤神樂種純系淘汰（收量比較試驗）  
 小麥赤神樂種ノ三系統ニツキ收量比較試驗ヲ行ヒタリ  
 其ノ結果次ノ如シ

一六號	出穗期	成熟期	稈長	尺間莖數	反當收量	一升重量	平均收量
四、三〇日	六、一七日	二、四〇	八八本	一、七七七	三四九	二、六四八	

ホ、小麥白神樂種純系淘汰（收量比較試驗）  
 小麥白神樂種第二號ト在來種トノ收量比較ヲナセルニ次ノ如シ

三二在	二在	系	系統名	出穗期	成熟期	稈長	尺間莖數	反當收量	一升重量	平均收量
〇一號	五、三	二在	系統名	五、三	六、一六日	二、〇〇	一〇一	二、三六〇	三六一	二、五三三
五、一	五、三	系	系統名	五、三	六、一六日	二、〇〇	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
四、三〇	五、三	系	系統名	五、三	六、一六日	二、〇〇	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
六、一六	六、一六	系	系統名	六、一六	六、一六日	二、〇〇	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
六、一五	六、一六	系	系統名	六、一六	六、一六日	二、〇〇	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
二、〇二	二、〇二	系	系統名	二、〇二	二、〇二日	二、〇二	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
二、〇一	二、〇一	系	系統名	二、〇一	二、〇一日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
八三	八三	系	系統名	八三	八三日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
九三	九三	系	系統名	九三	九三日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
八五	八五	系	系統名	八五	八五日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
一、七五五	一、七五五	系	系統名	一、七五五	一、七五五日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
一、八六二	一、八六二	系	系統名	一、八六二	一、八六二日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
一、八六九	一、八六九	系	系統名	一、八六九	一、八六九日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
三五四	三五四	系	系統名	三五四	三五四日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
三五三	三五三	系	系統名	三五三	三五三日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
三五五	三五五	系	系統名	三五五	三五五日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
二、二六一	二、二六一	系	系統名	二、二六一	二、二六一日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
二、五七四	二、五七四	系	系統名	二、五七四	二、五七四日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八
二、五八〇	二、五八〇	系	系統名	二、五八〇	二、五八〇日	二、〇一	九七本	二、二六一	三五四	二、三八八

ト、大麥坊主種純系淘汰收量比較試驗

系統名	出穂期	成熟期	稈長	尺間莖數	反當收量	一升重量	平均收量
坊主 一號主	四月二二日	五月二八日	二、三三	七〇 <sup>本</sup>	三、六一七	二七八	三、九七四
坊主 一號	四月二二日	五月二八日	二、二四	六五	三、四六四	二七七	三、七八八
坊主 一號	四月二二日	五月二八日	二、二七	六八	三、四二九	二七四	三、七八八
關取 原種	四月二三	五月二八	二、一九	六七	三、六六一	二九三	三、七八八
系統名	出穂期	成熟期	稈長	尺間莖數	反當收量	一升重量	平均收量
一號(當場)	五月三日	六月一五日	三、一三	五六 <sup>本</sup>	二、二九三	二九七 <sup>タ</sup>	二、六四四
一五號(久住中生)	五月三日	六月一〇	二、七八	六九	二、五五六	二九七	三、〇〇二
二號(當場)	五月三日	六月一五	三、四七	七一	二、八九三	三〇八	三、〇〇二
エビス號(早生)	四月一九	五月二八	二、〇三	八二	二、二〇三	三〇五	三、〇〇二
七五號(目黒)	五月三	六月九	二、八二	六五	二、一八二	三〇一	三、〇〇二
三五號(目黒)	五月三	六月九	三、一四	六一	二、四三九	三〇七	三、〇〇二
在來	五月五	六月一六	三、三一	六五	二、三五三	三〇〇	二、五四〇

チ、第一回ゴールデンメロン種純系淘汰(收量比較試験)

リ、小麥達摩種純系淘汰 第二次  
小麥達摩種四十四系統ヲ栽植シ特性調査ヲ行ヒテ比較的有望ト認ムルモノ十九系統ヲ選出セリ

八、利用面積ト施肥量關係試驗  
圃場ノ利用面積ト施肥量トノ關係ヲ知ランガタメニ左記試驗區ヲ設ケ試驗ヲ行ヒタリ其ノ成績ヲ示セバ左ノ如シ  
供試品種ハ關取ナリ

利用面積	施肥量	反當收量	一升重量	三ヶ年平均收量
二畝 普通	五分 減料	二、五九二	二八七 <sup>タ</sup>	二、九三二
全畝 普通	五分 增料	三、〇四八	二九四	三、四一一
全畝 普通	五分 增料	三、三四九	二九四	三、六六五
全畝 普通	五分 減料	四、〇七一	二八九	三、八三二
三畝 普通	五分 增料	二、四三八	二八六	二、七九三
全畝 普通	五分 增料	二、九三二	二九〇	三、三七三
三畝 普通	五分 增料	三、九九〇	二九四	四、〇三九
全畝 普通	五分 減料	四、一一三	二九四	四、二三九
全畝 普通	五分 增料	二、四七〇	二九〇	二、七七一
全畝 普通	五分 增料	二、七四一	二八五	三、二六二
全畝 普通	五分 增料	三、〇五二	二八六	三、六二三
全畝 普通	五分 增料	四、〇七九	二八七	四、〇四〇
全畝 普通	五分 減料	二、六三四	二八七	二、八八二

全	全	全
普通肥料	二割五分増	五割増
二、二四一	二、九六五	三、八五四
二八九	二九四	二九〇
三、三〇八	三、五一五	三、八九五

九、大麥增收試作  
圃場ノ利用面積ノ差ニヨル收量ノ増減ヲ見ントシテ試験セリ供用品種ハ關取ナリ

利用面積	反當收量	一升重量
五畝 四步	四、九〇〇	二九五
四畝 四步	四、六三〇	二九七
三畝 四步	四、九〇〇	二八八

第四雜穀

耕種梗概

- 一、種子、風選又ハ主トシテ肉眼ニ依リ選定ス
- 一、整地、播種前麥作ノ畦ヲ耕勸シ膨軟ナラシム
- 一、播種

種別	大豆	小豆	玉蜀黍	粟	黍	蜀黍	蕎麥	胡麻	落花
	豆	豆	黍	黍	黍	黍	麥	麥	花
播種期	五月	四月	五月	五月	五月	五月	五月	五月	五月
	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	下旬	中旬	中旬	下旬
播種量	四、〇	一、五	三、〇	〇、五	〇、五	〇、五	二、五	〇、五	〇、五
	升	升	升	升	升	升	升	升	升
播種法	點播	點播	點播	點播	點播	點播	點播	點播	點播
	二粒宛四寸間	二粒宛四寸間	三粒宛三寸間	二粒宛八寸間	條播	全系一粒	全系一粒	全系一粒	全系一粒
肥料名	原用肥		追肥		要肥		三成分		
	磷酸石灰	過磷酸石灰	磷酸石灰	過磷酸石灰	磷酸石灰	過磷酸石灰	磷酸石灰	過磷酸石灰	
原用肥		追肥		要肥		三成分			
三〇〇〇		二〇〇〇		一〇〇〇		一、五——二、〇			
三〇〇〇		二〇〇〇		一〇〇〇		一、二——一、五			

肥料名	原用肥		追量肥	三成分
	原	用		
堆過堆 磷 酸 石 灰 肥	一〇〇、〇〇〇	四、〇〇〇	五、〇〇〇	一、五——二、〇 一、四——二、〇 一、五——二、〇
其他ノ雜穀(胡麻玉蜀黍)				
堆過堆 磷 酸 石 灰 肥	一五〇、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	〇、八七〇 一、四五〇 三、一五〇

一、播種量

大豆玉蜀黍 坪三十六株植ノ點播トス(一株二—三粒)  
其他ハ蒔代四寸ニ撒播トシ五分内外ニ覆土ス

一、管理

イ、中耕 全二回施行

第一回 六月下旬

第二回 七月下旬

ロ、除草 全三回施行

第一回 六月下旬

第二回 七月下旬

第三回 八月下旬

但シ中耕除草追肥等ノ作業ハ同時ニ兼ネ行フ

雜穀

一、各種品種比較試驗(大豆、小豆、粟、黍、玉蜀黍、蜀黍)

本縣ニ於テ廣ク栽培セラル、品種及ビ他縣ニ於テ優良ト認メラル、品種ニツキ優劣ヲ比較センタメ大豆二十一品種小豆九品種粟十一品種黍五品種、玉蜀黍九品種、蜀黍八品種ニツキ試驗ヲ行ヒタリ内比較的優良ナリシモノヲ舉グレバ次ノ如シ

大豆、生娘、毛ブルーイ、鮎皮、青柳、銀杏、鮎

小豆、多古金時、白、早生大粒、神納金時、多古早生



粟、三尺粟、馬鹿粟、笹穂長  
 黍、(雀害ノタメニ調査不能ナリ)  
 玉蜀黍、ウキス、コンシング第八 白、中生、ブラツクメキシカン  
 蜀黍、豊産、千代田糯

二、大豆播種期試験  
 播種ノ適期ヲ知ラントシテ前年ト同様ノ試験ヲ行ヒタリ其ノ成績左ノ如シ

區名	開花期	反當收量	一升重量
五月五日播	七月二七日	〇、三四八	三三八
五月廿日播	七月二八	〇、五六七	三四四
六月四日播	七月二八	〇、六八二	三五二

三、小豆播種期試験  
 前者ト同ジ目的ニテ同ジ區制ニテ試験セリ成績左ノ如シ

區名	開花期	成熟期	反當收量	一升重量
五月五日播	七月三〇日	九月一日	〇、四二七	三五八

五月廿日播	七月三二	九月二	〇、三四八	三七四
六月四日播	七月三二	九月二	〇、五五八	三八四

四、大豆生娘種純系淘汰 第四次試験  
 大豆生娘種ノ比較的優良ナル二十系統ニツキ收量比較試験ヲ行ヒタリ其ノ成績次ノ如シ 早害ニテ本年ハ收量減少セリ

系統名	稈長	莖數	開花期	反當收量	一升重量
第一號	二、一三	四、本	七月二二日	〇、七〇三	三五〇
第二號	二、二六	四、三	七月二三	〇、四九八	三五四
第三號	二、〇九	五、五	七月二三	〇、九五二	三六三
第四號	二、三六	五、七	七月二四	一、一五四	三六三
第五號	二、〇九	五、〇	七月二三	一、〇八五	三六九
第六號	一、七一	六、六	七月二二	一、〇八九	三六二
第七號	一、八五	六、三	七月二二	一、〇一九	三六二
第八號	二、二二	六、八	七月二三	〇、七〇一	三五六
第九號	二、三八	四、四	七月二三	〇、八四四	三五二
第十號	二、二七	四、四	七月二三	〇、六九四	三五六
第十一號	二、三七	六、〇	七月二二	〇、六四二	三五九

第	第	第	第	第	第	第	第
七	八	九	九	九	一	一	一
七	〇	〇	二	四	八	六	九
號	號	號	號	號	號	號	號
二、三三	二、二九	二、二四	二、一四	二、〇五	二、二八	二、二二	二、二一
四、四	七、四	五、五	四、四	四、五	七、四	四、七	五、四
四、四	一、四	一、一	二、一	七、二	五、七	四、〇	一、四
七、二二	七、二三	七、二三	七、二三	七、二三	七、二三	七、二二	七、二二
〇、八九八	〇、八五七	〇、八九三	〇、八一七	〇、六四六	〇、八一七	〇、四四二	〇、四六九
三五四	三五七	三六〇	三五九	三四九	三五五	三五六	三五二

五、落花生播種期對株間試驗  
 播種期ト株間ノ距離トノ關係ヲ知ランガ爲ニ旬性種ニツキ左表ノ區制ノモトニ試驗セル五月十八日十  
 二株植最良ナリキ

區名	株	稈長	分枝長	莖數	反當收量		合計
					上味	下味	
五月四日	一〇株	二、四八	一、一〇	三、九	六九、二五〇	二、三五〇	九二、五〇〇
五月十一日	一〇株	二、四五	一、〇八	四、〇	七四、二五〇	一、二二五〇	八六、五〇〇
五月十八日	一〇株	二、八八	一、〇一	三、九	七〇、七五〇	一、一七五〇	八二、五〇〇

第五 農林省指定試驗

一、製粉用小麥品種比較試驗  
 優良品種ヲ選出センタメ十五品種ニツキ繼續試驗ヲ行ヘリ  
 其ノ成績ノ大要ヲ左ニ記ス

品名	成熟期	稈長	反當收量	一升重量	製粉歩合	四ヶ年平均反當收量
若槻	六月二日	三、一五	一、二二	三、九	七、七	一、九五
達摩	六月二〇	三、〇二	一、一八	三、〇九	七、四	二、一四
相州	六月三	三、三	一、三三	三、〇	七、五	二、〇七
金羅	六月八	三、三七	一、〇五七	二、五九	七、〇	一、九六七
細内	六月七	三、〇五	〇、八六六	三、三	七、三	一、九二七
身拔	六月八	三、三五	一、四八三	三、八	七、一	二、一五二
東錦	六月八	二、五七	一、三七五	三、四	七、〇	二、一三六
細千	六月八	三、一	一、三七七	三、〇	七、四	二、〇八一
赤千	六月八	三、〇四	一、一七四	三、八	七、八	一、九五

新田	白	赤	江島	志摩	達摩
早生	ダマ	ダマ	マ七	神力	群馬
四號	七號	七號	力	賀	馬
六、一六	六、一四	六、一六	六、一八	六、一六	六、一八
三、二〇	二、三六	二、五二	三、一九	二、三八	二、九五
一、二八六	一、四六五	一、四八三	一、五六〇	一、三二	一、三二
三、一五	三、三三	三、四	三、五	三、九	三、九
七、三	七、三	七、一	七、一	七、八	七、一
二、〇三九	二、一六六	二、〇七九	一、八七五	二、〇六九	一、九七三

茲四ヶ年ノ本試験成績ニヨレバ白達摩四號並ニ東錦ハ有望ナルモノ、如シ

二、製粉用小麥肥料試験

製粉用小麥ニ就キ肥料三要素ノ適量ヲ定メシメ爲メ大正十三年度試験成績ニ基ツキ更ニ試験ヲ繼續セリ  
供用品種名相州ニシテ十八區制ナリ成績大要左ノ如シ

窒素	磷酸	加里	成熟期	反當收量	一升重量	製粉歩合	四ヶ年平均反當收量
一	一	一	六月二日	一、五五四	三四二	七五、八	一、九八七
二	二	二	六月二日	一、三七二	三四二	七六、三	一、八四二
三	三	三	六月二日	一、二二七	三四六	七六、八	一、七〇五
四	四	四	六月二日	一、一八五	三五四	七七、二	一、八三三
五	五	五	六月二日	一、〇九三	三三八	七四、六	一、八四六
六	六	六	六月二日	二、一七九	三五〇	七六、一	二、一四三

茲四ヶ年ノ成績ニ依レバ收量ハ大体ニ於テ窒素用量ニヨリテ左右セラレ窒素反當二—三貫目施用ノモ  
ノ比較的多收ナリ而シテ無窒素區ハ連年收量最モ劣ル  
磷酸ハ窒素ニ次ギ必要ニシテ二貫目—四貫目ヲ加用スルモノ收量品質共ニ佳良ナリ  
加里ノ必要ハ前二者ニ比シ稍少キモ尙反當二貫乃至三貫ヲ施用スルハ有利ナリト考ヘラル  
麥作期間中生育ノ初期ニ於テハ比較的高温多雨ノ爲メ稍徒長ノ嫌アリシモ後早天持續ニ依リ徒長抑制  
セラレ其ノ後氣候概ネ順調ニ向ヒタレドモ春分以後屢々低温襲來セルト且ツ乾害トニヨリ生育漸次阻  
害セラレ抽穂後ノ伸長モ亦不良トナレリ

三	三	〇	五	四	四	三	三	三	二	二	二
三	〇	三	一	二	一	三	二	一	四	三	二
〇	三	三	一	一	二	一	二	三	一	二	三
六、二三	六、二三	六、二〇	六、二三	六、二三	六、二三	六、二三	六、二三	六、二三	六、二三	六、二二	六、二二
一、四五二	一、四四一	〇、七三二	二、〇〇〇	二、六七七	二、三七五	二、六八九	二、九三〇	二、五五〇	二、五五八	二、三三八	二、二六六
三七	三三	三六	三四	三四五	三三八	三四五	三四九	三四〇	三四七	三四三	三五四
七五、九	七三、五	七五、〇	七三、七	七三、四	七五、二	七五、七	七五、六	七六、〇	七五、二	七五、九	七五、〇
一、九二四	一、六八二	一、二七四	二、一七七	二、五七一	二、四三九	二、六八三	二、七九〇	二、六二五	二、六五九	二、七〇五	二、五二九

三、落花生品種試験  
 製菓用ニ適スル早熟豊産ニシテ品質優良ナル品種ヲ選定セントテ前年度成績ニ基キ九品種ニツキ本縣  
 匝瑳郡共和村ニ於テ試験ヲ繼續セリ其ノ成績大要次ノ如シ

品 種 名	成 熟 期	稈 長	子 實 莢 付 收 量	子 實 莢 付 一 オ ン ス 粒 數	反 當 年 平 均 收 量
在 來 種	10、20日	2、47尺	54、500	9、4粒	(5)
直 隸 省 御 河 沿 岸	10、20	2、45	58、100	10、8	(5)
千 葉 一 四 六 號	10、20	2、45	60、500	9、7	(5)
山 東 省 一 等 品 選 出	10、20	2、54	59、100	10、5	(5)
膠 州 府 產	10、20	2、61	57、600	9、9	(5)
西 班 牙 產	10、20	2、47	57、000	9、3	(5)
千 葉 一 號	10、20	2、44	63、000	10、7	(5)
純 七 號	10、20	2、40	56、100	8、9	(1)
純 七 號	10、20	2、40	57、000	10、2	(1)
立 ラ ク ダ ニ 號 (十二株入)	10、25	1、41	57、200	9、3	(2)
立 ラ ク ダ ニ 號 (十五株入)	10、25	1、34	57、500	9、1	(-)
立 ラ ク ダ ニ 號 (十八株入)	10、25	1、36	54、800	9、4	(2)

茲五ヶ年ノ試験成績ニヨレバ西班牙千葉一號ハ最優良ト認ムベキモノナラン、尙立ラクダニ〇號ハ大粒種ノ優良ナルニ依ツテ前者ト共ニ當場純系淘汰試験優良系ヲ挿入繼續試験ノ上其ノ優劣ヲ決定セン

トス

四、落花生純系淘汰 其ノ一  
 製菓用ニ適スル早熟豊産ニシテ品質優良ナル系統ヲ選出セントテ當場内ニ於テ千葉在來種(匍性)八系  
 統ヲ栽植シ純系淘汰第五次收量比較試験ヲ行ヘリ其ノ内有望ト認ムベキ六系統ヲ選抜セリ其ノ成績大  
 要左ノ如シ

系 統 名	成 熟 期	稈 長	子 實 莢 付 收 量	子 實 莢 付 一 オ ン ス 粒 數	反 當 年 平 均 收 量
第 二 號	10、25日	1、27尺	63、300	9、7粒	66、083
第 二 號	10、27	1、19	66、050	8、8	65、017
第 四 號	10、27	0、94	73、350	9、6	70、117
第 五 號	10、27	0、94	79、050	9、3	72、900
第 六 號	10、27	1、24	52、500	10、7	64、800
第 七 號	10、24	0、91	60、900	9、9	66、050
第 七 號	10、24	1、09	64、500	9、0	67、167
第 七 號	10、25	1、12	58、650	10、0	67、817
第 七 號	10、25	1、06	62、000	10、4	63、692

五、落花生純系淘汰其ノ二

輸出向製菓用ニ適スル早熟豊産ニシテ品質優良ナル極大粒系統ヲ選出セントテ各府縣產極大粒種三十系統ヲ栽植シ純系淘汰第二次試驗ヲ行ヒ比較的優良ナルモノ十系統ヲ選抜セリ

六、落花生肥料試驗其ノ一

製菓用落花生ニツキ肥料三要素ノ適量ヲ定ムル目的ニシテ十三區ヲ設ケ地方在來種ヲ標準トシ本縣匝瑳郡共和村ニ委託地ヲ設ケテ施行セリ 其ノ成績大要左ノ如シ

肥料	N	P	K	上實子實莢付		子實莢付 粒數
				反當	收量	
〇、〇、〇	〇、〇、〇	〇、〇、〇	二、〇	六四、七〇五	九、四	
〇、〇、五	〇、〇、〇	二、〇	三、〇	六一、一四八	九、六	
〇、〇、〇	〇、〇、〇	二、〇	三、〇	六一、八三九	九、六	
〇、〇、〇	〇、〇、〇	二、〇	二、〇	五七、六一六	九、五	
〇、〇、〇	〇、〇、〇	二、〇	三、〇	五四、〇二〇	九、四	
〇、〇、〇	〇、〇、〇	二、〇	四、〇	六〇、四一〇	九、八	
〇、〇、〇	〇、〇、〇	二、〇	四、〇	六七、八五四	九、四	
〇、〇、〇	〇、〇、〇	二、〇	三、〇	六二、五九九	九、七	
〇、〇、〇	〇、〇、〇	二、〇	四、〇	六〇、八九九	九、七	
〇、〇、〇	〇、〇、〇	二、〇	五、〇	五五、二六〇	九、四	
〇、〇、〇	〇、〇、〇	二、〇	五、〇	五七、一一四	九、五	

圃場栽培狀況並ニ生育收量及品質調査表ヲ通覽スルニ僅カ一ケ年ノ成績ヲ以テ論斷スルコトヲ得ス  
備考、第十三區ハ地方在來施用量ヲ標準區トシテ示ス

七、落花生肥料試驗 其ノ二

本縣下ノ海岸砂地ニシテ從來落花生栽培ニ成功セザリシ所又ハ他作物ヲ栽培シ得ザル所ニ於テ石灰肥料ノ價值ヲ知ラントシ匝瑳郡共和村ニ於テ石灰區並ニ無石灰區ヲ設ケテ試驗ヲ行ヘリ 其ノ成績大要次ノ如シ

區名	草丈	分枝數	子實莢付重量			全上剝實重量		
			上	中	計	上	中	下
甲(1) 石灰加用	二、三	四、五	二七、九	一一、五	五三、七	二二、一	七、九	二、五
乙(1) 石灰加用	二、五	四、九	一六、六	一四、八	四七、九	五、九	四、五	二、〇
甲(2) 石灰加用	二、四	四、七	二七、六	一一、八	五六、九	一四、三	八、六	三、一
乙(2) 石灰加用	二、四	四、八	二一、八	一四、六	三八、三	三、〇	一、九	一、一
甲(1) 石灰加用	二、〇	四、七	一七、〇	一五、〇	四五、七	七、五	一、六	四、六
乙(1) 石灰加用	一、九	四、七	一三、八	一四、六	二九、九	一、六	二、一	二、一
甲(2) 石灰加用	一、九	四、八	一三、一	一四、四	四〇、九	六、一	五、六	四、二
乙(2) 石灰加用	一、六	四、八	一〇、五	一四、四	四六、三	四、一	四、八	四、八
計	二、三	四、五	二七、九	一一、五	五三、七	二二、一	七、九	二、五
計	二、三	四、五	二七、九	一一、五	五三、七	二二、一	七、九	二、五

均平	(1) 石灰 加用	二、三	四、七	一九、六	一六、三	一三、二	四九、一	一〇、〇	七、四	三、六	二一、〇
(2) 無 石 灰		二、三〇	四、九	一一、三	一三、〇	一六、四	四〇、七	三、七	三、三	二、五	九、五

備考 表中各區共十二株宛(二坪框)ノ平均數字ニシテ一株調査ヲ示ス  
圃場ノ栽培狀況並ニ生育收量品質調査ヲ見ルニ僅カ一ケ年ノ試驗成績ヲ以テ之ヲ論斷スルハ早計ノ嫌  
ヒアレドモ概シテ石灰施用區ハ無、石灰區ニ比シ莢付粒數少ケレドモ空莢並莢付下實少キヲ以テ反當  
莢付重量及ビ剝實重量ハ却ツテ優レルガ如シ

### 第六 綠肥用作物

- 耕種梗概
- 一、種子 鹽水選シタルモノヲ用フ
  - 二、整地 前作收穫後蒔付一週間前ニ於テ整地ス
  - 三、肥料 堆肥二〇〇<sup>斤</sup>〇〇〇 過磷酸石灰五〇〇〇 草木灰一五〇〇〇
  - 四、播種 十月下旬前記肥料施與後株間一尺ニ三粒宛ツ、ノ點播トス發芽後間引キテ一本トス
  - 五、管理 病虫害風等ノ防除ニツトメ生育一尺位トナリタル時支柱ニテ倒伏ヲ防グ
  - 六、採種 六月下旬ヨリ七月上旬ニ亘リ二回位ニ莢實ノマ、採種ス
  - 七、調査 種子收量調査生育調査並ニ病虫害ノ有無等ニ就キ調査ス(調査簿ニ依ル)
- 「ザアトウイッケン」種子増殖  
場用並ニ縣内配付用種子生産ノタメ畑地六十坪ニ栽培シ精選種子一斗四升五合八勺ヲ得タリ

### 第七 水田裏作

- 耕種梗概
- 一、麥 種子 關取原種ニシテ畑部ヨリ種子ヲ受ケ(詳細ハ麥類耕種梗概ニ依ルベシ)
  - 二、整地及施肥 可成排水ヨキ水田ヲ稻刈後直チニ耕起シ巾五尺溝二尺ノ畦トナシ溝ハ兩側五尺ニ土ヲ上ゲ土塊ヲ細碎シ整地ヲナス南北ニ畦巾二尺五寸畦ヲ切り(深サ三四寸)堆肥鰯粕、過磷酸石灰、糞灰ノ混合シタルモノヲ施シ其ノ上ニ人糞尿ヲ施シテ薄ク覆土ス
  - 三、肥料 但シ一反步當

肥料名	用量	原肥	追肥	
			一回	二回
堆肥	三〇〇 <sup>斤</sup>	三〇〇 <sup>斤</sup>	七〇	七〇
人糞	二一〇	七〇	一〇〇	一〇〇
鰯粕	二〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
過磷酸石灰	一六〇	八〇	一〇〇	一〇〇
磷灰	五〇	二五	一〇〇	一〇〇

追肥ハ第一回ハ畦ノ一方ニ溝ヲ堀リテ與ヘ第二回ハ他方ニ同一方法ニテ施肥スルモノトス(一月中旬、二月中旬)

四、播種

播種期 十月下旬  
播種量 反當三升(特別ノモノハ此ノ限リニ非ズ)  
播種法 原肥ヲ施シ薄ク覆土セバ八寸ノ蒔巾ニ播下シ三四分ノ厚サニ土ヲ覆ヒ其ノ上ヲ輕ク踏ミツケテ置ク

五、管理

踏壓、四回(十一月下旬、十二月下旬、一月下旬、二月下旬)  
試験法及生育ノ狀況ニ依リ多少ノ參酌ヲ要ス  
中耕、三回(十二月下旬、二月上旬、四月上旬) 最後ハ土寄ヲナス  
土入、四回(土質及排水ノ關係ニ係リ施行ス)  
除草、二回三月ニ行フ(雜草發生ノ狀況ニヨリテ加減ス)

六、收納

適期ニ刈取り麥架ニテ乾燥ス而シテ收量比較ノ際必ズ番外區ヲ設ケ試験ノ誤差ヲ少カラシム

七、調製

適度ニ乾燥セルモノヲ輪轉機ニテ脱穀シ連枷ニテ芒ヲ除去シテ調製ス

八、調査

生育並ニ收量調査ヲ行フ詳細ハ調査簿ニ依ル  
尙收量調査ト同時ニ品質ノ査定ヲ行フ

九、採種

行ハズ

二、綠肥作物

- 一、種子、充實セル整一ナルモノヲ塩水選シテ用フ
- 二、整地、排水良好ナル地ヲ選定シ畦立スルモノニアリテハ巾四尺溝二尺ヲ以テ溝ノ土ヲ兩側ノ四尺面ニアゲ土塊ヲ細碎シテ地均ラシテ行フ而シテ畦巾二尺播畦ヲ横(南北)ニ切り施肥シテ畦ヲ設ケサルモノハ四方ニ排水溝ヲ設クベシ
- 三、種類、ザアトウキツケン、豌豆、紫雲英、ウイインタールベツヂ
- 四、肥料、但シ一反步當

堆肥	二〇〇〇	人糞尿	三〇〇〇〇〇(五六倍稀薄)
過磷酸灰	五、〇〇〇	灰	五、〇〇〇
畦作ノモノ	一五、〇〇〇	畦作セザルモノ	一五、〇〇〇

備考 畦作りハ全部原肥トス

五、播種

播種期 十月上旬  
播種量 點播二升五合 條播 二、五—三、五升  
注意 播種前一晝夜間種子ヲ水ニ浸シ發芽ヲ促進ス  
苜蓿ハ水ニ浸シ灰ヲ塗ル

苜蓿ハ苗床ヲ作り後本圃ニ移植スルモノトス  
(苗床ハ床地ヲ耕起シ播種二三日前下肥ヲ一畝步三、四荷ノ割合ニ施シ畦巾一尺五寸株間四寸二條播一坪當一升トシ灰ヲ施シ更ニ種糞ノカタル、程度ニ覆土ス種子ハ播種前一晝夜水ニ浸シ蒔ク前ニ灰ヲ塗ル本圃ハ二尺五寸ノ株間ヲ以テ一列ニ七、八寸ノ淺孔(深サ

- 三、四寸ヲ穿チ其ノ中ニ施肥シ十一月中旬植ヘ
- 六、管理 排水ヲハカリ若シ水停滞スルトキハ巾一尺深サ六七寸ノ溝ヲ早ク穿ツベシ
- 七、收穫 開花後直チニ刈取ルベシ
- 八、乾燥 雨ニ逢ハザル様數日間乾燥スベシ
- 九、採種 採種ノモノハ左ノ手續ニ依ルベシ  
 豌豆、ザアトウキツケン、ウインターベツヂハ支柱ヲ立テ、倒伏ヲ防グベシ  
 苜蓿ハ種子稍々褐色ヲ帯ビタル時毎株ノ莖ヲ集メ藁ニテ束シ熟シタル時刈取リ連枷ニテ打チ採種スベシ

一、大麥土入及踏壓回数試験

大麥ノ土入及踏壓ノ回数ニ就キ其ノ適度ヲ知ランガタメニ不行、二回施行、三回施行ノ區制ヲ設ケテ試験セリ其ノ結果左ノ如シ

區	名	程長	穗一尺間數	出穗期	成熟期	反當收量	一升重量
不	行	二、三三	四、九 <sup>本</sup>	四、二三 <sup>日</sup>	五、三二 <sup>日</sup>	一、五九八	二八一 <sup>斤</sup>
二	回	二、二〇	四、六	四、二三 <sup>日</sup>	五、三二	二、〇七九	二八九
三	回	二、五二	八、一	四、二六 <sup>日</sup>	五、三二	二、八八三	二九〇

供試品種、關取

備考 水田ノ北側ハ排水良好ナラズ爲メニ生育不良不均一ヲ免レズ  
 土壤濕潤ノ爲メ土入ヲ施行シ得ザリキ  
 收量ノ點ヨリ見レバ回数ノ多キ程收量増加スルヲ見ル水田裏作ニ於テモ畑作ハ同様ニ踏壓ヲ相等回数行フハ成績良好ナルヲ認ム

二、大麥播種法比較試験

點播、撒播、條播ノ何レガ收量多キカヲ比較セリ

區	名	程長	一尺間穗數	出穗期	成熟期	反當收量
點	播	二、四七	六〇 <sup>本</sup>	四、二六 <sup>日</sup>	五、三一 <sup>日</sup>	一、九五〇
撒	播	二、二六	五四	四、二三 <sup>日</sup>	五、三一	二、〇八〇
條	播	二、二一	四七	四、二三 <sup>日</sup>	五、三一	一、八七七

備考、水田ノ北側ハ排水不良ナル爲メ生育不良不均トナレリ  
 撒播ガ收量最モ多ク點播條播コレニ次ゲリ  
 本年ハ初回ニシテ尙續行ヲ要ス

三、ザマートウキツケン畦立試験

水田ノ濕潤ナル爲メニ畦立ヲナシ播種ノ適期ヲ知ランガタメノ試験ニシテ其ノ成績左ノ如シ



區名	全長	反當		收量		年平	
		生草量	乾草量	生草量	乾草量		
十月五日播	五、三七 <sup>六</sup>	七八七、〇〇〇	一二五、〇八二	(五) 七七四、二三七	一四一、一五二		
十月十日播	五、四二	六七五、〇〇〇	一〇一、四四五	(三) 七六一、〇〇〇	一三四、九九九		
十月十五日播	五、〇四	八二八、〇〇〇	一二七、二六八	(三) 七五〇、六八九	一三七、五七九		
十月二十日播	五、二七	六七八、九〇〇	一〇九、六九六	(一)			

十月十日播甲區ト十月廿日播乙區ハ鼠害ヲ被レリ

四、裏作緑肥品種比較試験  
水田裏作用トシテ適セル緑肥ノ種類ヲ選種センタメニ比較試験ヲ行ヒタリ、サント播種期ノオクレタル爲メ成績良好ナラズ「カナダエンドウ」ノ如キハ寒氣ノタメニ生長セズ僅カニ數本ニスギザリキ

品種名	草丈(全長)	生草量	乾草量	乾草量歩合
ザアトウキツケン	三、八八 <sup>R</sup>	五七五、六二五	九三、二九三	一六、二
紫雲英	二、六六	七〇四、五五〇	八九、八九八	一二、八
ウキンターベツチ	三、八四	四四五、五〇〇	七五、七二三	一七、〇

### 第八 農具試験

一、畜力耕耘機ニ關スル試験  
(一) 試験ノ目的  
最近本縣ニ於ケル耕地面積ノ大半ハ牛馬耕ヲ行フモノニシテ一般農家ガ其ノ使用スル犁ノ優秀ナルモノヲ選バントスルハ當然ニシテ其ノ選澤ノ如何ガ能率効程等ニ齎ラス影響ハ今更詳述スルノ必要ヲ認メズ依テ本試験ハ深耕ノ目的ヲ以テ近來普及シツ、アル縣内各種畦立用犁ニ就テ其ノ優劣ヲ比較調査シ其ノ優秀ナルモノヲ選抜シ以テ該農具使用者ノ參考ニ資セントス

(二) 供用犁名並ニ農具販賣所  
本試験ニ使用セル犁ハ當管内ニ於テ製作使用セラル、モノヲ主トシ尙之レニ他府縣獎勵農具中特ニ優秀ト認メラレツ、アルモノ數種ヲ加ヘ合計十七台ニ就テ比較調査ヲナセリ

番號	犁ノ名稱	住製	所作	氏者
1	鎌形犁	千葉縣海上郡旭町太田		鎌形 藤作
2	東海一犁	千葉縣山武郡橫芝町		齋藤 喜三郎
3	ヤマ都都一犁	千葉縣香取郡八都村		齋藤 宇兵衛
4	八都都一犁	千葉縣香取郡小見川町		岩立 鐵工場
5	野中一犁	千葉縣香取郡八日市場町		野中 鐵工場
6	福富一犁	千葉縣匝瑳郡八日市場町		石崎 鐵工場
7	土橋一犁(甲)	千葉縣君津郡久留里町		土橋 隆治

(口) 實地使用審査

17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
八松田	上見山	深野犁	磯野犁	全野犁	磯島犁	大津犁	君津犁	全津犁	土橋犁	福富犁	野中犁	八都犁	ヤ海犁	東海犁	鎌形犁	
		(大正)	(青松)	(磯風)	(兩用)	(甲)	(乙)	(甲)	(甲)							
一三、〇〇	一八、〇〇	一五、〇〇	一三、二〇	一三、六〇	一五、六〇	二〇、〇〇	二〇、〇〇	一五、〇〇	一五、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇	一三、〇〇
三、三〇〇	三、〇〇〇	三、二〇〇	三、三〇〇	三、六〇〇	三、五〇〇	二、六〇〇	二、八〇〇	三、五〇〇	三、四九〇	三、九〇〇	三、六〇〇	三、三〇〇	三、三〇〇	二、七〇〇	三、二〇〇	三、二〇〇
全	有	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	全	有	全	有
全	普	全	全	普	全	全	普	全	否	全	全	全	全	全	全	普
全	互	全	全	有	全	有	無	無	全	全	全	全	全	互	全	有
全	無	無	無	便	全	全	普	無	全	全	全	全	全	全	全	普
否	中	中	全	良	全	全	全	良	全	中	全	否	全	良	全	良
否	中	中	全	良	全	全	良	中	全	全	全	否	全	全	全	中

番號

名

稱

價格

重量

耕法深淺裝置  
有 無 便 否

耕幅深淺裝置  
有 無 便 否

良材  
否 料

良製  
否 作

(三) 供用土質及耕起方法  
本試驗ニ供用セル田並ニ畑ハ左記ニ土性ヲ選ビ各機一回ニ付キ畦巾三尺五寸深サ四寸ヲ規準トシテ犁ノ種類ニ從ヒ四回乃至五回往復ニテ耕起シ犁牽引力側定器ニヨリ其ノ低抗ヲ計レリ

(四) 試驗成績  
一、粘土地 夷隅郡國吉町畑並田  
二、砂土地 夷隅郡東海村畑並田

(一) 構造考案審査

17 16 15 14 13 12 11 10 9 8

八松田	上見山	深野犁	全野犁	磯野犁	磯島犁	大津犁	君津犁	土橋犁								
		(大正)	(磯風)	(兩用)	(青松)	(甲)	(乙)									
犁	犁	犁	犁	犁	犁	犁	犁	犁								

全 千葉縣君津郡中郷村  
熊本縣熊本市琴平町七三  
福岡縣福岡市上土居町

全 長野縣小縣郡蘆川村  
茨城縣筑波郡北條町

谷田部賢明	松山原造	全	深見平治郎	全	全	磯野七平	菊住伊八	中田直治郎	全							
-------	------	---	-------	---	---	------	------	-------	---	--	--	--	--	--	--	--

番號	犁名稱	單位抵抗 Kg	全上(匆)	單位抵抗 Kg	全上(匆)
16	鎌形犁	三、四九	九三、八	一、五二	四〇五、八
15	東海犁	三、七四	九九、六	一、七二	四五六、六
14	ヤマヘー梨	二、一九	五八四、七	一、五七	四九二、二
13	八都梨	二、八〇	七四七、六	一、四六	三八九、八
12	野中梨	二、五九	六三八、一	一、四四	三九九、一
11	磯野梨	二、五二	六八八、九	一、四三	四一、二
10	大島梨	二、七	七三九、六	一、四二	三七九、一
9	君津梨	三、二	八三〇、四	一、四四	三八四、五
8	全橋梨	二、七	七三九、六	一、四二	三七九、一
7	全土梨	二、七	七三九、六	一、四二	三七九、一
6	福野梨	二、七	七三九、六	一、四二	三七九、一
5	八野梨	二、七	七三九、六	一、四二	三七九、一
4	ヤマヘー梨	二、七	七三九、六	一、四二	三七九、一
3	東海犁	二、七	七三九、六	一、四二	三七九、一
2	鎌形犁	二、七	七三九、六	一、四二	三七九、一
1	鎌形犁	二、七	七三九、六	一、四二	三七九、一
16	松山梨	三、〇〇	八〇一、〇	一、三八	三六八、五
15	上田梨	二、四六	六五六、八	一、三六	三三三、一
14	深見梨	二、二五	六〇〇、八	一、三九	三七一、一
13	全磯野梨	二、二八	七四一、三	一、一五	三〇七、一
12	全磯野梨	二、二七	五七九、四	一、一〇	三〇〇、四
11	磯野梨	二、二七	七五八、三	一、一五	三三〇、五
10	大島梨	二、二七	七三九、六	一、一三	三三三、一
9	君津梨	二、二七	七三九、六	一、一四	三三一、一
8	全橋梨	二、二七	七三九、六	一、一四	三三一、一
7	全土梨	二、二七	七三九、六	一、一四	三三一、一
6	福野梨	二、二七	七三九、六	一、一四	三三一、一
5	八野梨	二、二七	七三九、六	一、一四	三三一、一
4	ヤマヘー梨	二、二七	七三九、六	一、一四	三三一、一
3	東海犁	二、二七	七三九、六	一、一四	三三一、一
2	鎌形犁	二、二七	七三九、六	一、一四	三三一、一
1	鎌形犁	二、二七	七三九、六	一、一四	三三一、一

(ハ) 抵抗力審

番號	犁名稱	單位抵抗 Kg	全上(匆)	單位抵抗 Kg	全上(匆)
17	八田部梨	否	否	否	否
16	松山梨	全	全	全	全
15	上田梨	稍良	全	全	全
14	深見梨(大正)	全	全	全	全
13	全(磯風)	全	全	全	全
12	全(兩用)	全	全	全	全
11	磯野梨(青松)	良	全	全	全
10	大島梨(甲)	稍良	全	全	全
9	君津梨	中	中	中	中
8	全(乙)	中	全	全	全
7	土橋梨(甲)	全	稍良	全	全
6	福富梨	全	全	全	全
5	野中梨	否	中	中	中
4	八都梨	稍良	全	全	全
3	ヤマヘー梨	良	中	中	中
2	東海犁	全	全	全	全
1	鎌形犁	否	良	全	全
17	八田部梨	否	全	全	全
16	松山梨	全	全	全	全
15	上田梨	稍良	全	全	全
14	深見梨(大正)	全	全	全	全
13	全(磯風)	全	全	全	全
12	全(兩用)	全	全	全	全
11	磯野梨(青松)	良	全	全	全
10	大島梨(甲)	稍良	全	全	全
9	君津梨	中	中	中	中
8	全(乙)	中	全	全	全
7	土橋梨(甲)	全	稍良	全	全
6	福富梨	全	全	全	全
5	野中梨	否	中	中	中
4	八都梨	稍良	全	全	全
3	ヤマヘー梨	良	中	中	中
2	東海犁	全	全	全	全
1	鎌形犁	否	良	全	全
17	八田部梨	否	全	全	全
16	松山梨	全	全	全	全
15	上田梨	稍良	全	全	全
14	深見梨(大正)	全	全	全	全
13	全(磯風)	全	全	全	全
12	全(兩用)	全	全	全	全
11	磯野梨(青松)	良	全	全	全
10	大島梨(甲)	稍良	全	全	全
9	君津梨	中	中	中	中
8	全(乙)	中	全	全	全
7	土橋梨(甲)	全	稍良	全	全
6	福富梨	全	全	全	全
5	野中梨	否	中	中	中
4	八都梨	稍良	全	全	全
3	ヤマヘー梨	良	中	中	中
2	東海犁	全	全	全	全
1	鎌形犁	否	良	全	全

(五) 試驗概評

以上ノ成績ヲ綜合シテ案ズルニ各機共ニ一長一短アリテ直チニ優劣ヲ判定シ難ケレ共試驗ノ成績ニ鑑ミ比較的優良ト認メラル、モノニツキ概評ヲ試ムレバ次ノ如シ

第一、鎌形犁

東海犁ト共ニ本縣下海岸地方砂地ニ於テ獨占的ニ使用セラレツ、アルモノニシテ洋型、耐久性ニ富ミ耕盤ハ水平的ニ握幅一定シ反轉モ亦整然タリ

然レ共握ノ斷面ハ角型ヲナスヲ以テ碎土ハ稍不良ニ且ツ握ノ反轉作用充分ナラズシテ揆土低キガタメ畦立ニハ絶對ニ不可能ナリ又平勸ト雖モ耕土ヲ天地返シニ反轉シ得ザルタメ雜草地

若シクハ粘土地ニハ握土ガ長ク連續反轉シ使用ニ困難ナリ尙又犁床部比較的長キニ依リ犁ノ安定佳良ニシテ使用上技術ヲ要セザレドモ轅ノ先端低キガタメ引繩ヲ長クシテ使用スルノ必要ト共ニ犁体重キトニヨリ役畜ヲ馭スルニ不便ナリ

以上ニ依テ本犁ハ縣下海岸ノ濕田及土質輕鬆ナル畑地用トナス

第二、ヤマヘー犁

第三、八都犁

共ニ互用犁ニシテ機体輕ク反轉作用完全ニシテ抵抗力少ナク使用容易ナリ 然レドモ鏝ハ土握ニ對スル抵抗力弱ク且ツ耕幅ヲ調節スルニ困難ヲ生ズルタメ深耕スルニ從ツテ握巾廣ク反轉作用ヲ不完全ニナラシムルノミナラズ使用上種々ノ故障ヲ生ズルノ嫌アリ尙耕構間ニ三角形ノ耕土ヲ多少殘スノ欠點アレドモ耕盤ハ殆ンド水平的ニシテ深淺略一定スルヲ以テ平勸ノ

如キ場合ニハ耕起不整ナラザレドモ狹キ畦立耕ニアリテハ谷淺ヒニ除シテ使用最モ困難ヲ生ジ末耕ノ部分ヲ殘スコト多ク握ノ反轉モ亦不良トナリ畦ノ高サモ低ク形成不良ナルタメ重粘土深耕用畦立トシテハ適セズ

即チ本犁ハ不安定ノ形体トナシ一見不便ニ見ユレドモ輕小ニシテ手加減ヲ以テ直チニ深淺ヲ調節シ得ツ、輕鬆ナル土地ノ畦立耕若クハ傾斜地其ノ他普通田地ノ平耕用ニ適ス

以上ニヨリ本縣下重粘地ヲ除ク一般田地ニ平勸用トシテ輕便ナル良犁ト見テ可ナルベシ

第四、大島犁

第五、磯野犁

第六、深見犁

共ニ犁轅ノ先端ハ錢ノ方向ヨリモ右方ニアルガ故ニ耕起ニ際シ犁ヲ直立セシムレバ犁轅ノ方向ハ錢ノ先端ト相一致シ錢面ハ自然左方ニ傾キ耕土ノ切割極メテ佳良ナルタメ其ノ抵抗モ少ナク深耕ニ適ス此ノ點ハ他犁ニ比較シテ一特徴トモ云フベク耕起ノ幅ヲ自由ニ調節スルコトヲ得ルト共ニ使用容易ニシテ深耕ニ堪ヘ粘土地ニ於ケル畦立耕ニモ敢テ困難ナラズ耕盤ハ凹形ニシテ多少末耕土ヲ殘スト雖モ深淺略一定シ耕起不整ナラズシテ一見不安定ナルガ如キモ熟練者ニ於テハ極メテ安定ヲ保チ役畜ノ牽引ニ任セテ意ヲ要セズ使用最モ容易ナリ

依テ縣下全般ノ畦立耕、深耕等ノ目的ヲ以テ使用スルニハ最適ナルト同時ニ他犁ノ困難トスル粘土地ニモ使用ニ適ス

二、水田用中耕除草器ニ關スル試驗

(一) 試驗ノ目的

各種著名ナル人カ用水田中耕除草器ヲ蒐集シ其ノ構造材質ヲ調査シ且ツ實地使用ヲナシ其ノ使用難易並ニ効率ヲ比較シテ實用的ノモノヲ選定セントス

(二) 供試除草器ノ種類

番號	農具名稱	價額	發賣	所
1	腕金貨印中耕除草器	三〇	鳥取縣米子驛日野町	大正農工具株式會社
2	柴田式中耕除草器	三〇	兵庫縣赤穂郡上郡町	柴田農器會
3	サト一式中耕除草器	四〇	神奈川縣愛甲郡厚木町	柳田農器本店
4	谷川式(特)中耕除草器	七〇	鳥取縣米子市	谷川商會本店
5	谷川式(甲)中耕除草器	四〇	全	全
6	河部式中耕除草器	五〇	兵庫縣飾磨郡余部村	河部農蠶具商會
7	田中式中耕除草器	五〇	京都市外瑛瑛町	田中農具商會
8	大野式轉土除草器	五〇	愛媛縣松山市唐人町	大野野辨治
9	セハラ式中耕除草器	一〇	鳥取縣米子市道笑町三	妹原合資會社
10	八郎式田草埋覆器	六〇	長野縣北佐久郡望目町	雨澤商會
11	本庄式中耕除草器	五〇	東京市淺草區駒形町	本庄商會
12	藤原式中耕除草器	八〇	香取郡津宮村第八區	藤原松之助
13	報德式中耕除草器	五〇	大坂市南區櫻川町	報德商會
14	大熊式中耕除草器	五〇	山武郡成東町七七	大熊商會

番號	農具名稱	價額	發賣	所
15	小野寺(複式)中耕除草器	七五〇	山形縣東田川郡新堀	小野寺鐵工場
16	小野寺(單式)中耕除草器	四〇〇	全	全
17	千歲式(複式)中耕除草機	七〇〇	山形縣天童町	山本商會
18	河部式(二番用)除草器	一〇〇	兵庫縣飾磨郡余部村	河部農蠶器店
19	完全除草器	二〇〇	東京市芝區新櫻田町六	東京特許商會
20	青木式除草器	一〇〇	千葉市院內	足立商會
21	大富式除草器	一〇〇	當場	在來農具行
22	藤田式除草器	二〇〇	京都市福知山町	藤田吉兵衛
23	植木式除草器	五〇〇	東京府下淀橋町柏木七二	植木菊庄
24	木の葉形八反取	一〇〇	三重縣桑名郡桑名町	水野庄
25	雁爪	一〇〇	地方在來式トシテ	挿入

(三) 試驗場所

a、濾土供試地トシテ 當場水田部

b、砂土供試トシテ 山武郡增穂村

c、壤土供試地トシテ 山武郡成東町

d、粘土供試地トシテ 夷隅郡國吉町

(四) 試驗成績

前記試驗方法ニ依ツテ得タル成績ヲ示セバ左ノ如シ

番號	農具名稱	重量	反轉狀況	使用輕重	使用難易	作業深淺	耐久力	構造良否
1	腕金貨印中耕除草器	一、四〇〇	最良	輕	易	中	強	良
2	柴田式中耕除草器	一、三〇〇	最良	輕	易	全	全	全
3	サト一式中耕除草器	一、一五〇	最良	輕	易	全	全	全
4	谷川式(特)中耕除草器	一、一四〇	良	稍輕	易	全	全	全
5	谷川式(甲)中耕除草器	一、一三〇	良	稍輕	易	全	全	全
6	河部式中耕除草器	一、四〇〇	稍良	輕重	難	全	中	稍良
7	田中式中耕除草器	一、二〇〇	良	輕	難	全	強	否
8	大野式轉土除草器	一、三〇〇	稍良	輕	易	全	強	良
9	セハラ式中耕除草器	一、一五〇	良	稍輕	易	全	中	稍良
10	八郎式田草埋覆器	一、一八〇	全	最輕	易	淺	弱	良
11	本庄式中耕除草器	一、二〇〇	全	輕	全	中	強	通
12	藤原式中耕除草器	一、二五〇	全	稍重	難	中	強	全
13	報德式中耕除草器	一、三〇〇	良	輕	易	中	強	良
14	大熊式中耕除草器	一、一〇〇	稍良	全	全	中	全	良
15	小野寺(複式)中耕除草器	一、四〇〇	不良	全	全	淺	中	普
16	小野寺(單式)中耕除草器	一、〇〇〇	中	全	全	中	全	全
17	千歳式(複式)中耕除草器	一、五〇〇	中	全	全	淺	全	全

番號	農具名稱	重量	反轉狀況	使用輕重	使用難易	作業深淺	耐久力	構造良否
18	河部式(二番)除草器	〇、三五〇	不良	全	全	最淺	稍弱	良
19	完全除草器	〇、七五〇	不良	全	全	淺	全	普
20	青木式除草器	〇、五〇〇	不良	全	難	全	全	全
21	大富式除草器	一、一〇〇	良	最重	難	深	強	全
22	藤田式除草器	一、〇〇〇	稍良	重	全	全	強	全
23	植木式除草器	〇、六〇〇	中良	中	難	中	中	全
24	木の葉形八反取	〇、五〇〇	不良	重	難	淺	強	全
25	雁爪	〇、三〇〇	最良	重	全	深	全	全

四、一般試驗概評

(甲)中耕除草器  
 中耕除草器ノ種類ハ其ノ數多キモ一般ニ把柄ノ先端ハ前後二個ノ併列セル鬼車ヲ附シ前車ヲ以テ反轉除草ヲ行ヒ後車ヲ以テ埋草整地ヲ行フ如ク製作セリ而シテ鬼車ノ前方ハ浮室又ハ浮板ヲ附シテ深淺ノ度ヲ安定シ且又之レニヨリ稻株ヲ分ケ尙ホ滑走ヲ助長セシムル様構造セリ依テ浮室又ハ浮板ノ上下ニ依リ深淺ヲ調節シ把柄ト器部トノ中間ニ於テ角度ノ調節ヲ行ヒ使用者ノ身長高底ニ應ジテ使用シ易キ様製作セラレタルモノ多シ  
 或ハ鬼車二個ニ加ヘテ最後列ニローラーヲ附設シ除草、埋草ローラー整地等ト兼ネ行フ如ク構造セラレタル藤原式ノ如キモノアレドモ此ノ種ノモノハ相當熟達セル者ニテモ其ノ調節ニ苦シミ勝チニシテ使用重キヲ免カレズ  
 今回試驗ニ供セル前記ノ各式ハ大略其ノ構造相類似シ其ノ効率使用輕重調節工合等特ニ大差ナキモ土壤反轉、使用難易、作業深淺耐久力ノ有無、構造ノ良否等ニツキ之ヲ概許スルニ腕金貨印、サト

一、式、谷川式(特) 大野式、本庄式、報德式等ハ縣下一般ニ於テ使用シ易キモノヲ認メタリ  
 尙又浮室又ハ浮板ヲ缺クモノ及ビ單式ノモノハ何レモ中耕ノ深度淺キ土地ニ適セルモノト云フベク  
 且ツ浮室ヲ有スルモノニテモ八郎式(深淺調節出來ナシ)ノ如キハ其ノ車爪極メテ短カク從ツテ使用  
 ニ輕ク之等モ深度淺キ粘土地等ニ於テハ之ヲ用ユルコトニヨリ除草ノ手數ヲ省クコトヲ得ベシ

(乙) 除草器

一般ニ八反取式ノモノハ何レモ泥土ヲ淺ク起シテ雜草ヲ浮シ且ツ雜草ノ發生ヲ防グヲ目的トシ使用  
 輕キモ中耕ノ目的ヲ達シ難シ

(五) 優良器ノ構造及試驗概評

調査	器名	腕金貨印	サトー式	谷川式(特)	大野式	本庄式	報德式
總重量	柄全形	一貫四〇〇 三、一〇〇	一貫一五〇 三、一〇〇	一貫四〇〇 三、一〇〇	一貫一〇〇 三、三〇〇	一貫〇一〇 三、二八〇	一貫三〇〇 三、〇〇〇
器部	器部	鳥居形	全	全	丁字形	鳥居形	鳥居形
鬼車	鬼車	前後車共六角	全	全	全	全	全
車洞	車洞	前後車共21寸	全	一寸九分	寸	二寸一分	全
爪	爪	前後車共六	全	全	全	全	全

一列内爪數	爪	爪	爪	爪	爪	爪	爪	爪
總數	先ノ形	ノ長サ	ノ長サ	先ノ形	ノ植方	ノ植方	ノ植方	ノ植方
前後車ノ中心距離	有七寸	後前	後前	後前	前千鳥形	前千鳥形	前千鳥形	前千鳥形
浮板ノ有無	有	有	有	有	有	有	有	有

イ、腕金貨印中耕除草器

本器ノ杷柄ハ鳥居形ニシテ其ノ基部ニ帶鐵製框ヲ附先框内ニ二個ノ鬼車ヲ併列シテ前部ニ滑走用舟  
 型浮板ヲ設ケ爪ハ鐵板ヲ切抜キ一列毎ニ一枚トナレリ然カシテ前車ニ三枚ト四枚ノ爪ヲ組ミ合モ千  
 鳥型ト後車ニ三枚宛ヲ直線ニ設ケ合計三十九枚トセリ車軸ハ二色メタルヲ用ユ  
 本器ハ重量輕ク使用輕快ニシテ土壤反轉除草成績共ニ良好ナレドモ其ノ作業稍淺シ且又柄ト器体ノ  
 角度及浮板ノ調節ニ稍不便ナル點アリ

ロ、サト式中耕除草器

全体ノ構造並ニ調節工合前者ト類似セルモノナリ

ハ、谷川式中耕除草器(特號)  
 全体ニ於テ前者ニ類似スレドモ前後車共ニ四枚宛ノ爪ヲ直線型ニ併列シ合計四十八枚ヲ設ケ器体ト  
 柄部ノ角度調節ハ稍便ナルモ浮板ノ構造ニヨリ作業稍不便ナル點アリ

ニ、大野式轉土除草器  
 本器ハ把柄ハ丁字型單柄ニシテ椎材ヲ用ヒ長サ三尺三寸ノ先端ニ丁字型八寸ノ把手ヲ装着シ柄ノ基  
 部ニハ帶鐵ヲ曲ゲテ長方形ノ框ヲ造リ框内ニ個ノ鬼車ヲ併列シ前部ニ淺キ皿形浮板ヲ付シ鬼車ノ胴  
 部ハ樫製六角ニテ前車ニ三角型直線狀ノ長爪一列四枚宛後車ニ同形シテ先端ニ於テ稍曲リタルモノ  
 同數ヲ付シ合計四十八枚ヲ釘着シタリ

尙鬼車ノ軸心ハ鐵心棒ヲ用ヒ軸穴ノ兩端ニ鐵管ヲ取付ケ心棒ヲ通シ回轉ヲ圓滑ナラシメタリ  
 尙後車ノ兩軸端ニ取付ケタル支程把柄基部ノ右側ニ位シ螺子ニ依リ器体ト柄トノ角度ヲ調節シ使用  
 者ノ身長ニ應ジテ自由ニ加減シ得ル様ニシ又浮板ハ後方ニ四段ノ波形窪味ニツケ其ノ段ヲ上下シテ  
 深度ヲ調節シ得ル様構造セリ依テ本器ノ類似品少ナク土壤ノ反轉良好ニ除草モ完全ニ行ハレ相當堅  
 牢ニシテ耐久力ヲ有シ深淺高低等ノ調節便ナルモ單柄ニシテ使用稍不便ナルト共ニ幾分重キヲ免レ  
 ザルコトヲ缺點トス

ホ、本庄式中耕除草器  
 本器ハ前者イ及ビロ等ト同型式ニシテ其ノ使用輕快ナレ共浮板ハ殆ンド固定式ナルニヨリ深淺ノ調  
 節稍不便ナル缺點アリ

ヘ、報德式中耕除草器  
 本器ハ前者ハト同型ニシテ其使用輕快且又土壤ノ反轉良好ニシテ除草成績完全ニ相當耐久力ヲ有シ  
 器体ノ調節並ニ深淺度調節等容易ニ中耕除草兩用ニ適セリ

三、改良農具實演會ニ關スル事項  
 本年度優良農具普及ノ爲メ實演宣傳ヲ施行シタル實演場所並ニ實演狀況ヲ示セバ次ノ如シ

實 演 農 具	公開場外實演			公開場内實演			成 績	
	場 所	回 數	參 觀 人	回 數	技 術 者	當 業 者	公 開 回 數	參 觀 人 數
畜力用原動機(郡市)ニ	二	三	二五〇	二	二	一六〇	五	四二二
畜力耕耘機優良品	一	一	一〇〇	一	五	一〇〇	二	一〇五
畜力用水田除草機	九	二八	五九〇	一	五	一三〇	二九	七二五
畜力用畑中耕機	五	一二	五〇〇	一	二	六三	一三	五七五
元井式螺旋水車	四	四	二〇〇	一	二	二六〇	四	二五〇
苧麻剝皮機	一	一	四〇	二	二	二三〇	三	二九六
人力脫穀器優良品	一	一	一〇〇	二	九	二六〇	二	二六九
人力水田除草器優良品	二	三	二〇〇	一	九	二六〇	三	二〇〇
計	二三	五一	一八三〇	一〇	六九	九四三	六一	二八四二

前記ノ内、畜力原動機元井式水車、苧麻剝皮機ノ如キハ夫々利用ニ適切ナル地方ニ指定作業地トシ  
 テ貸與シ居キ其ノ成績ヲ以テ作業現場ニ於テ公開實演會ヲ開催スルニヨリ其ノ成績優良ナリ尙其ノ  
 他ノ農具ハ常ニ場内ニ陳列シ一般ノ參觀ニ供シタリ

第九 委託試驗



一、水稻系統比較試驗  
場内ニ於テ優良ナルモノト認メタル早生愛國、中生愛國、大和力、上總益、大和錦ノ系統比較試驗ヲ  
縣下ニ委托シ其ノ適地ヲ知リ以テ原種決定ニ資セントセリ  
其ノ結果左ノ成績ヲ見タリ  
イ、中生愛國系統比較試驗  
場所 印旛郡八生村山口 擔當者 諏訪原由藏

系 統 名	出 穂 期	成 熟 期	草 丈	穂 數	玄 米 反 當 收 量
一 六 六 七 七 九 九 地	八、二〇 <sub>日</sub>	一〇、 <sub>月</sub> 五 <sub>日</sub>	三、一四	一〇、 <sub>本</sub> 五	二、八七五
一 六 六 七 七 九 九 地	八、一九	一〇、 <sub>月</sub> 五 <sub>日</sub>	三、三五	一〇、 <sub>本</sub> 五	三、二五〇
一 六 六 七 七 九 九 地	八、二一	一〇、 <sub>月</sub> 五 <sub>日</sub>	三、〇二	一〇、 <sub>本</sub> 五	三、一二五
一 六 六 七 七 九 九 地	八、二四	一〇、 <sub>月</sub> 五 <sub>日</sub>	三、〇五	一〇、 <sub>本</sub> 五	三、一三五
一 六 六 七 七 九 九 地	八、一六	一〇、 <sub>月</sub> 五 <sub>日</sub>	三、〇三	一〇、 <sub>本</sub> 五	三、一〇一
一 六 六 七 七 九 九 地	八、二三	一〇、 <sub>月</sub> 五 <sub>日</sub>	三、〇五	一〇、 <sub>本</sub> 五	三、一七五
一 六 六 七 七 九 九 地	八、二三	一〇、 <sub>月</sub> 五 <sub>日</sub>	三、〇一	一〇、 <sub>本</sub> 五	三、〇〇〇
一 六 六 七 七 九 九 地	八、二三	一〇、 <sub>月</sub> 五 <sub>日</sub>	三、〇七	一〇、 <sub>本</sub> 五	三、〇〇〇
一 六 六 七 七 九 九 地	八、二三	一〇、 <sub>月</sub> 五 <sub>日</sub>	三、〇七	一〇、 <sub>本</sub> 五	三、三四五
一 六 六 七 七 九 九 地	八、二三	一〇、 <sub>月</sub> 五 <sub>日</sub>	三、〇七	一〇、 <sub>本</sub> 五	三、〇〇〇

ロ、大和力系統比較試驗  
場所 君津郡小櫃村 擔當者 宮崎誠司

系 統 名	草	丈	穂	數	玄 米 反 當 收 量
一 二 一 在		二、五〇 <sub>本</sub>	一一、 <sub>本</sub> 八	二、二七四	
一 二 一 在		二、五三	一一、 <sub>本</sub> 一	二、一五五	
一 二 一 在		二、四四	一一、 <sub>本</sub> 三	二、〇六〇	
一 二 一 在		二、四四	一一、 <sub>本</sub> 九	二、〇〇五	
一 二 一 在		二、四八	一一、 <sub>本</sub> 一	一、九四五	
一 二 一 在		二、五一	一一、 <sub>本</sub> 八	二、〇二五	
一 二 一 在		二、五三	一一、 <sub>本</sub> 三	一、九七五	
一 二 一 在		二、四五	一一、 <sub>本</sub> 七	二、二九〇	

系 統 名	草	丈	穂	數	玄 米 反 當 收 量
一 五 五 在		二、九〇	一〇、 <sub>本</sub> 九	二、七一〇	
一 五 五 在		二、八五	一〇、 <sub>本</sub> 九	二、〇五五	
一 五 五 在		二、九三	一一、 <sub>本</sub> 三	二、七四五	
一 五 五 在		二、八六	一一、 <sub>本</sub> 二	二、八七五	

六 方 八 號	二、九五	一、七	二、二一〇
地 方 七 號	二、九一	一、七	二、六八五
五 方 八 號	二、八二	一、一	二、七一五
五 方 八 號	二、八九	一、三	二、六四〇

八、上總溢系統比較試驗  
場所 東葛飾郡福田村西三尾 擔當者 矢口清松

系 統 名	出穗期	刈取日	草丈	穗數	玄米反當收量	ヶ年平均收量
一四一 號	八、七	九、一八	三、三三	八、七	二、二二〇	二、三二一
一四二 號	八、六	九、一八	三、三三	八、四	二、二九〇	二、四一三
一三八 號	八、四	九、一八	三、〇七	八、八	二、二二二	二、三二四
二三二 號	八、九	九、一八	三、二二	八、三	二、三〇四	二、四六〇
三二八 號	八、九	九、一八	三、二七	八、二	二、三一六	二、五〇三
試驗場 在來	八、八	九、一八	三、一八	八、七	二、二九〇	二、二一〇
福田 在來	八、八	九、一八	三、一八	八、二	二、三四六	二、三一三
福 田 在 來	八、八	九、一八	三、一八	八、二	二、三四六	二、三一三

二、早生愛國系統比較試驗  
場所 東葛飾郡富勢村 擔當者 成島勇

系 統 名	出穗期	刈取日	草丈	穗數	玄米反當收量
八二九 號	八、二	九、二四	三、三五	一、五	一、九七五
九二二 號	八、二	九、二四	三、三五	一、二	一、七八八
二五八 號	八、九	九、二四	三、三五	一、三	一、八七五
五二八 號	八、二	九、二四	三、三五	一、二	一、八七五
試驗場 在來	八、二	九、二四	三、三五	一、三	一、八七五
地方 在來	八、二	九、二四	三、三五	一、三	一、八七五
一 號	八、二	九、二四	三、三五	一、三	一、八七五

ホ、大和錦系統比較試驗  
場所 市原郡菊間村菊間 擔當者 植草久藏

系 統 名	出穗期	刈取日	草丈	穗數	玄米反當收量	ヶ年平均收量
八四八 號	八、二	九、二四	三、三五	一、五	一、九七五	一、九七五
二五八 號	八、二	九、二四	三、三五	一、二	一、七八八	一、七八八
五二八 號	八、九	九、二四	三、三五	一、三	一、八七五	一、八七五
試驗場 在來	八、二	九、二四	三、三五	一、三	一、八七五	一、八七五
地方 在來	八、二	九、二四	三、三五	一、三	一、八七五	一、八七五
九〇三 號	八、二	九、二四	三、三五	一、三	一、八七五	一、八七五
四四〇 號	八、二	九、二四	三、三五	一、三	一、八七五	一、八七五
試驗場 在來	八、二	九、二四	三、三五	一、三	一、八七五	一、八七五
地方 在來	八、二	九、二四	三、三五	一、三	一、八七五	一、八七五

二、裸麥品種比較試驗  
安房郡田原村 土屋芳太郎

當場ニテ優良ナル品種ト認メタルモノヲ縣下ニ獎勵スル前提トシテ其ノ適地適種ヲ知ラントシ縣下ニ於テ畑作ノ多キ安房郡田原村ニ其ノ比較試験ヲ委托セリ其ノ成績左ノ如シ

品 種 名	出穂期	成熟期	稈 長 分	藥	反當收量	一升重量	平均收量
鬼 裸	四月八日	五月七日	三、七九	六、七	三、三〇	三七六	三、一九五
穗 長	四月八日	五月七日	三、七九	六、一	三、五九〇	三七六	三、四九
長 毛	四月三日	五月二日	三、九三	七、二	三、六八八	三八五	三、七九二
膝 八	四月三日	五月二日	三、二七	六、四	三、二八六	三八〇	三、六九五

三、小麥神樂種系統比較試驗 東葛飾郡富勢村 成島 治 三  
裸麥ニ於ケルト同様ノ目的ヲ以テ小麥神樂種ノ系統比較試験ヲ東葛飾郡富勢村布施ニ委托セリ其ノ結果ハ左ノ如シ

系 統 名	出穂期	成熟期	稈 長 分	藥	反當收量	一升重量
赤 神 樂 一 六 號	五月四日	六月二〇日	二、九九	一三、四	二、二二三	三八〇
全 神 樂 二 一 號	五月六日	六月二二日	三、〇二	一三、一	二、二九八	三八〇
赤 神 樂 在 來 號	五月四日	六月二〇日	三、〇五	一三、七	二、四八〇	三八〇
赤 達 摩 七 號	五月五日	六月二二日	二、七一	一四、〇	二、三四八	三七五

白 皮 地 方 在 來	五、五	六、二〇	二、五四	一四、二	二、四〇〇	三七八
赤 神 樂 三 〇 號	五、五	六、一九	二、七一	一四、〇	二、五三三	三八〇
白 神 樂 二 一 號	五、五	六、二〇	二、五六	一五、二	二、五五三	三七五
白 神 樂 在 來	五、五	六、二〇	二、五五	一四、八	二、五三三	三七五

四、製粉用小麥品種比較試驗 印旛郡久住村磯部 檜垣榮治郎  
十五品種ニ就キ風土異ナル印旛郡久住村ニ於テ品種比較試験ヲ行ヒタリ其ノ成績次ノ如シ

品 種 名	稈 長 分	藥	反當收量	一升重量	二ヶ年平均收量
達 摩 東 京 錦	三、七五	一、三	二、二九九	三七〇	二、六四一
東 京 錦	三、四二	一、〇	二、三七六	三七〇	二、五九九
白 皮 地 方 在 來	三、三〇	一、四	二、〇一二	三九〇	二、二三四
赤 神 樂 三 〇 號	三、三三	一、九	二、四六七	三六五	二、六五四
赤 神 樂 二 一 號	四、三〇	一、九	二、五三二	三六五	二、六一八
身 拔 號	三、六二	一、三	二、二五九	三六〇	二、一九七
若 槻	四、六〇	一、四	二、五〇〇	三六〇	二、五一三
金 比 羅	四、三八	一、二	二、四八三	三七〇	二、四九七
新 田 早 生	四、一〇	一、三	二、三六三	三六五	二、三四五
ダ 馬 群	四、〇三	一、九	二、三七二	三七〇	二、五〇四

相州	赤賀	志賀	江島	細島
四、〇三	三、六四	三、四七	四、二〇	四、〇〇
一四	一九	一一	一一	二〇
二、三四〇	二、二〇二	二、五四九	二、五一七	二、四一九
三七〇	三七五	三九〇	三七五	三七〇
二、二五二	二、四六〇	二、五三八	二、五七三	—

五、「ザアトウキツケン」及「セラデラ」梨園間作試験  
 コノ二種ノ緑肥ガ梨園ノ間作トシテ適セルヤ否ヤヲ見ルタメニ試験ヲ委托セリ  
 場所 市原郡東海村廿五里區 擔當者 山越秀藏

種 類	全 長	反 當 收 量		三ヶ年平均反當收量	
		生 草 量	乾 草 量	生 草 量	乾 草 量
ザマトウキツケン	六、二〇	一一九、九〇〇	三五、九七〇	一一一、七五七	三一、六二九
セラデラ	三、四三	一四九、六六〇	四一、九〇六	一〇三、一〇八	二七、一三八

梨園間作緑肥トシテ「ザアトウキツケン」ハ收量著シク少ク且ツ害虫ノ隠場所トナルナドノ不利アリ不  
 適當ト認ム「セラデラ」モ大シテ有利ナラズ

六、「ザアトウキツケン」原野堤塘栽培試験  
 「ザマトウキツケン」ノ原野堤塘ニ於ケル栽培成績ヲ知ランガタメニ行ヘル試験ニシテ成績左ノ如シ  
 場所 印旛郡本埜村 擔當者 岩井與四郎

區 名	全 長	反 當 收 量	
		生 草 量	乾 草 量
除草區	四、二五	一一、二五五	二、五五〇
放草區	三、八六	一一、一三五	二、一五〇

當業者ノ評ヲ徴スルニ播種量ヲ多クシ早播スルニ利アリ冬温暖ナル程良好ナルモノノ如シ濕氣少ク  
 シテ排水良好ナルヲ要ス將來堤塘ノ利用上甚ダ有望ニシテ普通刈草ノ五六倍ノ生草量ヲ得

七、「ザマトウキツケン」採種試験  
 「ザマトウキツケン」採種地ハ土質トシテ砂土ハ埴土ト何レガ適當ナルカラ知ラントシ砂土ヲ山武郡片  
 貝村埴土ヲ山武郡源村ニ選ヒ條播點播ノ二區ヲ設ケテ試験セリ  
 擔當者 源村 猪野鐵雄  
 片貝村 飯高 熈

土質	區 名	草丈 (二十本平均)	反 當 子 實 收 量		二ヶ年平均		
			全 量	上 實	上 實	下 實	
砂土	條播	四、八〇	七、七三〇	六、一四〇	一、五九〇	六、七五八	一、五六八
埴土	條播	四、八六	六、二〇〇	五、三六〇	〇、八四〇	四、〇一五	一、二九〇
	點播	四、九一	一一、六〇〇	八、七〇〇	二、九〇〇	九、三九五	四、三五
	點播	五、〇〇	一〇、六〇〇	八、一〇〇	二、五〇〇	九、一三六	三、六一〇

# 化學部

## 第一 一般試驗

甲、夏作之部

### 一、肥料三要素試驗

當場圃場ニ於ケル肥料三要素天然供給量ノ多少ヲ水田ハ水稻中生愛國種ニツキ畑ハ陸稻田優種ニツキ調査シ施肥ノ標準ヲ檢知センガ爲メニ左記試驗區ヲ設ケ一區ノ面積ヲ水田ハ十二坪畑ハ四坪ニ合トシ原地ニ就キ試驗ヲ施行セリ

反當施用成分量	肥料名	施用方法
窒素 全量	硫酸アムモニヤ	半量元肥 半量追肥
磷酸 全量	過磷酸石灰	全量
加里 全量	加石灰	全量
石灰 全量	炭酸石灰	全量
其他各區肥料酸性中和量		

(一) 水田  
試驗區名及其ノ成績左ノ如シ

試驗區	生育調査 (大正十五年 八月廿日現在)		反當 玄米 收量					比率完全區ニ對スル百分比
	草丈	莖數	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	
無肥料區	二、六五	七、三	一、七六一	二、一八三	一、七九〇	二、二八	一、九〇五	九三
無窒素區	二、七四	七、七	一、九八九	二、一三三	一、九三九	一、八七八	一、八八二	九七
無磷酸區	二、五六	七、九	一、八二四	二、九三五	二、一三七	一、九九五	二、〇三二	九七
無加里區	三、二六	二、七	二、八七四	三、一五二	二、九〇〇	二、六七二	二、四二一	九七
完全區	三、一八	三、四	三、〇五七	三、一〇三	二、六五〇	二、七〇三	二、六〇七	一〇〇
完全石灰加用區	三、三三	三、六	—	—	二、六六九	二、八三三	二、五六一	九五

右ノ成績ニ依レバ完全區收量最モ多ク無加里區、完全石灰加用區之ニ次ギ無肥料區、無窒素區、及無磷酸區ハ收量甚シク劣レリ依ツテ當場水田土壤ハ水稻作ニ對シ加里、石灰ノ天然供給量ハ豊富ナルモ窒素及磷酸ハ著シク缺乏セルガ如シ右試驗ハ本年度ヲ以テ繼續五箇年ナルモ更ニ繼續シテ試驗ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

(二) 畑

試驗區	生育調査 (大正十五年 八月廿日現在)		反當 玄米 收量					比率完全區ニ對スル百分比
	草丈	莖數	大正十四年度	大正十五年度	平均	平均	平均	
無肥料區	二、三五	一、八〇	一、〇〇八	〇、五五一	〇、七八〇	—	四四	
無窒素區	二、六八	二、二〇	一、二五三	〇、七一五	〇、九八四	—	五六	

完全	完全	無	無
石灰	全	加	磷
加用區	區	里區	酸區
三、〇八	三、一九	二、九四	二、六五
三九、〇	四三、五	四一、三	二五、八
二、二一三	二、三九二	二、四一一	一、七二八
〇、九二八	一、一三〇	一、〇八一	一、〇二二
一、五七一	一、七六一	一、七四六	一、三七五
八九	一〇〇	九九	七八

右ノ成績ニ依レバ完全區收量最モ多ク無加里區完全石灰加用區無磷酸區ハ順次之ニ相次ギ無肥料區及無窒素區ハ收量甚シク劣レリ依ツテ當場畑土壤ハ陸稻作ニ對シ加里ノ天然供給量ハ豐富ニシテ石灰燐酸ハ之ニ次ギ窒素ハ著シク缺乏セルガ如シサレド僅カニ箇年ノ成績ヲ以テ之ヲ斷定シ難ク更ニ繼續シテ試驗ヲ行ハントス

備考 大正十四年度ハ陸稻生育中降雨適度ニシテ生育良好ナリシニ大正十五年度ハ降雨極メテ少ク可ナリ干害ニ犯サレタルヲ以テ收量著シク減ゼリ

二、肥料三要素適量試驗  
 當場圃場土壤ニ對スル肥料三要素ノ適當ナル配合量ヲ水田ハ水稻ニ就キ畑ハ陸稻ニ就キ調査シ施肥ノ標準量ヲ檢知センタメニ左記試驗區ヲ設ケ水田ハ一區一坪ノ木框ヲ用ヒ木框試驗畑ハ一區ノ面積ヲ三坪五合トシ原地試驗ヲ施行セリ試驗區名及其ノ成績左ノ如シ

(一) 水田(供試品種、中生愛國種)

1	試驗區	反當三要素施用量			生育調査 (大正十五年 八月廿日現在)		大正十五年度 反當玄米收量	順收量
		窒素	磷酸	加里	丈	莖數		
二、一、一、區	二、一、一、區	一貫	一貫	一貫	二、六一	九、九一	二、三三二	一六

18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2
三、五、二、區	三、四、二、區	三、三、二、區	三、二、一、區	三、一、五、區	三、〇、四、區	三、〇、三、區	二、九、二、區	二、八、一、區	二、八、〇、區	二、七、九、區	二、七、八、區	二、七、七、區	二、七、六、區	二、七、五、區	二、七、四、區	二、七、三、區
三	三	三	三	三	三	三	三	三	二	二	二	二	二	二	二	二
五	四	三	二	一	五	四	三	二	一	四	三	二	一	四	三	二
二	二	二	二	二	一	一	一	一	一	二	二	二	二	一	一	一
三、一九	二、九〇	三、一四	三、二〇	三、〇六	三、〇六	三、〇〇	二、八八	三、一一	二、九五	三、〇二	二、八五	二、八六	三、〇八	二、九三	二、八二	三、〇〇
一三、三	一二、〇	一一、〇	一一、三	一〇、七	一二、八	一二、三	一一、六	一一、五	一〇、三	一〇、一	八、八	一〇、五	一三、〇	一一、五	一二、五	一一、三
二、八六八	二、七八二	二、七一九	二、七一九	二、五六八	二、七九〇	三、〇一六	二、五一七	二、八〇五	二、八六八	二、〇〇五	二、四二五	二、三八三	二、八六〇	二、八一二	二、四三〇	二、七七七
二七	〇	九	一	六	一	二	五	二	七	四	五	三	四	三	八	八

右ノ成績ニ依レバ當場圃場ニ於ケル水稻作ニ對シテハ窒素ハ反當二貫多ヨリモ三貫多燐酸ハ四貫多以上配合セルモノ可ナルガ如ク加里ハ一貫及二貫多ノ間ニ大ナル相違ナキガ如シサレド僅カ一箇年ノ

成績ヲ以テ之ヲ斷定シ難ク更ニ繼續シテ試驗ヲ行ハントス  
(二) 畑 (供試品種 田優種)

試 驗 區	反當三要素施用量			生育調査 (大正十五年 八月廿日現在)	反當 玄米收量	順收 位量
	窒素	磷酸	加里			
15	三	三	三	三、〇三	〇、九二五	一八
14	三	二	三	三、二〇	一、〇八一	一六
13	三	五	二	三、四四	一、一六五	一三
12	三	四	二	三、一八	一、一八四	一四
11	三	三	二	三、一六	一、一八一	一四
10	三	二	二	三、〇五	一、〇七一	一七
9	三	五	二	三、一三	一、二五七	一〇
8	三	四	二	三、二一	一、二四二	一〇
7	三	三	二	三、一六	一、四二二	一〇
6	三	二	二	三、二一	一、二五一	一〇
5	三	一	二	三、〇五	一、三二四	一〇
4	三	四	二	三、〇五	一、〇九二	一五
3	三	三	二	三、二一	一、三〇九	一五
2	三	二	二	三、一三	一、三〇九	一五
1	三	一	二	三、一六	一、四二〇	二四

18	17	16
三、四、三、區	三、五、三、區	三、六、三、區
三	三	三
四	五	六
三	三	三
三、二〇	三、三一	三、一一
三七、〇	四五、八	三七、八
一、三〇三	一、二八七	一、一七八
六	七	二

右ノ成績ニヨレバ當場圃場ニ於ケル陸稻作ニ對シテハ窒素反當二貫匁以上磷酸ハ三貫匁以上加里ハ二貫匁内外ヲ配合セシモノ合理的ナルガ如シサレド僅カニ一箇年ノ成績ヲ以テ之ヲ斷定シ難ク更ニ繼續シテ試驗ヲ行ヒ判定セントス

備考 肥料三要素適量試驗ハ本年度ヲ以テ水田ハ第三年目畑ハ第二年目ナルモ從來ノ試驗成績ニ鑑ミ其ノ設計ニ訂正ノ要アルヲ認メ本年度ニ於テ之ヲ訂正セリ依ツテ從來ノ成績ハ之ヲ省略シ本年度ノ成績ノミヲ記載セリ

三、土壤中鹽分含有量ニ依ル稻作被害程度試驗

土壤中鹽分ノ含有量ニ依リ水稻ニ及ボス被害程度ノ如何ヲ檢知セン爲メニ各土壤ニ對シ左記割合ニ鹽化曹達ヲ加用セル試驗區ヲ設ケ「ポット」試驗ヲ施行セリ

- 試驗設計
- (一) 供試土壤 當場畑心土ヲ採リ之ヲ水田狀態トス
  - (二) 肥料 「ポット」當各成分一グラム宛トシ化學肥料ヲ用フ
  - (三) 供試作物品種 水稻中生愛國種
- 試驗區名及其成績左ノ如シ

試 驗 區	風乾土壤ニ對スル鹽化曹達加用量	生 育 調 査		收量調査 (トボツ)		標準區ニ對スル種實收量百 分比
		七月二十日現在	八月二十日現在	全重量	種實量	
1、標準無加用區	—	一、七三	一六 <sup>本</sup> 、二、八三	一七、八	七、〇	一〇〇
2、〇、一〇% 區	〇、一〇%	一、八九	三、二、六九	一一、五	六、三	九〇
3、〇、一、五% 區	〇、一、五%	一、九一	四、二、八八	九	四、四	六三
4、〇、二、〇% 區	〇、二、〇%	一、五六	二、二、八五	七	二、三	三三
5、〇、二、五% 區	〇、二、五%	一、四五	二、八、五	七	二、三	三三
6、〇、三、〇% 區	〇、三、〇%	枯死ス	八月十旬枯死ス	—	—	—

右ノ成績ニヨレバ土壤ノ塩分含量〇、一%ニテモ己ニ稻作ニ被害アリ〇、一五%ニテハ著シク被害アリ〇、二%ニテハ被害甚シ〇、二%以上ヲ含有スルニ至レバ水稻ハ全ク生育シ能ハザルニ至ルガ如シサレセ僅カ一箇年ノ成績ノミニテハ之ヲ斷定シ難ク更ニ繼續シテ試験ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

四、水稻作ニ對スル鹽分被害時期試験

土壤中ニ鹽分ガ侵入スル場合水稻ノ生育中如何ナル時期ニ於テ最モ被害ヲ與フルヤヲ檢知セントメニ左記試験區ヲ設ケ「ボツト」試験ヲ施行セリ

- 試驗設計
- (一) 供試土壤 當場畑心土ヲ採リ之ヲ水田状態トス
  - (二) 肥料 「ボツト」當各成分一グラム宛トシ化學肥料ヲ用ム

(三) 純鹽化曹達加用量 各「ボツト」共土壤ノ含有量〇、三%トナル様ニ加用ス

(四) 供試作物品種 水稻中生愛國種

試驗區名及其成績左ノ如シ

試 驗 區	鹽化曹達加用期日	生 育 狀 況	收量調査 (トボツ)		標準區ニ對スル種實收量百 分比
			全重量	種實量	
1、標準無加用區	無加用	普通 草丈 二尺八寸五分 莖數 二十五本	一九、三	九、一	一〇〇
2、播種前加用區	四月廿五日	發芽セントシテ全部死滅セリ	—	—	—
3、發芽後加用區	五月十日	鹽化曹達施用ノ翌日ヨリ發育不良トナリ五月二十日頃全部死滅	—	—	—
4、活着後加用區	六月廿五日	鹽化曹達施用二三日後ヨリ發育不良トナリ七月八日頃枯死ス	—	—	—
5、七月上旬加用區	七月五日	鹽化曹達施用四、五日後ヨリ發育不良トナリ葉先次第ニ白色トナリ七月廿日頃枯死ス	—	—	—
6、七月中旬加用區	七月十五日	鹽化曹達施用四、五日後ヨリ發育不良トナリ葉先白色トナリ八月十日頃枯死ス	—	—	—
7、七月下旬加用區	七月廿五日	鹽化曹達施用後生育停止シ葉先枯ル	—	—	—
8、八月上旬加用區	八月五日	鹽化曹達施用後生育進行セズ	—	—	—
9、八月中旬加用區	八月十五日	鹽化曹達施用後生育進行セズ出穂遅ル	—	—	—
10、八月下旬加用區	八月廿五日	鹽化曹達施用後大ナル被害ヲ認メザルモ 概多シ	—	—	—



11、九月上旬加用區 九月五日 全 右

一一、二 六、〇 六六

右ノ成績ニヨレバ、塩害ハ水稻ノ生育ノ初期ニ於ケル程被害甚シク後期ニ至ルニ從ヒ被害程度少キガ如ク且ツ水稻ノ發育ノ最盛期以前ニ於テ害ヲ受ケタルモノハ致命的被害ヲ受ケルモ分蘖閉止後（七月下旬以後）ニ於テハ被害程度輕キガ如シ、又塩害ヲ受ケタル玄米ハ概シテ充實不良ニシテ枇如キガ如シ此ノ試験ハ僅カ一箇年ノ成績ナルヲ以テ斷定的結論ヲ下シ難ク更ニ繼續シテ試験ヲ行ク正確ヲ期セントス

五、苗代肥料試験

水稻苗代ニ對スル肥料ノ種類及肥用法ガ苗ノ生育ニ及ボス影響ヲ檢知セン爲メニ左記各種ノ試験ヲ施行セリ

(一)肥料種類及配合試験

苗代肥料トシテ如何ナル種類ノ肥料ガ適當ナルヤ又肥料ヲ單用セルモノト二種又ハ三種ヲ配合セルモノト何レガ適當ナルヤヲ檢知セシ爲ニ左記試験區ヲ設ケ「ポット」試験ヲ施行セリ

試驗設計

- (一)供試土壤 當場水田苗代 表土
  - (二)供試作物品種 中生愛國種
  - (三)播種量 「ポット」當粒二〇〇粒 (坪當約三合)
  - (四)苗代期間 五十四日間(四月二十五日播種六月十七日採集)
- 試驗區名 肥料及其成績左ノ如シ

試驗區	坪當三成分量			生育調査(六月八日現在)			收量調査		
	窒素	磷酸	加里	草丈	葉色	葉幅	葉硬軟	風乾苗 100本重量	比率
1、標準區 硫安過磷酸石灰	100.0	8.0	9.0	8.3	中	廣	硬	5.80	100
2、硫安 單用區	100.0	—	—	7.1	濃	狹	軟	3.46	60
3、大豆粕(篩別) 單用區	100.0	2.3	3.1	6.7	淡	全	硬	3.25	56
4、大豆粕(碎キタルマ) 單用區	100.0	2.3	3.1	7.4	濃	全	中	3.41	59
5、鰵粕 單用區	100.0	4.4	0.6	7.5	中	廣	硬	3.30	57
6、下肥 單用區	100.0	2.3	4.7	7.6	中	中	軟	4.37	75
7、硫安 糞灰區	100.0	—	9.0	7.1	濃	狹	全	3.03	53
8、大豆粕(篩別) 糞灰區	100.0	2.3	8.9	6.9	淡	狹	中	2.66	46
9、鰵粕 糞灰區	100.0	4.4	8.9	6.7	濃	廣	全	3.83	66
10、下肥 糞灰區	100.0	2.3	9.2	7.4	中	中	全	4.10	72
11、大豆粕(篩別) 過磷酸石灰區	100.0	8.3	3.1	7.4	淡	狹	硬	3.99	69
12、大豆粕(篩別) 過磷酸石灰糞灰區	100.0	8.3	8.9	7.2	全	狹	全	4.69	82
13、石灰窒素過磷酸石灰糞灰區	100.0	8.0	9.0	7.5	全	廣	中	4.37	75

右ノ成績ニヨレバ肥料ノ種類トシテハ硫酸アムモニヤ石灰窒素下肥等良好ニシテ大豆粕ハ稍劣レルガ如シ又肥料ハ單用セルモノヨリモ過磷酸糞灰等ヲ配合セシモノ良好ナルガ如ク殊ニ過磷酸石灰ハ苗ノ實質ヲ増スガ如シ標準區(硫酸アムモニヤ、過磷酸石灰、糞灰)ハ生育收量共ニ最モ良好ナリ苗代肥料ハ概シテ速効性肥料効果多ク遲効性肥料ハ效果稍劣ルガ如シ更ニ重ネテ試験ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

備考 大豆粕ヲ施用セル區ハ何レモ五月上旬頃ヨリ苗代面ニ皮ヲ生ジ内部ヨリ發生スル瓦斯ノ爲ニ膨張シ且ツ粉腐敗病ノ如キモノ發生シ苗ノ死滅セルモノアリ

(二) 肥料施用法試驗

苗代肥料ハ之ヲ元肥トスル場合ト何レガ適當ナルヤヲ檢知セシ爲ニ左記試驗區ヲ設ケ「ポット」試驗ヲ施行セリ

試驗設計

凡テ一ノ場合ニ同ジ但シ肥料ハ各區共坪當窒素一〇、〇<sup>々</sup>、磷酸八、〇<sup>々</sup>、加里九、〇<sup>々</sup>トシ且ツ追肥ノ施用時期ハ播種二十日後トス  
試驗區名及其ノ成績左ノ如シ

試 驗 區	生育調査 (六月八日現在)			收量調査	
	草丈	葉色	葉幅	風乾苗本重量	比率
1、硫安全量元肥區	八、三	中	廣	五、八〇	一〇〇
2、大豆粕全量元肥區	七、二	淡	狹	四、六九	八一
3、硫取元肥大豆粕追肥區	九、三	淡	狹	四、四二	七六
4、大豆粕元肥大豆粕追肥區	八、九	中	廣	四、九〇	八四
5、硫安元肥硫安追肥區	九、二	中	中	四、五八	七九
6、大豆粕元肥硫安追肥區	八、一	濃	狹	三、二五	五六
7、大豆粕元肥過磷酸石灰追肥區	八、六	全	中	三、八三	六六
8、大豆粕元肥糞灰追肥區	八、四	淡	廣	四、一五	七二

9、大豆粕全量追肥區	八、二	濃	廣	四、一〇	七一
10、乾鰾全量追肥(撒布)區	七、五	中	狹	三、九四	六八
11、乾鰾全量追肥(挿入)區	七、八	淡	廣	四、二一	七三
12、硫安全量追肥區	八、二	濃	廣	五、七五	九九

右ノ成績ニヨレバ苗代肥料ハ所要量ヲ分施スルヨリモ一回ニ而モ元肥トスルガ可ナルガ如シ窒素質肥料ヲ追肥トスレバ軟弱トナル傾向アリ但シ過磷酸石灰ノ追肥ハ之ニ反シテ硬クナルガ如シ更ニ重ネテ試驗ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

(三) 大豆粕施用時期試驗

備考 大豆粕元肥大豆粕追肥區ハ苗ノ腐敗甚シク苗ノ過半死滅セリ  
苗代肥料トシテ大豆粕ヲ施用スル場合ニ之ヲ早期ニ施ス場合ト遲レテ施ス場合トニ依ツテ苗ノ生育如何ナル影響アルヤヲ檢知セン爲ニ左記試驗區ヲ設ケ「ポット」試驗ヲ施行セリ

試驗設計

供試土壤及、作物品種、播種量、苗代期間等凡テ一ニ同ジ肥料ハ坪當大豆粕一五五<sup>々</sup>、過磷酸石灰三〇<sup>々</sup>、糞灰一三〇<sup>々</sup>ヲ施用シ大豆粕ノ施用時期ヲ左ノ三區ニ分チ試驗セリ  
試驗區名及其成績左ノ如シ

設 驗 區	生育調査 (六月八日現在)			收量調査	
	草丈	葉色	葉幅	風乾苗本重量	比率
1、大豆粕播種時施用區	八、五	淡	廣	三、九四	一〇〇
2、大豆粕播種十日前施用區	八、四	全	全	三、九四	一〇〇

3、大豆粕播種二十日前施用區 八、四 全 全 全 四、四七 一一三

右ノ成績ニ依レバ大豆粕ハ播種前早ク施用セシモノ苗ノ實質ヲ多カラシムルガ如キ成績ヲ示セリ、ザレド一箇年ノミノ成績ヲ以テ之ヲ斷定シ難ク重ネテ試驗ヲ行ヒ正確ヲ期セントス  
備考 大豆粕ヲ播種時施用セルモノハ粗ノ發芽後ニ於テ又十日前ニ施用セルモノハ粗ノ發芽當時ニ於テ大豆粕酸酵ノ爲苗代ノ内部ニ瓦斯發生シ苗代面膨レ上リ且ツ苗腐敗病之ニ伴ヒ多數ノ欠苗ヲ生ゼリ故ニ大豆粕ヲ播種時近クニ施用スルハ是等ノ點ニ於テモ考慮ヲ要スルガ如シ

六、硫酸アムモニヤ施用時期試驗  
水稻ニ對スル硫酸アムモニヤノ適當ナル施用時期ヲ檢知セン爲ニ水稻中生愛國種ニツキ左試驗區ヲ設ケ一區ノ面積ヲ一坪四合三勺トシ原地ニ就キ試驗ヲ施行セリ  
試驗區名及其ノ成績左ノ如シ

試驗區	草		丈		長	莖		數	穗數
	七月	八月	七月	八月		七月	八月		
1 元肥區	九、八四、三六、九	九、三三、三五、九	九、〇三、三三、九	九、〇三、三三、九	五、六	九、八二、八六、〇	二、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇
2 七月上旬追肥區	七、八二、六一、四	二、四四、二七、六	三、〇三、〇三、〇	四、八〇、八二、〇	二、九六、八〇	七、〇七、〇	五、八	七、〇	五、八
3 七月中旬追肥區	八、六四、三六、七	〇、二六、六二、七	七、七四、二九、九	三、四三、四二、四	二、四四、一五、八	二、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇
4 七月下旬追肥區	八、七二、七五、八	三、五九、七三、〇	八、三三、九二、八	三、四三、四二、四	六、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇
5 八月上旬追肥區	八、八三、三六、三	三、三三、三三、三	八、二九、七三、六	三、三三、三三、三	四、〇六、八二、六	二、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇	二、〇二、〇二、〇
6 八月中旬追肥區	七、八三、八六、二	二、二四、四二、四	九、二七、九三、五	五、八六、六	四、四六、六二、六	三、〇一、一、六	九、四九、〇	八、四八、四	八、四八、四

7 八月下旬追肥區 九、七二、九二、七 二、三三、六二、四 〇、二六、八三、一 七、二七、三三、四 八、八二、四、二 三、〇二、四 九、六九、〇 九、八九、二

(ニ) 收量調査 (反當)

試驗區	全重量	玄米重量	玄米容量	一玄升重量	品質	全重量ニ對スル玄米重量比率
1 元肥區	二、五二、〇〇〇	九〇、三〇〇	二、二五二	二、二八四	五等下	三六
2 七月上旬追肥區	二、二二、〇〇〇	八六、七〇〇	二、二五八	二、二八四	五等中	三九
3 七月中旬追肥區	二、二九、〇〇〇	七四、一〇〇	一、九四〇	二、二八二	五等下	三四
4 七月下旬追肥區	二、二九、二〇〇	八一、三〇〇	二、一六二	二、二七六	五等下	三五
5 八月上旬追肥區	二、三〇、七〇〇	八八、五〇〇	二、二八一	二、二八八	五等中	三八
6 八月中旬追肥區	二、三三、〇〇〇	八二、二〇〇	二、一四一	二、二八四	五等上	三五
7 八月下旬追肥區	二、三三、八〇〇	七九、二〇〇	二、〇四一	二、二八八	五等上	三三

右ノ成績ニヨレバ硫酸アムモニヤノ追肥ハ生育ニ於テ草丈ノ伸長ニ對シテハ八月上旬頃迄ニ追肥スベク分蘗ニ對シテハ七月中旬頃迄ヲ有効トシ其以後ニ於テハ反ツテ有効分蘗數ヲ減ズルガ如シ  
又收量ニ對シテハ絶對量ハ元肥區最モ多ク全重量ニ對スル玄米重量比率ハ七月上旬ニ追肥セルモノ最モ多シ而シテ硫酸ノ追肥ヲ八月中旬以後ニ於テ行フ時ハ收量及全重量ニ對スル玄米重量比率ハ次第ニ減少スルモ玄米ノ品質ハ反ツテ向上スルガ如キ結果ヲ示セリサレド僅カ一箇年ノミノ成績ヲ以テ之ヲ斷定シ難ク更ニ重ネテ試驗ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

七、土性別ニ依ル石灰窒素施用量及施用時期ト插秧期關係試驗

砂土及壤土ニ對シ石灰窒素施用量ノ多少ガ石灰窒素施用後插秧期迄ノ間ノ日數ノ多少ニ對シ如何ナル影響ヲ及ボスカヲ檢知セン爲ニ左記試驗區ヲ設ケ「ポット」試驗ヲ施行セリ

試驗設計

(一)供試土壤

壤土ハ當場水田表土

砂土ハ川砂ヲ用フ

中生愛國種

(二)供試作物品種

(三)肥料

石灰窒素五瓦區ハ窒素肥料ノ全量ヲ石灰窒素ニテ施シ二、五瓦區ハ他ノ不足量ノ窒素ヲ硫酸

アムモニヤヲ以テ補フ其他磷酸肥料ハ過磷酸石灰加里肥料トシテハ硫酸加里ヲ施用セリ「ポット」當

三成分量各一グラム宛トス

試驗區名及其成績左ノ如シ

(イ)砂土ニ對スル成績

試驗區	生育調査 (八月廿日現在)		收量		種實重量
	草丈	莖數	全重量	種實重量	
1 二、五瓦 五日前施用區	二、五〇	五、〇	三、四	一、三	
2 五、〇瓦 五日前施用區	插秧後五日目ニ一枯死セリ				
3 二、五瓦 十日前施用區	二、八五	二二、五	二、三、八	六、〇	
4 五、〇瓦 十日前施用區	二、四四	一四、五	一、一、五	五、四	
5 二、五瓦 十五日前施用區	二、九五	一六、〇	一、二、九	五、二	
6 五、〇瓦 十五日前施用區	二、九九	一七、〇	一、二、五	五、八	

ロ、壤土ニ對スル成績

試驗區	生育調査 (八月廿日現在)		收量		種實重量
	草丈	莖數	全重量	種實重量	
1 二、五瓦 五日前施用區	三、一九	二五、五	二二、三	九、一	
2 五、〇瓦 五日前施用區	三、〇	二七、〇	一九、〇	八、四	
3 二、五瓦 十日前施用區	三、〇三	三一、五	一九、八	七、三	
4 五、〇瓦 十日前施用區	二、八九	二八、五	二一、八	九、九	
5 二、五瓦 十五日前施用區	三、〇六	二四、五	二三、六	一一、六	
6 五、〇瓦 十五日前施用區	二、八九	三三、〇	二五、六	一一、九	

右ノ成績ニ依レバ砂土ニ對シテ石灰窒素ヲ插秧前五日前ニ施用スル時ハ著シク被害アリ、多量ヲ施用セシモノハ全ク枯死セリ十日前ニ施用セルモノハ石灰窒素ノ少量ナル場合ハ被害ナキモ多量ナル場合ハ插秧ノ初期ニ於テ被害アリ十五日前ニテハ殆ンド被害ヲ認メズ壤土ニ對シテハ插秧五日前施用區ハ多少被害ヲ認メ殊ニ多量區ノ方被害大ナリシモ十日前施用區ニ於テハ殆ド被害ヲ認メザリキ十五日前施用區ニ於テハ全ク被害ヲ認メザリシコト勿論ナリ故ニ石灰窒素ヲ水稻ニ施用スル場合砂土ニ對シテハ少量ノ場合ハ插秧十日前ニ施用シテ可ナルモ先ヅ十五日前ニ施用スルヲ安全トシ壤土ニ對シテハ少量ノ場合ハ五日前ニ施用シ得ルモノ十以上以前ニ施用シ置クヲ安全トスルガ如シ即チ土性ニヨリテ石灰窒素ノ施用時期ヲ加減スベキ必要アルガ如シサレド僅カ一回ノ試驗成績ヲ以テ之ヲ斷定シ難ク更ニ繼續シテ試驗ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

八、窒素及磷酸ト水稻ノ分蘖トノ關係試驗

窒素肥料及磷酸肥料施用法ノ如何ニヨリ水稻ノ分蘖ニ及ボス影響ヲ檢知セン爲ニ左記試驗區ヲ設ケ「ポット」試驗ヲ施行セリ

試驗設計

- (一)供試 土壤 當場畑心土ヲ用ヒ之ヲ水田狀態トセリ  
「ポット」ハ之ヲ圃場ニ埋メ溫度ノ影響ヲ自然ノ狀態ニ近カラシメタリ
- (二)供試作物品種 水稻中生愛國種
- (三)肥料 硫酸アンモニヤ磷酸曹達硫酸加里ヲ用ヒ  
各成分「ポット」當一グラム宛トス  
元肥區ハ全量ヲ元肥トシ全量追肥區ハ窒素又ハ磷酸ヲ全量ヲ追肥トシ他ハ全量ヲ元肥トシ半量追肥區ハ窒素又ハ磷酸ノ半量ヲ追肥トシ他ハ元肥トセリ

試驗區名及其成績左ノ如シ

試驗區	生育調查 (莖數)												
	七月十日	七月十五日	七月廿日	七月廿五日	八月三日	八月九日	八月十五日	八月廿日	八月廿五日	八月卅日	九月二日	九月九日	九月廿日
1 全量元肥區	七、〇	一〇、〇	一三、〇	一六、〇	一九、〇	二二、〇	二五、〇	二八、〇	三一、〇	三四、〇	三七、〇	四〇、〇	四三、〇
2 七月十日窒素追肥區	九、〇	一二、〇	一五、〇	一八、〇	二一、〇	二四、〇	二七、〇	三〇、〇	三三、〇	三六、〇	三九、〇	四二、〇	四五、〇
3 七月十日磷酸追肥區	八、〇	一一、〇	一四、〇	一七、〇	二〇、〇	二三、〇	二六、〇	二九、〇	三二、〇	三五、〇	三八、〇	四一、〇	四四、〇
4 七月十日磷酸全區	六、五	九、五	一二、五	一五、五	一八、五	二一、五	二四、五	二七、五	三〇、五	三三、五	三六、五	三九、五	四二、五

試驗區	生育調查 (莖數)												
	七月十日	七月十五日	七月廿日	七月廿五日	八月三日	八月九日	八月十五日	八月廿日	八月廿五日	八月卅日	九月二日	九月九日	九月廿日
5 七月廿日窒素追肥區	九、五	一二、五	一五、五	一八、五	二一、五	二四、五	二七、五	三〇、五	三三、五	三六、五	三九、五	四二、五	四五、五
6 七月廿日磷酸追肥區	八、〇	一一、〇	一四、〇	一七、〇	二〇、〇	二三、〇	二六、〇	二九、〇	三二、〇	三五、〇	三八、〇	四一、〇	四四、〇
7 七月廿日磷酸全區	九、五	一二、五	一五、五	一八、五	二一、五	二四、五	二七、五	三〇、五	三三、五	三六、五	三九、五	四二、五	四五、五
8 八月一日窒素追肥區	八、五	一一、五	一四、五	一七、五	二〇、五	二三、五	二六、五	二九、五	三二、五	三五、五	三八、五	四一、五	四四、五
9 八月一日窒素全區	八、五	一一、五	一四、五	一七、五	二〇、五	二三、五	二六、五	二九、五	三二、五	三五、五	三八、五	四一、五	四四、五
10 八月一日磷酸追肥區	六、五	九、五	一二、五	一五、五	一八、五	二一、五	二四、五	二七、五	三〇、五	三三、五	三六、五	三九、五	四二、五
11 八月一日磷酸全區	六、五	九、五	一二、五	一五、五	一八、五	二一、五	二四、五	二七、五	三〇、五	三三、五	三六、五	三九、五	四二、五
12 七月十日窒素追肥區	五、〇	八、〇	一一、〇	一四、〇	一七、〇	二〇、〇	二三、〇	二六、〇	二九、〇	三二、〇	三五、〇	三八、〇	四一、〇
13 七月十日磷酸追肥區	五、〇	八、〇	一一、〇	一四、〇	一七、〇	二〇、〇	二三、〇	二六、〇	二九、〇	三二、〇	三五、〇	三八、〇	四一、〇
14 七月十日磷酸全區	五、〇	八、〇	一一、〇	一四、〇	一七、〇	二〇、〇	二三、〇	二六、〇	二九、〇	三二、〇	三五、〇	三八、〇	四一、〇
15 七月廿日窒素追肥區	六、〇	九、〇	一二、〇	一五、〇	一八、〇	二一、〇	二四、〇	二七、〇	三〇、〇	三三、〇	三六、〇	三九、〇	四二、〇
16 七月廿日磷酸追肥區	四、五	七、五	一〇、五	一三、五	一六、五	一九、五	二二、五	二五、五	二八、五	三一、五	三四、五	三七、五	四〇、五
17 七月廿日磷酸全區	四、五	七、五	一〇、五	一三、五	一六、五	一九、五	二二、五	二五、五	二八、五	三一、五	三四、五	三七、五	四〇、五
18 八月一日窒素追肥區	五、〇	八、〇	一一、〇	一四、〇	一七、〇	二〇、〇	二三、〇	二六、〇	二九、〇	三二、〇	三五、〇	三八、〇	四一、〇
19 八月一日窒素全區	五、〇	八、〇	一一、〇	一四、〇	一七、〇	二〇、〇	二三、〇	二六、〇	二九、〇	三二、〇	三五、〇	三八、〇	四一、〇
20 八月一日磷酸追肥區	六、五	九、五	一二、五	一五、五	一八、五	二一、五	二四、五	二七、五	三〇、五	三三、五	三六、五	三九、五	四二、五
21 八月一日磷酸全區	六、五	九、五	一二、五	一五、五	一八、五	二一、五	二四、五	二七、五	三〇、五	三三、五	三六、五	三九、五	四二、五

二、收量調査

試験區	全重量	種實重量	穗數	一穗ニ於ケル平均種實重量	元肥區ニ對スル種實收量比率	全重量ニ對スル種實收量比率
1 全量元肥區	二七、六	一二、八	一八、五	〇、六九	一〇〇	〇、四六
2 七月十日窒素肥區	一九、〇	八、七	一八、〇	〇、四八	六八	〇、四六
3 七月十日窒素全區	一七、四	八、二	一六、〇	〇、五一	六四	〇、四七
4 七月十日窒素全區	一八、七	八、二	一七、〇	〇、四八	六四	〇、四七
5 七月廿日窒素肥區	一七、五	八、三	二〇、〇	〇、四二	六五	〇、四七
6 七月廿日窒素全區	一九、六	八、八	二〇、〇	〇、四四	六九	〇、四五
7 七月廿日窒素全區	一六、四	七、九	一七、〇	〇、四六	六二	〇、四八
8 八月一日窒素肥區	一六、〇	七、六	一七、五	〇、四三	五九	〇、四八
9 八月一日窒素全區	一七、三	八、五	二一、〇	〇、四〇	六六	〇、四九
10 八月一日窒素全區	一四、九	七、六	一六、五	〇、四六	五九	〇、五一
11 七月十日窒素肥區	二五、四	一二、九	二二、五	〇、五七	一一〇	〇、五一
12 七月十日窒素全區	二二、〇	六、八	二一、〇	〇、三二	五三	〇、三一

試験區	全重量	種實重量	穗數	一穗ニ於ケル平均種實重量	元肥區ニ對スル種實收量比率	全重量ニ對スル種實收量比率
13 七月十日窒素肥區	二〇、三	一〇、二	一八、〇	〇、五七	八〇	〇、五〇
14 七月廿日窒素肥區	二四、三	一一、六	二二、〇	〇、五三	九一	〇、四八
15 七月廿日窒素全區	二三、〇	一一、七	二二、五	〇、五四	九一	〇、五一
16 七月廿日窒素全區	二五、二	一二、八	一六、〇	〇、八〇	一〇〇	〇、五一
17 八月一日窒素肥區	一四、三	七、〇	一九、〇	〇、三六	五五	〇、四九
18 八月一日窒素全區	一七、七	八、〇	一五、〇	〇、五三	六三	〇、四五
19 八月一日窒素全區	二〇、七	一〇、二	一九、〇	〇、五四	八〇	〇、四九

右ノ成績ハ依レバ全量元肥區ノ有効分蘗閉止期日ハ七月廿一日頃ニシテ插秧ノ初期ニ於テ窒素、磷酸何レモ不足スル時ハ分蘗遅レ殊ニ磷酸ノ缺乏ハ分蘗著シク遅ル、ガ如シ

又窒素質肥料ノ追肥ヲ遅レシムル時ハ無効分蘗多ク之ニ反シ磷酸質肥料ヲ追肥スル時ハ無効分蘗ヲ阻止セシムルガ如シ

故ニ水稻ノ移植期ノ遅レタル時ハ磷酸質肥料ヲ増シ又七月廿日以後ニ於テ尙分蘗ノ盛ナル時ハ磷酸質肥料ヲ追肥スルハ有效ナルガ如シ

又收量ニ於テモ窒素質肥料ハ七月廿日頃迄ニ追肥セシヲ可トシ其ノ以後ニ於テハ反ツテ收量ヲ減ズルガ如ク磷酸ハ一部分ヲ元肥トシ他ノ部分ヲ追肥トスル時ハ收量ヲ増シ其ノ追肥時期ハ窒素質肥料ノ施用時期ヨリ遅ル、モ尙有効ナルガ如シサレド僅カ一箇年ノミノ成績ヲ以テ之ヲ斷定シ難ク更ニ繼續シテ試験ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

九、同一肥料ニ依ル乾田(休閒中)ト濕田トノ收量比較試驗  
 冬期休閒中排水セル乾田ト休閒中灌水セル濕田トニ對シ同一ノ肥料ヲ施用シ水稻ヲ栽培シ其ノ收量ヲ比較シ當場水稻耕種上ノ參考ニ資セン爲ニ左記試驗ヲ設ケ一區ノ面積ヲ十二坪トシ原地ニ就キ試驗ヲ施行セリ

試驗設計

- (一)試驗地 乾田 當場水田暗渠排水設置田
- 濕田 當場水田低濕ナル常時灌水田
- (二)供試作物品種 水稻中生愛國種
- (三)肥料

肥料名	反當用量	施用方法			三成分量
		元肥	追肥	肥	
堆肥	二五〇	二五〇	—	—	三五二六〇
大豆粕	一四	一四	—	—	二、九四〇
硫酸アムモニヤ	一〇	—	—	—	二、四九〇
過磷酸石灰	—	—	—	—	—
硫酸加里	—	—	—	—	—

試驗區名及其成績左ノ如シ

試驗區	生育(八月廿)調査(日現在)	收量調査(反當)					品質調査		
		草丈	莖數	全重量	玄米重量	玄米容量			
乾田區	三、〇四	一一、八	二四三、〇〇〇	八五、六三〇	二、二七八	〇、七七五	〇、三五	五等中	三七六
濕田區	三、三三	一一、〇	二四七、五〇〇	九二、五〇〇	二、四四二	〇、八〇四	〇、三七	五等中	三七九

右ノ成績ニヨレバ生育ニ於テ乾田區ハ濕田區ヨリモ草丈短ク分蘗數多ク收量ニ於テハ凡テ濕田區良好ナルガ如シ

備考

此ノ試驗ニ供用セル乾田ハ水滲透甚シク保水力小ナル爲常ニ灌溉水不足シ作付中ハ殆ド連續的ニ灌水セルヲ以テ肥料分ノ流出多ク濕田區ヨリモ肥切レ著シク早カリキ故ニ當場乾田(暗渠排水路設置田)ニ對シテハ濕田ヨリモ肥料ヲ増施スルカ又ハ施肥回数ヲ多クシ少量宛數回ニ分施スル必要アルガ如シ

一〇、大豆ニ對スル肥料三要素及石灰加用試驗  
 當場圃場ニ於ケル大豆作ニ對スル肥料三要素ノ適當ナル配合量及石灰加用ノ要不要ヲ檢知セン爲メニ左記試驗區ヲ設ケ一區ノ面積ヲ一坪トシ原地試驗ヲ施行セリ  
 試驗區名及其成績左ノ如シ

試験區	反當三要素及石灰 <sup>1)</sup> 用量			反當收量		比率
	窒素	磷酸	加里	種實收量	全重量 <sup>1)</sup> ニ對スル種實ノ重量比率	
16	〇、一、二、石灰區	〇、一、二、石灰區	〇、一、二、石灰區	〇、九三八	〇、四〇〇	〇、四〇
15	〇、三、一、石灰區	〇、三、一、石灰區	〇、三、一、石灰區	〇、五八八	〇、二八	〇、二八
14	〇、二、一、石灰區	〇、二、一、石灰區	〇、二、一、石灰區	〇、六六八	〇、三五	〇、三五
13	〇、一、一、石灰區	〇、一、一、石灰區	〇、一、一、石灰區	〇、七六八	〇、四二	〇、四二
12	一、五、二、二、石灰區	一、五、二、二、石灰區	一、五、二、二、石灰區	〇、八三三	〇、三三	〇、三三
11	一、二、二、石灰區	一、二、二、石灰區	一、二、二、石灰區	〇、七六九	〇、三三	〇、三三
10	〇、五、二、二、石灰區	〇、五、二、二、石灰區	〇、五、二、二、石灰區	〇、七六九	〇、三三	〇、三三
9	〇、三、三、石灰區	〇、三、三、石灰區	〇、三、三、石灰區	〇、八三三	〇、三三	〇、三三
8	〇、二、三、石灰區	〇、二、三、石灰區	〇、二、三、石灰區	〇、五五六	〇、二七	〇、二七
7	〇、一、三、石灰區	〇、一、三、石灰區	〇、一、三、石灰區	〇、九一三	〇、四一	〇、四一
6	〇、三、二、石灰區	〇、三、二、石灰區	〇、三、二、石灰區	〇、五五六	〇、二七	〇、二七
5	〇、二、二、石灰區	〇、二、二、石灰區	〇、二、二、石灰區	〇、八六二	〇、三七	〇、三七
4	〇、一、二、石灰區	〇、一、二、石灰區	〇、一、二、石灰區	〇、九〇四	〇、四〇	〇、四〇
3	〇、三、一、石灰區	〇、三、一、石灰區	〇、三、一、石灰區	〇、六五一	〇、二九	〇、二九
2	〇、二、一、石灰區	〇、二、一、石灰區	〇、二、一、石灰區	〇、五八三	〇、二五	〇、二五
1	〇、一、一、石灰區	〇、一、一、石灰區	〇、一、一、石灰區	〇、五六六	〇、二七	〇、二七

17	〇、二、二、石灰區	〇、二、二、石灰區	〇、二、二、石灰區	〇、九七〇	〇、三六、〇〇〇	一、〇一四	〇、四〇
18	〇、三、二、石灰區	〇、三、二、石灰區	〇、三、二、石灰區	〇、九六〇	〇、三八、七〇〇	一、〇九〇	〇、四三
19	〇、一、三、石灰區	〇、一、三、石灰區	〇、一、三、石灰區	〇、七二、〇〇〇	〇、二四、〇〇〇	〇、六七六	〇、三三
20	〇、二、三、石灰區	〇、二、三、石灰區	〇、二、三、石灰區	〇、七八、三〇〇	〇、一八、六〇〇	〇、五二四	〇、二四
21	〇、三、三、石灰區	〇、三、三、石灰區	〇、三、三、石灰區	〇、七六、二〇〇	〇、一八、〇〇〇	〇、五〇七	〇、二三
22	〇、五、二、二、石灰區	〇、五、二、二、石灰區	〇、五、二、二、石灰區	〇、九六、六〇〇	〇、三〇、三〇〇	〇、八五四	〇、三二
23	一、二、二、石灰區	一、二、二、石灰區	一、二、二、石灰區	〇、八三、七〇〇	〇、二〇、七〇〇	〇、五八三	〇、二五
24	一、五、二、二、石灰區	一、五、二、二、石灰區	一、五、二、二、石灰區	〇、七四、一〇〇	〇、一五、三〇〇	〇、四三一	〇、二二

右ノ成績ニヨレバ磷酸加里何レモ反當二貫—三貫ヲ配合シ石灰ヲ加用セルモノノ良好ナルガ如ク窒素ノ加用ハ餘リ良好ナラザルガ如シサレド僅カ一年ノ成績ヲ以テ之ヲ斷定シ難ク更ニ繼續シテ試驗ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

乙冬作之部

一、肥料三要素試驗

當場圃場ニ於ケル肥料三要素天然供給量ノ多少ヲ大麥ニ就キ調査シ施肥ノ標準ヲ檢知センガ爲メニ左記試驗區ヲ設ケ一區ノ面積ヲ四坪八合六勺トシ原地ニ就キ試驗ヲ施行セリ

試驗設計

(一)供試作物品種

大麥關取種

(二)肥料

硫酸アムモニヤ過磷酸石灰硫酸加里ヲ用ヒ三要素ノ割合ヲ反當窒素二〇〇〇磷酸四、〇〇〇加里三、



〇〇トシ此ノ外ニ肥料ノ酸性中和量ノ石灰ヲ加用セリ  
石灰加用區ニハ特ニ反當二十貫ノ肥料石灰ヲ加用セリ  
試驗區名及其成績左ノ如シ

試 驗 區	生育(大正十五年六 月六日現在) 調查	稈長 數(穗一 尺間)	反 當 種 實 收 量			比 率 完全區ニ對 スル百分比
			年 度	年 度	年 度	
1 無 肥 料 區	一、八四	二、五、五	大正十三 度	大正十四 度	大正十五 度	四三
2 無 窒 素 區	一、九四	三、九、八	四、九八〇	三、四〇九	三、〇四四	六七
3 無 磷 酸 區	二、〇〇	三、三、〇	三、七五〇	三、〇〇七	三、四二二	五八
4 無 加 里 區	二、三三	八三、〇	四、九七〇	五、〇〇〇	五、七二八	八九
5 完 全 區	二、五八	八八、五	五、九九〇	五、九七七	五、七〇六	一〇〇
6 完 全 石 灰 加 用 區	二、五三	八六、〇	五、七六〇	五、六三二	六、一七三	九九

右ノ成績ニ依レバ生育、收量共ニ完全區最上位ニシテ完全石灰加用區之ニ次ギ無加里區無窒素區無磷  
酸區ハ順次劣リ無肥料區ハ甚シク劣レリ因ツテ當場畑土壤ノ大麥作ニ對シテ石灰加里ノ天然供給量ハ  
豐富ナルモ磷酸ハ著シク欠乏セルガ如シ而シテ前年度迄ハ無窒素區ハ無磷酸區ヨリモ收量多カリシガ  
今年度ニ於テハ其ノ位置ヲ轉倒セリ是レ此ノ土壤ハ肥料ノ吸收力強キ爲當場設置以前ニ施用セラレタ  
ル窒素ノ殘効繼續セシ爲ナランカ更ニ重ネテ試驗ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

二、肥料三要素適量試驗

當場畑ニ於テ大麥作ニ對スル肥料三要素ノ適當ナル配合量ヲ檢知セン爲メニ左記試驗區ヲ設ケ一區ノ  
面積ヲ四坪ニ合トシ大麥(關取種)ニ就キ原地試驗ヲ施行セリ  
試驗區名及其成績左ノ如シ

試 驗 區	施 反 當 三 要 素 用 量			反 當 種 實 收 量			收 量 順 位
	窒 素	磷 酸	加 里	年 度	年 度	年 度	
1 一、一、五、區	一	一	五	大正十三 度	大正十四 度	大正十五 度	一六
2 一、二、四、區	一	二	四	三、三〇〇	三、九八九	四、三三九	一四
3 一、三、三、區	一	三	三	四、六七〇	四、四九一	四、九四四	二四
4 一、四、二、區	一	四	二	四、七八〇	四、九二九	五、二二八	二
5 一、五、一、區	一	五	一	四、七八〇	四、五〇九	三、九五九	九
6 二、一、四、區	二	一	四	三、〇九〇	三、五九九	三、五五六	一五
7 二、二、三、區	二	二	三	三、七八〇	三、九八五	四、一四三	一三
8 二、三、二、區	二	三	二	四、六九〇	四、六四二	四、六〇四	一五
9 二、四、一、區	二	四	一	四、七六〇	五、六一八	五、七五三	一
10 三、一、三、區	三	一	三	四、〇八〇	四、二〇〇	四、九九一	八
11 三、二、二、區	三	二	二	四、一四〇	四、六六五	四、九〇二	六
12 三、三、一、區	三	三	一	四、二五〇	四、一八四	四、三三八	一〇
13 三、四、〇、區	三	四	〇	三、七七〇	四、一九四	三、九八八	二
14 四、一、一、區	四	一	一	四、三六〇	四、六五二	五、二二八	三

15	五、一、一、區	五	一	三、七、九〇	四、一九四	五、三二七	四、四三四	一七
16	〇、三、三、區	〇	三	四、〇三〇	三、四七一	四、五三六	四、〇二二	一八
17	三、〇、三、區	三	〇	一、〇六〇	〇、七六五	二、一九六	一、三四〇	一七
18	三、三、〇、區	三	〇	三、一七〇	二、六六四	二、二〇四	二、六七九	一七

右ノ成績ニ依レバ當場畑ニ於ケル大麥作ニ對シテハ反當窒素二貫磷酸四貫加里一貫ヲ配合セシモノ最モ收量多ク、一、四、二區之ニ次グリ故ニ窒素ハ二貫内外磷酸四貫以上加里一貫乃至二貫ヲ配合セシモノ合理的ナルガ如シ更ニ繼續シテ試驗ヲ行ヒ正確ヲ期セントス

三、窒素質肥料肥効比較試驗

大麥作ニ對スル左記各種窒素質肥料ノ肥効ヲ比較シ當業者ニ對スル施肥法指導ノ資ニ供セン爲メ左記試驗區ヲ設ケ「ポット」試驗ヲ施行セリ

試驗設計

- (一) 供試土壤 當場畑心土
  - (二) 肥料 「ポット」當成分各一瓦宛トシ磷酸ハ磷酸曹達加里ハ硫酸加里ヲ以テ補足セリ
  - (三) 供試作物品種 大麥關取種
- 試驗區名及其ノ成績左ノ如シ

試驗區	「ポット」當 種 實 收 量				比 率
	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	三年平均	
1、無窒素區	〇、二	〇、五	〇、四	〇、四	一〇〇

無窒素區ニ對スル百分比 硫酸區ニ對スル百分比

2、硫酸アンムニヤ區	七、一	九、二	七、四	七、六	一、九〇〇	一〇〇
3、アムモホース區	一〇、七	九、六	七、六	九、三	二、三二五	一一二
4、石灰窒素區	九、四	七、四	七、八	八、二	二、〇五〇	一〇八
5、智利硝石區	八、一	八、八	七、六	八、二	二、〇五〇	一〇八
6、乾 鰵 區	八、三	九、六	四、七	七、五	一、八七五	九九
7、大 豆 粕 區	七、七	五、四	四、四	五、八	一、四五〇	七六
8、下 肥 區	八、八	八、四	七、六	八、三	二、〇七五	一〇九

右ノ成績ニ依レバ左記各種ノ窒素質肥料中大麥作ニ對シテハ「アムモホース」最モ肥効多ク下肥、石灰窒素智利硝石之ニ次ギ硫酸アムモニヤ、乾鰵ハ稍劣リ大豆粕ハ最モ劣レリ之ニ依ツテ按ズルニ當場圃場土壤ノ如キ火山灰質ノ輕鬆ナル細微土ニ對シテハ大豆粕乾鰵ノ如キ稍遲効性ノ肥料ヨリモ速効性化學肥料ガ効果大ナルベク又同シ化學肥料ノ中ニテモ硫酸アムモニヤノ如キ酸性肥料ヨリモ「アムモホース」ノ如キ中性肥料又ハ智利硝石石灰窒素下肥ノ如キ塩基性肥料ガ効果大ナルガ如シ

四、磷酸質肥料肥効比較試驗

大麥作ニ對スル左記各種ノ磷酸質肥料ノ肥効ヲ比較シ當業者ニ對スル施肥法指導ノ資ニ供セン爲メ左記試驗區ヲ設ケ「ポット」試驗ヲ施行セリ

試驗設計

- (一) 供試土壤 當場畑心土
- (二) 肥料 「ポット」當成分各一瓦宛トシ窒素ハ硫酸アムモニヤ加里ハ碳酸加里ヲ以テ補足セリ

(三) 供試作物品種 大麥關取種  
試驗區名及其ノ成績左ノ如シ

試驗區	「ポット」當種實收量				比 無磷區ニ對 スル百分比	比 過磷區ニ對 スル百分比
	大正十三 年度	大正十四 年度	大正十五 年度	三ヶ年 平均		
1、無 磷 酸 區	〇、八	〇、二	〇、一	〇、四	一〇〇	一〇〇
2、過 磷 酸 石 灰 區	八、三	八、三	七、四	八、〇	二〇〇	一〇〇
3、骨 粉 區	八、二	五、一	七、三	六、九	一、七二五	八六
4、磷 酸 ア ル ミ ナ 區	〇、六	一、一	二、〇	一、二	三〇〇	一五
5、ア ム モ ホ ー ス 區	九、九	八、五	七、六	八、七	二、一七五	一〇九
6、米 糠 區	八、二	二、〇	六、〇	五、四	一、三五〇	六八
7、理 研 磷 酸 三 石 灰 區	六、八	四、二	一、三	一、三	三二五	一六
8、磷 酸 質 「グ ア ノ 區」	六、八	四、二	一、三	一、三	一、三七五	六九
9、磷 礦 粉 區	六、七	二、二	一、一	一、一	一、二二五	五六

右ノ成績ニ依レバ右記各種ノ磷酸質肥料中大麥作ニ對シテハ「アムモホース」最モ肥効大ニシテ過磷酸石灰之ニ次ギ骨粉ハ稍劣リ米糠磷礦粉ハ著シク劣リ理研磷酸三石灰磷酸アルミナハ最モ劣レル成績ヲ示セリ之ニ依ツテ按ズルニ當場圃場ノ如キ火山灰質土壤ニ對シテハ磷酸ハ水溶性磷酸ノ含量多キ磷酸質肥料ガ効果最モ大ニシテ有機質又ハ尙溶性磷酸ハ効果著シク劣ルガ如シ

五、加里質肥料肥効比較試驗

大麥作ニ對スル左記各種ノ加里質肥料ノ肥効ヲ比較シ當業者ニ對スル施肥法指導ノ資ニ供セン爲メ左記試驗區ヲ設ケ「ポット」試驗ヲ施行セリ

試驗設計

- (一) 供試土壤 當場畑心土
  - (二) 肥料 「ポット」當成分各一瓦宛トシ窒素ハ硫酸アムモニヤ磷酸ハ過磷酸石灰ヲ以テ補足セリ
  - (三) 供試作物品種 大麥關取種
- 試驗區名及其ノ成績左ノ如シ

試驗區	「ポット」當種實收量				比 無加里區ニ對 スル百分比	比 硫酸加里區ニ 對スル百分比
	大正十三 年度	大正十四 年度	大正十五 年度	三ヶ年 平均		
1、無 加 里 區	四、一	〇、二	六、一	三、一	一〇〇	三七
2、硫 酸 加 里 區	八、八	九、六	六、六	八、三	二六八	一〇〇
3、木 灰 區	一〇、七	八、八	五、一	八、二	二六五	九九
4、藁 灰 區	七、五	一、一	七、三	八、六	二七七	一〇四

右ノ成績ニ依レバ右記各種ノ加里質肥料中大麥作ニ對シテハ藁灰最モ肥効多ク硫酸加里木灰之ニ次グサレド各種ノ間ニ大ナル差ナシ故ニ經濟的ニハ自給肥料ノ藁灰ヲ使用スルヲ有利トシ若シ右記肥料ヲ全部購入肥料トスル時ハ硫酸加里最モ經濟的ナリ

六、「ザマトウキワケン」ニ對スル肥料試驗  
 綠肥用作物「ザマトウ井ツケン」ニ對スル肥料ノ配合法ヲ檢知セン爲メニ左記試驗區ヲ設ケ當場畑ニ於テ原地試驗ヲ施行セリ  
 試驗區名及其ノ成績左ノ如シ

試 驗 區	反 當 生 草 收 量				無肥料區ニ對スル收量百分 比
	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	三ヶ年平均	
1、無 肥 料 區	九八五、三五〇	九〇〇、〇〇〇	五八八、〇〇〇	八二四、四五〇	一〇〇
2、過磷酸石灰單用區	一、二七、七五〇	一、〇〇、五〇〇	一、〇〇六、〇〇〇	九六八、七五〇	一一八
3、木 灰 單 用 區	一、〇九〇、六五〇	八四六、〇〇〇	八三一、〇〇〇	九二二、五五〇	一一二
4、過磷酸石灰木灰區	九七七、二〇〇	八七一、五〇〇	九七五、〇〇〇	九四一、二三三	一一四
5、無窒素石灰區	一、一四、九五〇	八四〇、〇〇〇	一、一〇一、〇〇〇	一、〇二八、六九〇	一一五
6、完 全 區	一、二〇一、〇〇〇	七九九、五〇〇	一、一四六、〇〇〇	一、〇四九、二〇〇	一二七
7、完全石灰加用區	一、一六二、五〇〇	九三四、五〇〇	一、一八九、〇〇〇	一、〇七二、〇〇〇	一三〇

右ノ成績ニヨレバ當場畑ノ如キ火山灰質土壤ニ於テ「ザマトウ井ツケン」ヲ栽培スルニハ石灰ノ効果相當著シク又窒素ヲ少量加用セルモノ良好ナリ

七、大豆粕施用法試驗

大麥作ニ對スル大豆粕ノ適當ナル施用ハラ檢知シ當業者ニ對スル施肥法指導ノ資ニ供セン爲左記試驗

區ヲ設ケ當場畑ニ於テ原地試驗ヲ施行セリ  
 試驗設計  
 (一)肥料 大豆粕ノ外堆肥硫酸アンモニヤ過磷酸石灰糞灰ヲ施用シ各區共施用量ハ同一ナリ  
 (二)供試作物品種 大麥關取種  
 試驗區及其ノ成績左ノ如シ

試 驗 區	反 當 種 實 收 量				播種時施用區ニ對スル百分比
	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	三ヶ年平均	
1、播種時施用區	四、二七五	三、八四三	四、一八四	四、四五五	一〇〇
2、播種前施用區	五、一〇〇	四、三七七	四、二七一	四、五八三	一一三
3、發芽後施用區	三、六四五	三、二八二	四、〇七九	三、六六九	九一
4、發芽後腐熟施用區	三、七三五	二、八〇一	三、九三七	三、四九一	八六

右ノ成績ニヨレバ同一量ノ大豆粕モ大麥作ニ對シ其ノ施用方法ノ如何ニ依リ收量ニ影響ヲ及ボスモノニシテ普通一般ニ行ハル、如ク播種時ニ大豆粕ヲ施用セズ播種一週間前ニ之ヲ施用シ置ク時ハ收量ニ於テ一割三分ノ增收アリ發芽後施用セルモノハ凡テ收量減ズ

八、過磷酸石灰施用法試驗

大麥作ニ對スル過磷酸石灰ノ適當ナル施用法ヲ檢知シ當業者ニ對スル施肥法指導ノ資ニ供セン爲左記試驗區ヲ設ケ當場畑ニ於テ原地試驗ヲ施行セリ

試驗設計  
 (一)肥料 過磷酸石灰ノ外堆肥大豆粕硫酸アンモニヤ糞灰ヲ用ヒ各ノ施用量ハ各區共同一ナリ  
 (二)供試作物品種 大麥關取種  
 試驗區名及其成績左ノ如シ

試驗區	反當實收量			比率
	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度	
1、全量元肥區	五、三五五	三、八五四	四、〇六五	一〇〇
2、全量追肥區	四、七七〇	三、三三九	三、七三一	八九
3、分施區	五、六七〇	三、五五七	三、八二七	九八
			三ヶ年平均	
			對全量元肥區ニ對スル百分比	

右ノ成績ニ依レバ火山灰質土壤ニ於テハ大麥作ニ對シ過磷酸石灰ヲ全部元肥トシテ施用スルモ殆ド肥料ノ流亡スルコトナク且ツ磷酸肥料ハ大麥生育ノ初期ニ於テモ必要ナル成分ナリ

九、釀造用大麥ニ對スル肥料試驗

肥料ノ成分ガ釀造用大麥ノ收量及品質ニ及ボス影響ヲ檢知セン爲ニ左記試驗區ヲ設ケ一區ノ面積ヲ一坪トシ原地ニ就キ試驗ヲ施行セリ

試驗設計

(一)肥料 硫酸アンモニヤ、過磷酸石灰、硫酸加里ヲ用ヒ標準區ハ反當三成分量、窒素二〇〇〇磷酸二、〇〇〇加里一、〇〇〇トシ増施區ハ各成分ヲ五割増トセリ

(二)供試作物品種 中生、ゴールデン、メロン  
 試驗區名及其成績左ノ如シ

試驗區	反當實收量			比率	品質調査
	全重量	種實重量	種實容量		
1、標準區	三六九、〇〇〇	一二八、一〇〇	四、三一三	〇、三五	二九七
2、無肥料區	一四一、〇〇〇	七七、四〇〇	二五八〇	〇、五五	三〇〇
3、無窒素區	二七〇、〇〇〇	九五、一〇〇	三、二〇二	〇、三五	二九七
4、無磷酸區	二八八、〇〇〇	九五、四〇〇	三、二七八	〇、三三	二九一
5、無加里區	四〇五、〇〇〇	一二八、一〇〇	四、三五七	〇、三二	二九四
6、窒素單用區	二九四、〇〇〇	九四、二〇〇	三、二一五	〇、三七	二九三
7、磷酸單用區	三〇三、〇〇〇	一一〇、七〇〇	三、七〇二	〇、三四	二九六
8、加里單用區	二一九、〇〇〇	七五、〇〇〇	二、九三〇	〇、三二	二九〇
9、窒素増施區	四三八、〇〇〇	一三九、八〇〇	四、八二一	〇、三三	二八九
10、磷酸増施區	四二三、〇〇〇	一三九、八〇〇	四、八三七	〇、三三	二八九
11、加里増施區	三八七、〇〇〇	一二九、六〇〇	四、四五四	〇、三三	二八一
12、窒素磷酸増施區	四六八、〇〇〇	一二五、七〇〇	四、四七三	〇、二七	二八一
13、窒素加里増施區	四五八、〇〇〇	一四四、九〇〇	五、〇一四	〇、三二	二八九

14、磷酸加里増施肥區 四四一、〇〇〇 一三一、七〇〇、四、六〇五 〇、三〇〇 一〇三三 二八六下

右ノ成績ニ依レバ收量ニ於テハ空素、加里増施肥區最モ多ク加里單甲區最モ少シ又全重量ニ對スハ稀實重二割合ハ無肥料區最上位ニシテ空素磷酸増施肥區最下位ナリ品質ニ於テハ磷酸單用區最上位ニシテ磷酸ヲ除ク他ノ増施肥區ハ品質劣ルガ如キ成績ヲ示セリ僅カ一箇年ノ成績ヲ以テ判定シ難ク更ニ繼續シテ試験ヲ行ヒ判定スル所アルベシ  
備考 本試験ニ於テハ更ニ收穫物ニツキ分析試験ヲ行フベキ豫定ナルモ目下其ノ分析施行中ナルヲ以テ本成績ニハ之ヲ記載シ能ハザリシヲ遺憾トス

第二分析

甲、場用分析

種別	點數	成分數
肥料	一五五	二〇三
土壤物	四二	四四
灌漑	四三	三二
農業用品	六九	一四
計	六四	一一

乙、依頼分析

種別	點數	成分數
肥料	一三八	一五二
土壤物	一〇六	一〇九
灌漑	一〇	一〇
計	六五	二二
總數	一三四	三四四

第三 施肥標準調査

縣下各郡ニ亘リ地方的代表土壤若クハ作物ノ生育著シク不良ナル地方又ハ從來ノ施肥慣行法ガ合理的ナラズト認ムル地方ノ土壤ヲ選定シ其ノ性状ヲ研究調査シテ主要農作物ニ就キ施肥ノ標準ヲ查定シ其ノ成績ニ依リ各地ニ於ケル施肥標準ヲ樹テ之ヲ當業者ニ周知セシメ以テ肥料ノ經濟的施用ヲ圖ランガ爲メニ左記項目ニ就キ調査及試験ヲ施行セリ  
本調査ハ本年度ヲ以テ繼續第五年目ナリ

一、施肥慣行調査

東葛飾郡、千葉郡、千葉市、市原郡内各町村ニ依頼シ其ノ町村内ノ代表的箇所ニ就キ麥作ニ對スル施肥慣行狀態其他ヲ調査セリ

二、原地調査

東葛飾郡、千葉郡、千葉市、市原郡内ニ於テ左記十四箇所ノ畑原地ニ就キ調査セリ

(一) 東葛飾郡

二川村、川間村、福田村、柏町、鎌ヶ谷村

(二) 千葉郡、千葉市

檢見川町、犢橋村、白井村、譽田村、千葉市

(三) 市原郡

濕津村、姉ヶ崎町、里見村、戸田村

右ノ内代表土壤選定地名左ノ如シ

(一) 東葛飾郡

川間村大字船形

福田村大字瀬戸ノ内

鎌ヶ谷村大字道野邊

(二) 千葉郡

檢見川町大字稻毛

犢橋村大字長沼

譽田村大字高田

(三) 市原郡

濕津村大字潤井戸  
姉ヶ崎町大字島原  
里見村大字徳氏

郡、栽培試験

(一) 「ポット」栽培試験

〔ポット〕ハ面積一反歩ノ二萬分ノ一ニ相當スル磁製ノモノヲ用フ

イ前記選定土壤ヲ採集シ肥料三要素試験施行ノ準備トシテ其ノ土壤ノ地力ヲ均一ナラシメン爲メト

五年度夏作ニ於テ蕎麥ノ無肥料ノ栽培ヲ施行セリ

ロ大正十二年度ニ於テ選定採集セル君津郡、安房郡、夷隅 十五箇所ノ土壤ニ就キ當場網室内ニ

於テ水稻ニ對スル肥料三要素試験ヲ施行セリ

其ノ成績(三ヶ年平均種實收量比率)左ノ如シ

君津郡

地名 土地性質	試驗年度比率	「ポット」當種實收量				
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區	無肥料區
巖根村	大正十三年度	一三、四	一〇、五	一二、〇	六、九	五、四
高柳	大正十四年度	一六、八	一〇、四	一四、七	四、五	四、五
第四紀新層	大正十五年度	一三、六	一〇、〇	九、八	三、七	四、九
砂質壤土	三ヶ年平均	一四、六	一〇、三	一二、二	五、〇	四、九
	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	七一	八四	三四	三四

地名 土地性質	試驗年度比率	「ポット」當				
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區	
松丘村 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	七八	七八	三二二	二八
大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一五、九	一二、二	一四、六	七、六	七、六
大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一五、九	一四、七	一七、〇	四、九	六、〇
大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一一、九	一一、一	九、一	五、五	五、九
大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一四、六	一二、七	三三、六	六、〇	六、五
大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一〇、〇	八七	九三	四一	四五
岩井村 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一七、二	一一、一	一三、六	六、九	四、七
竹ノ内村 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一七、五	九、八	一七、〇	五、五	五、三
第三紀層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一三、八	九、八	一四、六	四、八	三、五
第三紀層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一六、二	一〇、二	一五、一	五、七	四、五
九村石堂 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一〇、〇	六三	九三	三五	二八
第三紀層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一七、五	一四、七	一一、九	七、八	五、九
第三紀層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一六、二	一五、六	一七、七	七、二	六、五
第三紀層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一四、二	一一、七	一二、八	七、一	六、一
第三紀層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一六、〇	一四、〇	一四、一	七、四	六、二

地名 土地性質	試驗年度比率	「ポット」當				
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區	
中川村 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一四、九	一三、一	一一、二	五、三	五、六
橫田 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一六、六	一三、八	一六、〇	五、〇	五、八
第四紀新層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一二、一	一一、〇	一一、五	六、〇	六、五
第四紀新層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一四、五	一二、六	一二、九	五、四	六、〇
吉野村 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一〇、〇	八七	八九	三七	四一
川野田 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一三、二	一四、五	一三、八	八、一	六、二
第四紀古層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一六、四	一四、九	一四、一	四、〇	四、五
第四紀古層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一一、六	八、九	八、七	五、三	五、四
第四紀古層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一三、七	一二、八	一二、二	五、八	五、四
第四紀古層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一〇、〇	九三	八九	四二	三九
小井村 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一八、六	一四、九	一二、八	九、四	七、九
大井村 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一六、〇	一六、一	一一、八	一〇、一	七、六
第四紀古層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一四、六	一一、六	一一、九	九、三	四、八
第四紀古層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一六、四	一四、二	一二、二	九、六	四、八
第四紀古層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一〇、〇	八七	七四	五九	四一
環和村 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一五、二	一五、二	一三、五	四、七	四、三
東和田 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一五、二	一〇、四	一一、四	三、八	三、七
第三紀層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一一、三	七、二	七、五	四、九	三、八
第三紀層 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一三、九	一〇、九	一〇、八	四、五	三、九
砂質壤土 大正十三年 大正十四年 大正十五年 完全區ニ對スル百分比	完全區ニ對スル百分比	一三、九	一〇、九	一〇、八	四、五	三、九



地名 土質	試驗年度比率	完全區	「ポット」 無加里區	種 實	收 量	無窒素區	無肥料區
總野村 第三紀層 壤質壤土	大正十三年 大正十四年 大正十五年 平均	一六、七 一一、八 一一、四 一〇、〇	一六、〇 一一、三 一一、三 九、二	一三、〇 一四、七 七、一 八、七	六、二 五、〇 四、六 四、〇	六、二 五、〇 四、六 四、〇	五、〇 四、〇 四、二 三、三
西畑村 紙第三紀層 砂質壤土	大正十三年 大正十四年 大正十五年 平均	一五、一 一〇、六 九、四 一一、七	一一、二 八、四 九、五 一〇、〇	一〇、七 九、〇 五、七 八、五	七、一 四、四 四、六 五、四	七、一 四、四 四、六 五、四	四、八 三、六 四、二 四、二
國吉町 刈谷 第三紀層 壤土	大正十三年 大正十四年 大正十五年 平均	一六、七 一七、〇 九、三 一四、三	一二、八 一三、〇 九、六 一一、八	九、九 一二、七 六、〇 九、五	六、一 四、四 五、四 五、三	六、一 四、四 五、四 五、三	四、二 四、〇 五、〇 四、四
大多喜町 船子 第三紀層 壤質壤土	大正十三年 大正十四年 大正十五年 平均	一五、一 一二、六 一二、三 一三、三	一二、九 一三、〇 九、五 一一、八	一四、五 一一、四 九、八 一一、九	五、一 三、四 三、〇 三、八	五、一 三、四 三、〇 三、八	五、〇 二、九 二、三 三、四

地名 土質	試驗年度比率	完全區	「ポット」 無加里區	種 實	收 量	無窒素區	無肥料區
九重村 江田 第三紀層 壤質壤土	大正十三年 大正十四年 大正十五年 平均	一八、三 一八、五 一四、三 一七、〇	一五、〇 一六、二 一二、九 一四、七	一五、二 一四、〇 一一、七 一三、六	六、九 五、四 五、〇 五、八	六、九 五、四 五、〇 五、八	五、六 五、三 五、六 五、五
神戶村 犬石 第四紀新層 砂質壤土	大正十三年 大正十四年 大正十五年 平均	一四、二 一五、四 一二、〇 一三、九	一二、七 一一、二 一一、一 一一、七	一二、三 一二、六 一二、四 一二、四	六、五 四、一 八、二 六、三	六、五 四、一 八、二 六、三	五、七 五、三 六、三 五、八
田原村 來秀 第四紀新層 壤土	大正十三年 大正十四年 大正十五年 平均	一五、六 一四、八 一一、八 一四、一	一三、五 一五、二 八、〇 一二、二	一二、二 一六、四 一〇、三 一三、〇	六、三 四、二 四、四 五、〇	六、三 四、二 四、四 五、〇	五、一 四、一 四、一 四、四
夷隅郡	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	八八	八八	四六	四六	三九

完全區ニ對スル百分比 一〇〇 八九 八九 二九 二六

大正十三年度ニ於テ選定採集セル長生郡、山武郡、匝瑳郡内十五箇所ノ土壤ニ就キ當場網室内ニ於テ水稻作ニ對スル肥料ニ要素試驗ヲ施行セリ  
其成績(ニケ年平均種實收量比率)左ノ如シ

長生郡

地名 土地性質	試驗年度比率	「ポット」當			
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區
太東村	大正十四年度	一一、七	一一、六	一〇、二	三、九
椎木	大正十五年度	一〇、三	一〇、五	九、八	五、一
第四紀新層 砂質壤土	二ヶ年平均	一一、〇	一一、一	一〇、〇	四、五
完全區ニ對スル百分比		一〇〇	一〇〇	九一	四一
西澤村	大正十四年度	一二、一	九、四	九、六	三、九
小澤	大正十五年度	八、七	八、八	五、四	四、九
第三紀層 砂質壤土	二ヶ年平均	一〇、四	九、一	七、五	四、四
完全區ニ對スル百分比		一〇〇	八八	七二	四二
白瀉村	大正十四年度	一二、五	一〇、一	一二、三	三、七
中里	大正十五年度	一一、一	八、六	七、八	三、八
第四紀新層 砂質壤土	二ヶ年平均	一一、八	九、四	一〇、一	三、八
完全區ニ對スル百分比		一〇〇	八〇	八六	三二

地名 土地性質	試驗年度比率	「ポット」當			
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區
茂原町	大正十四年度	一三、四	一二、八	一二、八	三、六
鷺巢	大正十五年度	九、八	一一、四	九、七	三、八
第三紀層 砂質壤土	二ヶ年平均	一一、六	一一、一	一一、三	三、七
完全區ニ對スル百分比		一〇〇	一〇四	九七	三二
長柄村	大正十四年度	一一、六	一〇、二	九、五	四、三
國府里	大正十五年度	九、六	九、四	二、八	三、〇
第三紀層 砂質壤土	二ヶ年平均	一〇、六	九、八	六、二	三、七
完全區ニ對スル百分比		一〇〇	九二	五八	三五

山武郡

地名 土地性質	試驗年度比率	「ポット」當			
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區
大網町	大正十四年度	一五、九	一六、三	一五、〇	六、一
大網	大正十五年度	一一、八	一三、三	九、七	五、三
第四紀新層 壤土	二ヶ年平均	一三、九	一四、七	一二、四	五、七
完全區ニ對スル百分比		一〇〇	一〇六	八九	四一
片貝町	大正十四年度	一三、一	一二、一	一三、八	三、九
片貝	大正十五年度	一〇、二	七、七	一〇、一	四、二
完全區ニ對スル百分比		一〇〇	七七	八一	四二

地名 土地質	試驗年度比率	「ポット」當種實收量			
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區
第四紀新層 砂土	二ヶ年平均	一一、七〇〇	九五	一一、〇三	四、一三五
源布田村	大正十四年度	一三、〇〇〇	一一、八	一一、四	五、五〇
下布田村	大正十五年度	一四、五〇〇	一二、七	一一、六	三、二〇
第四紀古層 壤質砂土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	九二	八三	三三
豐岡村	大正十四年度	一一、三〇〇	一一、八	一一、二	三、六
蕪木村	大正十五年度	一一、一〇〇	一一、九	一一、二	四、〇
第四紀古層 砂質壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	九三	九二	三一
二川村	大正十四年度	一一、二〇〇	一一、〇	一一、二	三、八
小池	大正十五年度	一一、〇〇〇	一一、二	一一、二	四、〇
第四紀新層 砂質壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	七四	九七	四四
横芝町	大正十四年度	一一、〇三三	八、四	七、七	五、〇
横芝	大正十五年度	一〇、七三三	八、五	八、七	三、三
第四紀新層 壤質砂土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	八、八	八、二	四、一

地名 土地質	試驗年度比率	「ポット」當種實收量			
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區
八日市場町	大正十四年度	一一、六〇〇	一〇、七	一一、三	五、七
下富谷	大正十五年度	一〇、九三三	九、七	一〇、五	五、六
第四紀新層 砂質壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	九七	一〇九	五四
野田村	大正十四年度	一〇、六〇〇	一〇、〇	一〇、二	三、四
野手	大正十五年度	八、八〇〇	八、三	八、三	四、〇
第四紀新層 壤質砂土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	九五	九六	三八
椿海村	大正十四年度	一四、七〇〇	一六、五	一四、六	六、八
春海	大正十五年度	一二、〇〇〇	一一、四	七、四	五、五
第四紀新層 壤質砂土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	一〇四	八二	四六
豊畑村	大正十四年度	一五、三〇〇	一二、〇	一三、六	四、六
川口	大正十五年度	九、八〇〇	一〇、二	一一、二	四、四
第四紀新層	二ヶ年平均	一二、六〇〇	一一、一	一二、四	四、五

砂 土 完全區ニ對スル百分比 一〇〇 八八 九八 三六 三四

大正十四年度ニ於テ選定採集シ無肥料栽培ヲ終レル海上郡、香取郡、印旛郡内十五箇所ノ土壤ニ就  
キ當場網室内ニ於テ水稻作ニ對スル肥料ニ要素試験ヲ施行セリ  
其ノ成績(第一年目ノ「ポット」當種實收量比率)左ノ如シ

海上郡

地名 土地性質	試驗年度比率	「ポット」當種實收量			
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區
矢指内村 第四紀新層土	大正十五年 完全區ニ對スル百分比	八、四 <sup>々</sup> 一〇〇	一〇、〇 <sup>々</sup> 一一九	一二、五 <sup>々</sup> 一四九	七、〇 <sup>々</sup> 八三
船木門村 第三紀新層土	大正十五年 完全區ニ對スル百分比	一〇、〇 一〇〇	九、〇 九〇	九、一 九一	四、五 四五
櫻鳴草村 後第四紀新層土	大正十五年 完全區ニ對スル百分比	一〇、七 一〇〇	九、九 九三	一〇、七 一〇〇	四、二 三九
橘名出村 第四紀新層土	大正十五年 完全區ニ對スル百分比	一〇、六 <sup>々</sup> 一〇〇	九、七 <sup>々</sup> 九二	八、一 <sup>々</sup> 七六	四、九 <sup>々</sup> 四六

香取郡

地名 土地性質	試驗年度比率	「ポット」當種實收量			
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區
久賀村 久賀村 第四紀新層土	大正十五年 完全區ニ對スル百分比	一五、〇 一〇〇	一二、七 八五	一〇、三 六九	六、九 四六
府馬町 府馬町 第四紀新層土	大正十五年 完全區ニ對スル百分比	一二、三 一〇〇	一一、九 九七	一四、〇 一一四	六、七 五四
新島村 新島村 第四紀新層土	大正十五年 完全區ニ對スル百分比	一四、〇 一〇〇	一二、〇 八六	一三、一 九四	五、三 三八
高岡岡村 高岡岡村 第四紀新層土	大正十五年 完全區ニ對スル百分比	一五、五 一〇〇	九、四 六一	一二、一 七八	九、八 六三

地名 土地性質	試驗年度比率	「ポット」當				
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區	
第四紀新層土壤質砂	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	九六	八〇	四六	六三
八生田村	大正十五年	一五、六	一六、二	一〇、〇	六、九	七、五
寶砂土層	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	一〇四	六四	四四	四八
曾本根村	大正十五年	一六、四	一六、七	一四、六	六、八	七、六
第四紀新層砂質壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	一〇二	八九	四一	四六
永治塚村	大正十五年	一七、〇	一四、五	一五、四	六、二	七、〇
第四紀新層砂質壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	八五	九一	三六	四一
千代田村	大正十五年	一六、〇	一三、一	一三、九	八、一	八、二
羽田鳥村	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	八二	八七	五一	五一
第四紀新層砂質壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	九、七	九、〇	七、〇	七、一
和田風村	大正十五年	一二、三	九、七	九、〇	七、〇	七、一

富里能村	大正十五年	「ポット」當				
		完全區	無加里區	無磷酸區	無窒素區	
第四紀新層砂質壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	七九	七三	五七	五八
久能村	大正十五年	一一、三	一一、四	一一、五	五、三	六、五
第四紀新層砂質壤土	完全區ニ對スル百分比	一〇〇	八六	九四	四〇	四九

(二) 原地試驗  
 (イ) 肥料試驗  
 大正十一年度ニ於テ土壤ヲ採集シ「ポット」栽培試驗及土壤分析試驗ヲ終リ更ニ大正十四年度ニ於テ原地無肥料栽培ヲ終了セル東葛飾郡千葉郡市原郡内左記十五箇所ノ原地ニ就キ水稻ニ對スル栽培試驗ヲ施行セリ

原地試驗地所在地	地質土性	擔當者
東葛飾郡七福村大字岩名	第四紀新層埴質壤土	大瀧 勇助
東葛飾郡富勢村大字久寺家	第四紀新層埴土	飯田 佐太郎
東葛飾郡風早村大字塚崎	第四紀新層埴土	富澤 英太郎
東葛飾郡馬橋村大字七右衛門新田	第四紀新層埴質壤土	小林 岩松
東葛飾郡行徳町大字田尻	第四紀新層埴土	鈴木 芳三郎
千葉郡睦村大字桑ノ橋	第四紀古層壤土	立石 久兵衛

千葉郡幕張町大字天戸  
 千葉郡更科村大字下泉  
 千葉郡都村大字邊田  
 千葉郡生濱村大字濱野  
 市原郡八幡町大字五所  
 市原郡東海村大字海保  
 市原郡養老村大字山田  
 市原郡高瀧村大字本郷  
 市原郡市東村大字瀨又

第四紀新層壤土  
 第四紀古層壤土  
 第四紀新層植質壤土  
 第四紀新層質砂土  
 第四紀新層壤土  
 第四紀新層砂質壤土  
 第四紀新層砂質壤土  
 第三紀層壤土  
 第四紀古層壤質砂土

湯淺 猪野正夫 高山平 大健源太郎 淺野清吉 田中宗吉 伊藤定次 小宮七郎 時田忠五郎

原地試驗設計梗概

原地試驗地ハ「ポット」試驗並ニ分析試驗ニ供用セル土壤ヲ採集セル箇所又ハ其ノ附近ニ設置シ「ポット」試驗並ニ分析試驗成績ヲ参照シ肥料ノ種類ハ可成其地方ノ慣用肥料又ハ割安肥料ヲ基礎トシ左記五區乃至六區ノ試驗區ヲ設ケ一區ノ面積ヲ十坪乃至三十坪トシ各區ヲ二區制トシ試驗ヲ施行セリ

試驗區名

- 一、地方在來區 其地方ノ慣行肥料配合法ニ依ル
- 二、標準區 其地方慣用肥料ヲ用ヒ「ポット」並ニ分析試驗成績ヲ基礎トシテ配合セシモノ
- 三、標準石灰加用區 右標準區ノ配合量ニ更ニ十壤ノ酸度ニ應ジテ石灰ヲ加用セルモノ
- 四、標準三割増施區 標準區ノ配合ヨリモ各成分ヲ三割増加セルモノ

- 五、標準三割減施區 標準區ノ配合ヨリモ各成分ヲ三割減ジタルモノ
- 六、標準五割減施區 標準區ノ配合ヨリモ各成分ヲ五割減ジタルモノ

但シ此ノ區ハ標準區ノ肥料價額ノ餘リ高價ナル箇所ニノミ設置スルモノトス

栽培管理方法

試驗設置初年度ニ於テハ當場ヨリ直接出張指導シ次年度ヨリハ豫メ各擔當者ニ對シ「施肥標準調査原地試驗擔當者心得書」ヲ配布シ置キ之ニ基キ試驗ヲ施行セシムルト同時ニ當該郡及町村農會ニ依頼シ之ガ指導監督ヲナサシムルモノトス

原地試驗設計並ニ其ノ成績

大正十五年(第一年度)ニ於ケル原地試驗設計並 其ノ成績左ノ如シ

東葛飾郡七福村試驗地

各區反當施肥量及有効三要素量

肥料名	試驗區名	地方在來區	標準區	標準石灰加用區	標準三割減區	標準三割増區
堆肥	肥	一〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
大豆	粕	一〇、五〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一〇、五〇〇	一七、五〇〇
蠶繭	粕	六、〇〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	四、一〇〇	八、七〇〇
硫磺	安	六、〇〇〇	六、二〇〇	六、二〇〇	四、一〇〇	八、七〇〇
過磷酸	酸	六、〇〇〇	一〇、八〇〇	一〇、八〇〇	七、七〇〇	一四、五〇〇







試驗年度比率	反當量				各區反當施肥量及有效三要素量					
	地方在來區	標準區	標準石灰	標準三割減	標準三割增	堆肥	大豆	硫酸	硫酸	有效三要素量
大正十五年 在來區ニ對スル百分比	七八、四〇八 一〇〇	八〇、八五〇 一〇三	七九五四〇 一〇一	八〇、五一九 一〇三	七五、三六〇 九六	三〇〇、〇〇〇	二一〇、〇〇〇	一〇、五〇〇	二、六〇〇	一、一〇〇
試驗成績						二五〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	四、一〇〇	六、九〇〇	一、七〇〇
肥料名						二五〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	四、一〇〇	六、九〇〇	一、七〇〇
試驗區名						二五〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	四、一〇〇	六、九〇〇	一、七〇〇
地方在來區	三〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一〇、五〇〇	二、六〇〇	一、一〇〇	一、一〇〇
標準區	二一〇、〇〇〇	一四、〇〇〇	四、一〇〇	六、九〇〇	一、七〇〇	二、一〇〇	一、八〇〇	一、九〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
標準石灰	七、五〇〇	一、七〇〇	二〇、〇〇〇	一、〇〇〇	二、五〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇
標準三割減	一、〇〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、〇〇〇	一、一〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇
標準三割增	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇

千葉郡更科村試驗地

試驗年度比率	反當量				各區反當施肥量及有效三要素量					
	地方在來區	標準區	標準石灰	標準三割減	標準三割增	堆肥	大豆	硫酸	硫酸	有效三要素量
大正十五年 在來區ニ對スル百分比	一〇一、〇四四 一〇〇	一〇二、八〇〇 一〇二	九九四五九 九八	九七、七五〇 九七	九六、九七四 九六	三〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	一〇、五〇〇	四、二〇〇	一、三〇〇
試驗成績						五〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一〇、八〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇
肥料名						五〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一〇、八〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇
試驗區名						五〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一〇、八〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇
地方在來區	五〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一〇、五〇〇	四、二〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
標準區	二〇〇、〇〇〇	一〇、五〇〇	一〇、八〇〇	一、四〇〇	一、三〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇	一、四〇〇
標準石灰	二、二〇〇	二、四〇〇	五、〇〇〇	〇、九〇〇	一、八〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、七〇〇
標準三割減	〇、七〇〇	二、六〇〇	二、六〇〇	一、八〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇	一、三〇〇
標準三割增	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇	三、一〇〇

千葉郡睦村試驗地

試驗年度比率		反當		米收量		肥料名	試驗區名	地方在來區	標準區	標準區	標準區	標準區	標準區	標準區
大正十五年 在來區ニ對スル 百分	試驗年度比率	地方在來區	標準區	加用區	標準區									
堆肥	三〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	堆肥	三〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
大粕	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	大粕	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇
鯧魚	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	鯧魚	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇	七、〇〇〇
硫酸	七、五〇〇	八、二〇〇	八、二〇〇	八、二〇〇	八、二〇〇	八、二〇〇	硫酸	七、五〇〇	八、二〇〇	八、二〇〇	八、二〇〇	八、二〇〇	八、二〇〇	八、二〇〇
過磷酸	二、〇〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	過磷酸	二、〇〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇	二、二〇〇
硫酸	一、九〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	硫酸	一、九〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
炭酸	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	炭酸	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
有效三要素量	〇、九〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	有效三要素量	〇、九〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇

各區反當施肥量及有效三要素量

試驗成績

試驗年度比率

大正十五年  
在來區ニ對スル  
百分比

反當 米收量

地方在來區

標準區

加用區

標準區

加用區

千葉郡都村試驗地  
各區反當施肥量及有效三要素量

肥料名

試驗區名

地方在來區

標準區

加用區

標準區

加用區

標準區

試驗成績

試驗年度比率

大正十五年  
在來區ニ對スル  
百分

反當 米收量

地方在來區

標準區

加用區

標準區

加用區

標準區

堆肥 一五〇、〇〇〇  
大粕 二一、〇〇〇  
硫酸 五、〇〇〇  
過磷酸 一三、三〇〇  
硫酸 二、六〇〇  
炭酸 一、五〇〇  
有效三要素量 〇、九〇〇

堆肥 二五〇、〇〇〇  
大粕 一四、〇〇〇  
硫酸 八、六〇〇  
過磷酸 一三、三〇〇  
硫酸 二、六〇〇  
炭酸 一、〇〇〇  
有效三要素量 二、〇〇〇

堆肥 二五〇、〇〇〇  
大粕 一四、〇〇〇  
硫酸 八、六〇〇  
過磷酸 一三、三〇〇  
硫酸 二、六〇〇  
炭酸 一、〇〇〇  
有效三要素量 二、〇〇〇

堆肥 二〇〇、〇〇〇  
大粕 一〇、五〇〇  
硫酸 五、六〇〇  
過磷酸 九、二〇〇  
硫酸 一、七〇〇  
炭酸 二、一〇〇  
有效三要素量 一、四〇〇

堆肥 三〇〇、〇〇〇  
大粕 一七、五〇〇  
硫酸 一、七〇〇  
過磷酸 一七、五〇〇  
硫酸 三、五〇〇  
炭酸 三、九〇〇  
有效三要素量 二、六〇〇

堆肥 一五〇、〇〇〇  
大粕 七、〇〇〇  
硫酸 四、一〇〇  
過磷酸 六、六〇〇  
硫酸 一、二〇〇  
炭酸 一、五〇〇  
有效三要素量 一、〇〇〇

堆肥 一五〇、〇〇〇  
大粕 七、〇〇〇  
硫酸 四、一〇〇  
過磷酸 六、六〇〇  
硫酸 一、二〇〇  
炭酸 一、五〇〇  
有效三要素量 一、〇〇〇

千葉郡生濱村試驗地  
各區反當施肥量及有効三要素量

肥料名	試驗區名	試驗年度比率				
		地方在來區	標準區	標準區 加用石灰	標準三割減區	標準三割增區
堆肥	肥	二〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
大豆	粕	三五、〇〇〇	一七、五〇〇	一四、〇〇〇	二一、〇〇〇	一〇、五〇〇
硫酸	安	五、〇〇〇	四、七〇〇	二、六〇〇	六、七〇〇	一、六〇〇
過磷酸	里	二、四〇〇	二、七〇〇	一、八〇〇	三、六〇〇	一、三〇〇
硫酸	加	一、四〇〇	二、三〇〇	一、七〇〇	三、〇〇〇	一、二〇〇
炭酸	室	〇、九〇〇	二、一〇〇	一、六〇〇	二、七〇〇	一、二〇〇
有効三要素量	加	〇、九〇〇	二、一〇〇	一、五〇〇	二、七〇〇	一、〇〇〇
大正十五年 在來區ニ對スル 百分比		一一六、七〇八	一二七、〇九四	一二三、九六六	一三一、二五二	一〇二、四五五
市原郡八幡町試驗地		一〇〇	一〇〇	九八	一一二	八八

各區反當施肥量及有効三要素量

肥料名	試驗區名	試驗年度比率				
		地方在來區	標準區	標準區 加用石灰	標準三割減區	標準三割增區
堆肥	肥	二八、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
大豆	粕	二八、〇〇〇	一七五〇〇	一四、〇〇〇	二一、〇〇〇	一〇、五〇〇
硫酸	安	七、五〇〇	六、二〇〇	三、六〇〇	八、七〇〇	二、六〇〇
過磷酸	里	一、六〇〇	二、三〇〇	一、四〇〇	三、二〇〇	一、一〇〇
硫酸	加	一、六〇〇	二、七〇〇	一、九〇〇	三、五〇〇	一、四〇〇
炭酸	室	一、六〇〇	二、一〇〇	一、五〇〇	二、七〇〇	一、一〇〇
有効三要素量	加	〇、三〇〇	一、九〇〇	一、三〇〇	二、五〇〇	一、〇〇〇
大正十五年 在來區ニ對スル 百分比		七七、九五〇	八七、〇〇〇	八〇、八七八	九〇、八二〇	七六、六八一
市原郡東海村試驗地		一〇〇	一一二	一〇四	一一七	九八

試驗年度比率		反當		米收量		肥料名 試驗區名	各區反當施肥量及有效三要素量												
大正十五年 在來區ニ對スル 百分比	地方在來區	標準區	標準區 加用石灰	標準區 三割減	標準區 三割增		地方在來區	標準區	標準區 加用石灰	標準區 三割減	標準區 三割增	堆肥	大豆	過磷酸	硫酸	炭酸	有效三要素量		
七二、八二九 一〇〇	七八、七九七 一〇八	八一、二二七 一二二	八五、八九〇 一一八	六五、六六二 九〇	七五、四六二 一〇四	堆肥	三五、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	大豆	一、五〇〇	一、〇〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	二、三〇〇	〇、四〇〇	
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	地方在來區	一、五〇〇	一七、五〇〇	一七、五〇〇	一四、〇〇〇	二二、〇〇〇	標準區	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	標準區 加用石灰	二、〇〇〇	二、五〇〇	二、五〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	標準區 三割減	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	標準區 三割減	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	標準區 三割增	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	標準區 五割減	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	標準區 三割增	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇

試驗年度比率		反當		米收量		肥料名 試驗區名	各區反當施肥量及有效三要素量											
大正十五年 在來區ニ對スル 百分比	地方在來區	標準區	標準區 加用石灰	標準區 三割減	標準區 三割增		地方在來區	標準區	標準區 加用石灰	標準區 三割減	標準區 三割增	生紫雲英	大豆	過磷酸	硫酸	炭酸	有效三要素量	
七二、八二九 一〇〇	七八、七九七 一〇八	八一、二二七 一二二	八五、八九〇 一一八	六五、六六二 九〇	七五、四六二 一〇四	生紫雲英	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	大豆	一〇、五〇〇	九、一〇〇	九、一〇〇	九、一〇〇	九、一〇〇	〇、九〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	地方在來區	一〇、五〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	標準區	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇	一、二〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	標準區 加用石灰	一〇、五〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	標準區 三割減	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	標準區 三割減	一〇、五〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	標準區 三割增	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	二〇〇	標準區 五割減	一〇、五〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	一四、〇〇〇	標準區 三割增	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

市原郡高瀧村試驗地

市原郡養老村試驗地

各區反當施肥量及有效三要素量

肥料名	試驗區名	試驗年度比率		地方在來區	標準區	標準石灰	標準三割減	標準三割增
		大正十五年	在來區ニ對スル百分比					
堆肥	肥	五〇〇、〇〇〇	一〇〇	一〇五、五八四	九八、五〇九	九七、一四四	九八、一二四	九三、二五九
紫雲英	英	一五〇、〇〇〇	〇〇〇	一〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
硫酸安	安	三〇〇、〇〇〇	〇〇〇	〇〇	二〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇
過磷酸	磷	七、五〇〇	〇	〇	七、四〇〇	七、四〇〇	五、〇〇〇	九、八〇〇
硫酸	里	一、五〇〇	〇	〇	一、八〇〇	一、八〇〇	一、〇〇〇	二、八〇〇
炭酸	石	一、八〇〇	〇	〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、二〇〇	二、二〇〇
有效三要素量	加	〇、九〇〇	〇	〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、二〇〇	二、二〇〇

市原郡市東村試驗地  
各區反當施肥量及有效三要素量

肥料名	試驗區名	試驗年度比率		地方在來區	標準區	標準石灰	標準三割減	標準三割增
		大正十五年	在來區ニ對スル百分比					
堆肥	肥	一五〇、〇〇〇	一〇〇	一〇五、五八四	九八、五〇九	九七、一四四	九八、一二四	九三、二五九
紫雲英	英	一五〇、〇〇〇	〇〇〇	一〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇	一五〇、〇〇〇
大豆	粕	一〇、五〇〇	〇	〇	一〇、五〇〇	一〇、五〇〇	一〇、五〇〇	一七、五〇〇
硫酸安	安	五、六〇〇	〇	〇	五、六〇〇	五、六〇〇	二、六〇〇	六、七〇〇
過磷酸	磷	八、四〇〇	〇	〇	八、四〇〇	八、四〇〇	五、七〇〇	一一、〇〇〇
硫酸	里	二、〇〇〇	〇	〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、二〇〇	二、七〇〇
炭酸	石	二、二〇〇	〇	〇	二、二〇〇	二、二〇〇	一、五〇〇	二、九〇〇
有效三要素量	加	一、八〇〇	〇	〇	一、七〇〇	一、七〇〇	一、四〇〇	二、六〇〇

(ロ) 原地無肥料栽培  
 大正十二年度ニ於テ選定採集セル君津郡、安房郡、夷隅郡内十五箇所ノ土壤ニ對スル「ポット」栽培  
 試験ハ本年度ヲ以テ繼續第三年目ニ達シ其ノ成績モ略判明セルヲ以テ此ノ成績ニ基キ土壤分枝檢定  
 ノ結果ヲ參考トシテ次年度ヨリ原地栽培試験施行セントスルニ當リ本年度ニ於テハ其ノ準備トシテ  
 試験地ノ地力ヲ均一ナランメンガ爲メ原地ニ就キ水稻ノ無肥料栽培ヲ施行セリ

四、土壤分析檢定

前記本年度ニ於テ選定採集セル東葛飾郡、千葉郡、市原郡内九箇所ノ土壤ニツキ左記分析ヲ施行セリ

- イ、理學的分析
  - ロ、化學的分析
    - (一) 水分定量
    - (二) 有機物定量
    - (三) 酸度測定
    - (四) 窒素及磷酸ニ對スル吸收率檢定
    - (五) 窒素全量—定量
    - (六) 石灰ノ定量
    - (七) 有効性磷酸及加里ノ定量
- 以上

病 虫 部

第 一 病 害

一、蒟蒻ノ病害ニ關スル試驗

(一) 腐敗病

イ、種塊消毒ニ關スル試驗  
 二年生種塊ニ病菌ヲ接種シ感染ヲ認メタル後之レヲ消毒シテ無菌地(燒土)ニ植付ケ發病被害ノ狀  
 態ヲ調査ス

消毒ノ効果アルベシト認メタルモノ左ノ如シ			
昇 汞 水	千倍液	一五分	二〇分 浸漬
ウスブルン	三百倍	二〇分	三〇分 浸漬
フオルマリン	百倍	一〇分	一五分 浸漬
風呂湯浸漬 華氏	一二〇度	三〇分	
風呂湯浸漬 華氏	一二五度	三〇分	

ロ、土壤消毒ニ關スル試驗  
 病菌接種ニヨリ前年發病セシメタル箇所ヲ其儘トナシ置キ本年種々ナル消毒劑ヲ以テ土壤ノ消毒  
 ヲナシ健全種塊ヲ植付ケテ發病被害ノ狀態ヲ調査ス  
 各區發病數極メテ少ク土壤消毒劑ノ効果ヲ比較シ能ハサリシガ前年ノ發病地ニ次年ニ於ケル發病

ハ土壤ノ乾濕等環境ニ支配セラル、コト甚大ナルヲ認メタリ

ハ、藥劑撒布ノ効果ニ關スル試驗

空氣傳染ニヨル發病ヲ藥劑撒布ニヨリテ豫防シ得ルヤ否ヤヲ知ル爲メ健全二年生種塊ヲ植エ發芽後殺菌劑ヲ撒布シテ後之レニ病原菌ノ純粹培養液ヲ撒布シ或ハ病原菌撒布後直ニ或ハ若干時間ヲ經過シタル後藥劑ヲ撒布シテ發病ノ状態ヲ調査ス

一、病菌撒布無處理 全部發病

二、病菌撒布後ニ於テ殺菌劑ヲ撒布セルモノハ何レモ數日間發病時期ノ遅ル、ニ止マリ結局發病ヲ免レス

三、殺菌劑撒布後直ニ病菌ヲ撒布スルモノハ若干發病セサルモノアリシガ數日ヲ經テ病菌ヲ撒布セルモノハ殆ド發病セリ

依テ藥劑撒布ヲナシテ本病菌ノ空氣傳染ヲ豫防スルコト困難ナルガ如シ

但シ種塊ハ昇汞千倍液ニ二十分浸漬シ土壤ハ燒土ヲ用ヒ素燒鉢ニ植付ケ圃地ニ於テ試驗ス

(二) 白絹病

イ、種塊消毒ニ關スル試驗

二年生種塊ニ病菌ヲ接種シ感染ヲ認メタル後之レヲ消毒シテ無菌地(燒土)ニ植付ケ發病被害ノ状態ヲ調査ス

消毒ノ効果アルベシト認メタルモノ

石灰乳(水一斗生石灰五〇〇匁) 二十分並ニ三十分浸漬

昇汞壹千倍液 十五分並ニ二十分浸漬

二斗式石灰ボルドウ液 三時間五時間浸漬

風呂湯浸 華氏百廿度及百廿五度三十分間浸漬

ロ、防除ニ關スル試驗

健全二年生種塊ヲ植付ケ發芽開葉後木灰、生石灰、硫黃華、石灰窒素等ノ藥劑ヲ根際ノ土壤ニ混合シ直ニ病原菌絲並ニ菌核ヲ莖ヨリ二分ノ距離ニ一定量ヲ埋置キ脫脂綿ヲ覆ヒ乾燥ヲ防キ發病被害ノ状態ヲ調査ス有効ト認メラレタルモノ次ノ如シ

生石灰、硫黃華、木灰ヲ混合セルモノ

二斗式石灰ボルドウ液ヲ十日毎ニ四回株際ニ灌注スルモノ

(三) 蒞弱ネマトード豫防ニ關スル試驗

被害土壤ヲ消毒シテ健全種塊ヲ植付ケ或ハ無害土壤ニ被害種塊健全種塊被害部削除性石灰塗沫ノ種塊等ヲ栽植シテ被害状態ヲ調査シ或ハ被害土壤ヲ二硫化炭素、クロールピクリン、鹽化石灰等ヲ以テ消毒シ之レニ健全種塊ヲ植付ケ收穫後種塊ノ被害状態ヲ調査ス

但シ無害土壤ハ燒土、被害土壤ハ被害部ノ細片ヲ土壤ニ混和ス

一、傳染ハ土壤並ニ種塊ニヨリテ行ハル

一、土壤消毒劑トシテ二硫化炭素ハ最モ有効ナリシカ經濟上ヨリ土壤消毒劑ノ使用ハ稍々困難ナルベシ

一、種塊ニヨル傳染ハ被害部分ノ削除ニヨリ相當豫防セララル

二、小麥稈黑穗病豫防ニ關スル試驗

傳染ノ徑路ニ關スル試驗

- 一、病原菌ヲ種子ニ塗布シテ無菌土壤ニ播種スルルキハ發病ス
  - 二、保菌種子(發病多カリシ場所ヨリ採種セル種子)ヲ燒土ニ播種スルトキハ發病ス
  - 三、病原菌ヲ收穫當時或ハ播種當時ニ於テ土壤(燒土)ニ混合シテ健全種子ヲ蒔クトキハ發病ス
  - 四、發病地ニ健全種子ヲ播種スルルキハ發病ス
  - 五、花器接種ヲナシタル種子ハ播種スルモ發病ヲ認メス
- 右ノ結果ニヨリ本病ハ土壤ニテモ種子ニテモ傳染スト認メ得ベシ
- 種子消毒並ニ土壤消毒ニ關スル試驗
- 木框及圃地ニテ試驗ノ結果兩者共無消毒ノ種子ヲ播種スルモノハ發病シ冷水温湯浸法或ハ風呂湯浸シ等ノ種子消毒ヲナシタルモノハ發病セサルヲ以テ種子傳染ハ種子消毒ノ方法ニヨリテ豫防セラルベシ
- サレド木灰、生石灰、石灰窒素等ヲ被害土壤ニ混合シ健全小麥種子ヲ播種シテ試驗セルモノハ燒土ヲ除キ何レモ發病シ土壤消毒劑ノ効果少キヲ示シタルガ消毒區ハ無消毒區ニ比シ發病歩合少カリキ
- 輪作ニ關スル試驗
- 發病シタル土壤ニ一年間大麥ヲ栽培シ次年小麥健全種子ヲ播種セルモノハ發病セルモ其數量甚ダ少ナク二年間大麥ヲ栽培シ三年目小麥健全種子ヲ播種セルモノハ發病ヲ認メズ

三、麥黑穗病豫防ニ關スル試驗

保菌種子(稈黑穗病)ヲ冷水ニ三時間或ハ五時間浸漬後更ニ各温度ノ風呂湯ニ種子ヲ浸漬シテ自然ノ冷却ニ放任シ所定時間浸漬後莖ニ擴ケ乾燥シノ播種シ黑穗發生數ヲ調査ス

風呂湯ノ温度及種子浸漬時間

冷水ニ浸漬時間	風呂湯ノ温度		種子浸漬時間
	一	二	
冷水三時間	一〇〇度	一三〇度	一、〇〇〇 二、三〇〇 二、三〇〇 三、〇〇〇
	一二五度	一四五度	一、〇〇〇 一、〇〇〇
冷水五時間	一〇〇度	一三〇度	一、〇〇〇 一、三〇〇 二、〇〇〇 二、三〇〇 三、〇〇〇
	一二五度	一四五度	一、〇〇〇 一、〇〇〇
冷水六時間	一〇〇度	一三〇度	一、〇〇〇 一、〇〇〇
	一二五度	一四五度	一、〇〇〇 一、〇〇〇
標準無處理	一〇〇度	一三〇度	五分間

右試驗區ヲ以テ一區五坪宛二區制トシ大麥、關取及坊主二種ニツキ試驗セルニ無處理區ハ反當二千百本ノ黑穗ヲ發生セシニ豫防區ハ悉ク黑穗ノ發生ヲ認メサリキ

生育收量等ノ調査ヲ行ヒタルカ各區ノ差異ハ殆ト認ムルコト能ハス

四、野蜀葵菌核病豫防試驗

- 一、各壹貫匁宛ノ根株ヲ木框ニ詰メ一定量ノ病原菌ヲ接種シテ温床ニ入レ藥劑撒布ノ効果ニツキ四回ノ實驗ヲナス
- 一、各廿五株宛ヲ硝子シリンダーニ入レ病菌ヲ接種シ適當ノ水濕ヲ供給シツ、定温室中ニテ藥劑撒布ノ爲メニ受ケル病原菌影響撒布ノ効果、藥害等ニツキ十數回ノ實驗ヲナス



一、純粹培養ノ病原菌ニツキ藥劑ニ對スル抵抗性ヲ試驗ス  
 一、十五株宛ノ根株ヲ種々ナル溫度ヲ有スル定溫室内ニ二四時間四八時間七二時間宛置キ生育上ニ及ス影響ヲ調査ス  
 以上實驗ノ結果ヲ綜合シ次ノ事實ヲ知り得タリ  
 一、藥劑撒布ニヨリ野蜀葵ニ藥害ヲ及ボサル範圍ノ殺菌劑ノ濃度ニアリテハ殺菌力ヲ有セサルモ或ル時間病原菌絲ノ發育ヲ防止スル作用ヲ有ス  
 一、藥劑撒布ノ爲メ病菌ガ發育ヲ防止セラル、時間内ニ更ニ撒布ヲ反覆スルモハ藥劑撒布ノ效果ヲ認メ藥劑撒布ノ間隔カ其發育防止時間ヲ超ユルモハ效果ヲ認メ難キヲ以テ藥劑撒布ハ毎日或ハ少クモ隔日行フコトヲ要ス  
 藥劑ハウスブルス六〇〇倍醋酸九〇〇倍等相當有効ナリ  
 一、根株ハ攝氏三三度以内ニ於テハ生育良好ナレモ三三度ヲ超エテ一晝夜以上ナルモハ生育ヲ害セラ、ヲ以テ促成溫度ハ三三度ヲ超過セサル様警戒ヲ要ス  
 五、土壤消毒劑ノ效果ニ關スル試驗  
 前年木框ニ茄子ヲ植ヘテ之レニ青枯病菌ヲ接種シ發病セルモノヲ其儘トナシ置キ本年ニ至リ石灰窒素生石灰、クロールビクリン、二硫化炭素、木灰、硫黃華等ヲ以テ其位置ノ土壤ヲ消毒シ十五日後茄子苗ヲ移植シテ發病ノ有無ヲ觀察シタルニ發病株少ク土壤消毒劑ノ效果ヲ試驗シ能ハサリキ  
 而シテ茄子青枯病ノ發生ハ其年ニ於ケル土壤ノ乾濕ト環境ニ支配セラル、コト特ニ多キヲ認メタリ  
 六、ビール麥ノ立枯病ニ關スル試驗

木框ニ被害土壤ヲ入レ土壤消毒ノ意味ニ於テ石灰窒素、生石灰、硫黃華、木灰、硫酸鉄等ヲ使用セルモノノ三年間他作物ヲ栽培シ四年目ビール麥ヲ栽培スルモノ、燒土ヲナセルモノ、發病期少シ前ヨク石灰ボルトト液ヲ撒布スルモノ、有機質肥料ヲ使用スルモノ、無機質肥料ヲ使用スルモノ、標準普通肥料等ニ區別シテ試驗セルニ病害ノ發生ナカリシハ燒土及三年間他作物ヲ栽培シタル兩區ノミニシテ他ノ十二區ハ悉ク多少ニ拘ラス發病シ土壤消毒劑ノ使用及殺菌劑撒布ノ效果比較的大ナラサルヲ示セルガ硫酸鉄、生石灰、硫黃華等ヲ施用スルモノ及無機質肥料ヲ用キタルモノ等ハ相當被害程度ノ輕減ニカアルモノノ如シ

區別	方法	春分	立夏	五月六日	發病 成育 効果 等
一、燒土		三七	二九	五八	發病セス
二、石灰窒素	反當一五	五〇	一六五	二九	稍發病生育稍良効果確カナラズ
三、石灰窒素	反當一〇	五五	二二一	三四	全
四、生石灰粉末	反當三〇	四一	二一九	一九	發病著シキ效果ナシ
五、生石灰粉末	反當三〇	四五	二六〇	三二	效果相當
六、硫黃華	反當三〇	四七	二六五	五四	多少發病ヲ認ム效果相當
七、硫黃華	反當三〇	四五	二四三	三九	六區ヨリ稍劣ル
八、木灰	反當三〇	五二	二二五	二九	發病ス 效果ナシ

九、硫 酸 鉄 反當六	六二	一三三	三〇〇	六七	多少發病スルモ生育良好
一〇、三年間他作物本年ビール	五五	一〇八	三〇一	三七	發病セズ
一一、標準普通肥料	五一	九六	二七九	三九	發病ス
一二、無機質肥料	四六	九二	二五五	四七	發病少シ成育可
一三、有機質肥料	五二	一〇六	二三八	四三	發病少シ成育稍良
一四、四斗式過石灰ボルドウ液	五五	一一三	二七〇	五二	發病ス効果確ナラズ

耐病品種ニ關スル試驗

本病ニ對シ抵抗力強シト認メラル、十八種ヲ被害地ニ試作シ發病被害ノ状態ヲ調査セルニ概ネ被害激シクシテ枯死シ三割以上ノ生育株ヲ有セルハ五九號及六三號ノ二種ニ過キサリキ

第一一 害 蟲

一、二化螟虫ニ關スル試驗及調査

イ、發蛾時期調査  
自五月一日至九月末日五ヶ月間苗代及本田ニ誘蛾燈ヲ設置シ誘殺蛾數ヲ調査ス  
第一回ノ蛾ノ發生期間ハ五月十二日ヨリ七月十二日ニ至ル約六十日間ニ亘リ其最盛期ハ六月九日ヨリ六月廿一日ニ至ル二週間ニシテ六月十五日十六日最高ニ達セリ

第二回目ノ蛾ハ八月三日ヨリ九月十日迄約四十日間ニ亘リテ出テ最盛期ハ八月六日ヨリ八月十五日ニ至ル十日間ニシテ此ノ間ノ誘殺數最モ多シ而シテ誘殺蛾ニ於ケル雌雄ノ割合ハ次表ノ如ク常ニ雌雄殆ド同數ナルヲ示セリ

第一回目ノ蛾	誘殺總蛾數	雌	雄
第二回目ノ蛾	四、〇七二 一、九九三	二、〇九五 一、〇〇五	一、九七七 九八八

ロ、浸水ニヨル螟虫脱出其他ニ關スル試驗  
浸水ノ爲メニ幼虫ガ被害莖ヲ脱出スル歩合、死ヲ促サル、程度等ヲ知ラントスルモノニシテ新シキ被害莖各五十株宛ヲ桶ニ入レテ水ヲ葉先迄張リ自然ノ位置ヲ保ツ様ニシ幼虫ノ脱出スル虫數、脱出シ終ル迄ノ時間等ヲ調査スルト共ニ所定時間ヲ經過スレハ直ニ之レヲ取り出シテ切開シ莖中ニ存在スル螟虫ノ生死別頭ヲ調査セシニ別表ノ通り浸水四時間以上ナルトキハ六割以上ノ幼虫ハ脱出シ莖中ニ殘留スル幼虫モ浸水時間長キニ從テ死スルモノ多ク又幼虫ノ脱出ハ大抵浸水後三時間位ノ間ニ行ハル、ガ如シ

區別	浸水時間	脱出虫數	脱出終リノ時間	莖中ニ殘留セル幼虫數	内		脱出歩合
					生	死	
一	一時間	九	二、四分	一五	一三	二	三七、五
二	四時間	二九	二、四分	八	一	七	七四、二
三	七時間	一九	三、〇〇	三	〇	三	五九、四

六	五	四
二四	一五	一〇
一九	一八	一六
三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇〇
一四	九	一
〇	〇	〇
一四	九	一
五七、五	六六、六	五九、二

(大正十五年七月廿五日實施)

ハ、蛹期間ノ浸水ニ關スル試驗  
 蛹期間ノ浸水ニヨリ被害莖中ノ蛹ガ受クル影響ヲ知ラントスルモノニシテ被害莖各廿株宛ヲ桶ニ入レテ水ヲ張り自然ノ位置ヲ保タシメ所定ノ時間ヲ經過シタル時之レヲ取り出シ直ニ切開シテ莖中ニ存在スル蛹ノ生死及頭數ヲ調査シタルニ別表ノ通り二十四時間以上ノ浸水ニヨリ蛹ハ莖中ニ於テ概ネ死スルヲ示セリ(水温ノ最高攝氏三十度)

區別	浸水時間	總蛹數	内譯		備考
			生	死	
5	二四	四	四		殆ト死セルカ如キモ少シ動ク
4	一五	五	一		
3	一〇	三	三		
2	五	六	三		
1	一	三	三		

(大正十五年八月十五日十六日調査)

ニ、脱出虫ノ驅除ニ關スル試驗  
 藥劑撒布ニヨリ脱出虫ヲ驅除スルコトノ可能ナリヤ否ヤヲ知ランカ爲メ三分乃至六分ニ成長シタル

幼虫各二十頭宛ヲポットニ植エタル稻ノ莖葉ニ放チ之レニ各種ノ殺虫劑ヲ噴霧器ヲ以テ撒布シ螟虫ノ生死ヲ調査セリ  
 藥劑トシテハ除虫菊石鹼液(水一斗ニツキ石鹼、除虫菊各二十五匁宛)硫酸ニコチン(五〇〇倍)石油乳劑、除虫菊浸出石油乳劑等ヲ使用セシカ何レモ殺虫歩合低ク接觸劑ノ撒布ニヨリ脱出虫ヲ驅除スルコト可能ナラサルヲ示セリ  
 石油滴下ニヨル試驗ハ石油ノ量多キトキ左表ノ如ク有効ナレトモ反當ニ升乃至三升ノ分量ニテハ殺虫効果少シ

幼虫ノ体長	生存虫	致死時間	
		最短	最長
F	八分	一、五〇	二、一五
E	七分	一、三〇	一、四五
D	六分	五、六	一、二〇
C	五分	四、六	一、〇五
B	三分	二、三	三〇分
A	二分	一、七	二、三分

備考 桶ニ水ヲ入レ坪三勺ノ割合ニテ石油ヲ水面ニ滴下シ此中ニ二分乃至八分ニ至ル發育程度ノ幼虫各十頭宛ヲ入レ致死時間ヲ測定ス

二、稻椿象ニ關スル試驗及調査  
 (一)驅除ニ關スル試驗

稻椿象ニ對スル除虫菊石鹼液ノ殺虫効果ヲ試驗スル爲メ數種ノ石鹼ヲ用キテ種々ナル濃度ノ除虫菊石鹼液ヲ調製シ成虫ニ撒布シテ生死歩合ヲ調査ス

實驗一、

區別	藥劑撒布ノ時間	藥劑ノ處方	頭供數試	死	生	死	生	死	生	合死亡歩%
區別	八月十六日午後三時一五分	水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇	二〇	七月午後四時調査		七月午後四時調査		七月午後四時調査		九五
				死	生	死	生	死	生	
				九	一	一	一	一	一	
				六	四	六	一	六	一	
區別	八月十七日午前十一時	水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇	二〇	八月十七日午前十一時		八月十七日午前十一時		八月十七日午前十一時		九五
				死	生	死	生	死	生	
				九	一	一	一	一	一	
				六	四	六	一	六	一	
區別	八月十七日午前十一時	水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇	二〇	八月十七日午前十一時		八月十七日午前十一時		八月十七日午前十一時		九五
				死	生	死	生	死	生	
				九	一	一	一	一	一	
				六	四	六	一	六	一	
區別	八月十七日午前十一時	水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇	二〇	八月十七日午前十一時		八月十七日午前十一時		八月十七日午前十一時		九五
				死	生	死	生	死	生	
				九	一	一	一	一	一	
				六	四	六	一	六	一	

實驗三、

區別	藥劑撒布時間	藥劑ノ處方	頭供數試	死	生	死	生	死	生	合死亡歩%
區別	八月廿日午前一一三〇	水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇	二〇	八月廿日午前一一三〇		八月廿日午前一一三〇		八月廿日午前一一三〇		四五
				死	生	死	生	死	生	
				九	一	一	一	一	一	
				六	四	六	一	六	一	
區別	八月廿日午前一一三〇	水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇	二〇	八月廿日午前一一三〇		八月廿日午前一一三〇		八月廿日午前一一三〇		四五
				死	生	死	生	死	生	
				九	一	一	一	一	一	
				六	四	六	一	六	一	
區別	八月廿日午前一一三〇	水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇	二〇	八月廿日午前一一三〇		八月廿日午前一一三〇		八月廿日午前一一三〇		四五
				死	生	死	生	死	生	
				九	一	一	一	一	一	
				六	四	六	一	六	一	
區別	八月廿日午前一一三〇	水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇	二〇	八月廿日午前一一三〇		八月廿日午前一一三〇		八月廿日午前一一三〇		四五
				死	生	死	生	死	生	
				九	一	一	一	一	一	
				六	四	六	一	六	一	

實驗四、

區別	藥劑撒布時間	藥劑ノ處方	頭供數試	死	生	死	生	死	生	合死亡歩%
區別	八月廿日午前一一三〇	水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇 水一斗除虫菊三〇〇	二〇	八月廿日午前一一三〇		八月廿日午前一一三〇		八月廿日午前一一三〇		四五
				死	生	死	生	死	生	
				九	一	一	一	一	一	
				六	四	六	一	六	一	